

個別報告入力要領

治療患者の登録は、毎年、前年1月1日から12月31日の間に治療を開始した患者につき、以下の原則に従って行う。

(1) 子宮頸部に原発した悪性腫瘍で、組織学的に確認されたもののみを報告する。治療開始日は、子宮頸がん治療を開始した年月日とする。

(2) 子宮頸部と体部に同時に癌が認められ、原発部位を臨床検査あるいは術後組織検査で明確に決定できない場合は、その組織が扁平上皮癌であれば子宮頸癌に、腺癌であれば子宮体癌に分類する。

(3) 子宮頸部と腔壁に連続して癌が認められ、外子宮口に達していれば子宮頸癌に分類する。また外子宮口に達していない場合、その原発部位は病巣の占居範囲の大きさなどを参考にして決定する。

(4) 診断のみを行い治療を行わなかった症例、試験開腹のみを行いそれ以後に子宮頸癌に対する治療をまったく行わなかった症例、診断が最終的に細胞診のみによって下された場合は報告より除外する。

(5) 日産婦2020/FIGO2018分類では臨床所見に加え、MRIやCT、PET-CTなどの画像診断、生検や手術摘出標本の病理学的所見を加味して、腫瘍の進展度合いや腫瘍サイズ、リンパ節転移の評価について、総合的に判断することとなった。

またFIGO2018に準拠したUICCによるTNM分類（Cervix Uteri TNM 2021）がオンラインで公開されており、UICC第9版として正式に採用されるとみられているが、病理診断書に記載する場合はCervix Uteri TNM 2021に準拠している旨を記載することが望ましい。なおCervix Uteri TNM 2021では子宮漿膜、付属器への転移をM1としており、進行期分類（日産婦2020、FIGO2018）と乖離していることに注意を要する。

(6) 間質浸潤の浅い腫瘍径の大きな腫瘍については、腫瘍の頂点から浸潤先端部までの距離、すなわち腫瘍の厚さ(tumor thickness)を腫瘍登録の任意項目として追加する。ICCRでは外向性発育を主体とする場合、厚みを進行期に反映させているが、本邦ではFIGOの見解に則る。

【登録コード】

code No

1	新規報告患者（追加したい患者）
2	既報告患者の内容変更
3	既報告患者の削除

(1) 従来“Ch”群とされた症例については、TNM分類など必要事項を入力し、備考2欄にその旨を入力する。

【患者No.】

自動表示（CC20XX-から始まる番号）

【年齢】

治療開始時点での満年齢を入力する。

【進行期分類の選択】

code No

1	手術により進行期を決定した症例
2	治療開始前に進行期を決定した症例（根治的放射線療法、術前化学療法・術前放射線療法実施例など）

(1) 術前に放射線治療や化学療法を施行した症例は「治療開始前に進行期を決定した症例」となり、備考1欄にypTNM分類を手術時所見に即して入力する。

【進行期分類】

1. FIGO分類（日産婦2020、FIGO2018）

code No

10	I 期（亜分類不明）
11	IA1 期
12	IA2 期
13	IA 期（亜分類不明）
14	IB1 期
15	IB2 期
152	IB3 期
16	IB 期（亜分類不明）
20	II 期（亜分類不明）
21	IIA1 期
22	IIA2 期
23	IIA 期（亜分類不明）
24	IIB 期
30	III 期（亜分類不明）
31	IIIA 期
32	IIIB 期
33	IIIC 期（亜分類不明）
331	IIIC1r 期
332	IIIC1p 期
333	IIIC2r 期
334	IIIC2p 期
40	IV 期（亜分類不明）
41	IVA 期
42	IVB 期

2. 所見と診断方法

1) 腫瘍最大径

code No

1	顕微鏡的病変
2	～2cm
3	～4cm
4	～6cm
5	6cmをこえる

code No

1	視触診（内診、コルポスコプ診を含む）
2	画像診断
3	病理診断

子宮頸癌登録実施要項 2024～

2) 基幹部浸潤

code No

1	あり
2	なし
3	不明

code No

1	視触診（内診、コルポスコブ診を含む）
2	画像診断
3	病理診断

3) 腔壁浸潤

code No

1	あり
2	なし
3	不明

code No

1	視触診（内診、コルポスコブ診を含む）
2	画像診断
3	病理診断

4) 膀胱粘膜浸潤

code No

1	あり
2	なし
3	不明

code No

2	画像診断
3	病理診断
4	膀胱鏡

5) 直腸粘膜浸潤

code No

1	あり
2	なし
3	不明

code No

2	画像診断
3	病理診断
4	直腸鏡・大腸鏡

6) 骨盤リンパ節転移

code No

1	あり
2	なし
3	不明

code No

1	視診・触診
21	画像診断—MRI
22	画像診断—CT
23	画像診断—PET/CT
3	病理診断

9	その他
---	-----

7) 傍大動脈リンパ節転移

code No

1	あり
2	なし
3	不明

code No

1	視診・触診
21	画像診断—MRI
22	画像診断—CT
23	画像診断—PET/CT
3	病理診断

8) その他のリンパ節転移

code No

1	あり
2	なし
3	不明

code No

1	視診・触診
21	画像診断—MRI
22	画像診断—CT
23	画像診断—PET/CT
3	病理診断

9) リンパ節以外の遠隔転移

code No

1	あり
2	なし
3	不明

code No

1	視触診
2	画像診断
3	病理診断

（1）視触診や画像診断で病巣が認められていても、病理診断が確定診断となった場合には、病理診断を選択する。診断方法の優先順位は、取扱い規約12ページを参照。

3. cTNM分類（Cervix Uteri TNM 2021）

cTNM分類は、治療を開始する前に、内診・直腸診による局所所見に画像所見を加味して総合的に判断し報告する。なお、病理診断はpTNM分類で記載することになるため、ここには反映させない。

子宮頸部円錐切除術は臨床検査とみなし、これによる組織検査の結果は原則としてcTNM分類に入れ、pTNM分類には入れない。ただし、臨床検査（狙い組織診、円錐切除診を含む）によって術前に確認された癌が、摘出子宮の組織学的検索で認められない場合、あるいは術前のものより軽度の癌のみが認められる場合には、pTの入力は術前検査で確認された組織診断によることとする。

子宮頸癌登録実施要項 2024～

1) T分類

code No

99	TX
00	T0
01	Tis
10	T1 (亜分類不明)
11	T1a1: 脈管侵襲なし
12	T1a1: 脈管侵襲あり
13	T1a2: 脈管侵襲なし
14	T1a2: 脈管侵襲あり
15	T1a (亜分類不明): 脈管侵襲なし
16	T1a (亜分類不明): 脈管侵襲あり
17	T1b1
18	T1b2
182	T1b3
19	T1b (亜分類不明)
20	T2 (亜分類不明)
211	T2a1
212	T2a2
210	T2a (亜分類不明)
22	T2b
30	T3 (亜分類不明)
31	T3a
32	T3b
40	T4

2) T1a1, T1a2症例の水平方向の広がり

code No

1	水平方向 7mm 以下
2	水平方向 7mm をこえる
9	不明

FIGO2018/日産婦2020ではIA期、pT1aの要件から「水平方向で7mm以内」という要件が除かれたため、水平方向の広がりには必須の記載項目ではないが、ICCRは腫瘍の性状を把握するためにも記載することを推奨しており、腫瘍登録の任意項目として追加した。

3) N分類

Nの入力に際し、画像診断(CT、MRI、PET-CTなど)より転移リンパ節の有無を加味した以下の分類細目に従って報告する。なお、病理診断はpTNM分類で記載することになるため、ここには反映させない。

code No

N0	領域リンパ節転移なし
N1	骨盤リンパ節のみに転移を認める
N21	傍大動脈リンパ節のみに転移を認める
N22	骨盤および傍大動脈リンパ節転移を認める
NX	画像診断をしなかった

4) M分類

code No

M0	遠隔転移なし
M1	遠隔転移あり
M9	遠隔転移の判定不十分なとき

遠隔転移部位

遠隔転移を認めている場合には、当該臓器・組織を下記から選択する(複数回答可)。

code No

L1	縦隔リンパ節
L2	鎖骨上(下)リンパ節
L3	鼠径リンパ節
L9	上記以外のリンパ節
M1	肺
M2	肝臓
M3	腹膜播種
M4	脳
M5	骨
M6	子宮漿膜
M7	付属器
M9	上記以外の実質臓器・組織

(1) 子宮漿膜、付属器への転移はUterine Cervix TNM 2021において遠隔転移に含まれるが、FIGO2018/日産婦2020においては遠隔転移とはならないことに注意を要する。腔、骨盤漿膜への転移は遠隔転移から除外する。

4. 治療

【治療開始年月日】

癌に対する手術、化学療法、放射線療法がはじめて行われた年月日を西暦で入力する。

【治療法】

1) 治療法

code No

11	手術(骨盤・傍大動脈リンパ節郭清を行う)
12	手術(骨盤リンパ節郭清のみを行う)
13	手術(リンパ節郭清を伴わない)
2	腔内照射
3	体外照射
4	化学療法
5	分子標的治療の単剤投与
45	化学療法と分子標的治療の併用
6	免疫チェックポイント阻害剤
46	化学療法と免疫チェックポイント阻害剤の併用
456	化学療法と分子標的治療と免疫チェックポイント阻害剤の併用
7	その他の治療
21	同時化学放射線療法(腔内照射)
31	同時化学放射線療法(体外照射)

子宮頸癌登録実施要項 2024～

2) 初回手術施行例の術式

code No

1	開腹術
2	腹腔鏡下手術
3	ロボット支援下手術
4	腔式手術（子宮頸部円錐切除術以外）
5	子宮頸部円錐切除術 （本術式のみで治療終了した場合）
9	該当せず

(1) いくつかの治療を併用した場合には、施行した順に入力することを原則とする。化学療法に分子標的治療を併用して投与した後に、分子標的治療薬の単剤投与を行った場合は、それぞれ入力する。

(2) 術前治療施行例の場合は治療を行った順に入力する。

(3) 試験開腹または癌の原発巣を除去する以外の目的の手術（尿管移植、イレウス、尿瘻形成などに対する手術）は入力しない。

(4) 開腹または鏡視下で生検材料のみを採取し、閉腹したものは手術としない。

(5) 手術、放射線療法の補助として、化学療法、ホルモン療法、その他の治療を行ったが、その投与量が明らかに不十分とみなされる場合は治療として入力しない。

(6) 円錐切除しか施行しなかった症例のみ円錐切除を選択する。円錐切除後に根治術式を施行した場合は、円錐切除は臨床検査としてみなすため、根治術式について入力する。

5. pTNM分類（手術を実施した症例のみ）

手術所見や摘出材料の病理組織学的検索によりTNM分類を補足修正したもので、pT、pN、pMとして表す。その内容についてはTNM分類に準じる。

手術前に放射線治療、化学療法などが行われている場合はy記号をつけて区別し、備考1に入力する。

注意事項は以下のとおりである。

(1) 何らかの理由で、子宮頸部円錐切除術で治療を終了した子宮頸癌症例は、円錐切除術を手術による治療とみなす。

(2) 摘出物の組織学的な癌の広がりを検索しないときはXとする。

(3) 不完全手術または試験開腹に終わり、その際バイオプシー程度の組織検査で癌の広がりを検索した結果、癌が小骨盤腔をこえていない場合はpTXとし、癌が小骨盤腔をこえて認められた場合はpT4として報告する。また、このような場合のpNについての報告は(5)に準ずる。

(4) pNの報告に際して、組織学的検索を施行しなかった場合と施行した場合に分けて報告する。

1) 検索方法としては、①検索せず、②生検、③郭清、④センチネルリンパ節生検とする。

2) リンパ節検索部位は骨盤領域と傍大動脈領域に分ける。

3) 「リンパ節郭清」とはある領域のリンパ節を、リンパ節を含めて全て切除することである。

4) 「リンパ節生検」とは転移が疑わしいリンパ節を切除する、または肉眼的に確認できるリンパ節を切除することである。

5) 「センチネルリンパ節生検」とはセンチネルリンパ節生検に留め、陰性あるいは陽性いずれの場合にも郭清を行わなかった場合である。

6) リンパ節検索に必要なリンパ節摘出個数は規定しない。

(5) 傍大動脈リンパ節の転移はN分類に入れる。

(6) pTおよびpM分類の報告についてはTおよびMに準ずる。その入力コードも同じものを用いることとする。

1) pT分類

code No

99	pTX
00	pT0
01	pTis
10	pT1（亜分類不明）
11	pT1a1：脈管侵襲なし
12	pT1a1：脈管侵襲あり
13	pT1a2：脈管侵襲なし
14	pT1a2：脈管侵襲あり
15	pT1a（亜分類不明）：脈管侵襲なし
16	pT1a（亜分類不明）：脈管侵襲あり
17	pT1b1
18	pT1b2
182	pT1b3
19	pT1b（亜分類不明）
20	pT2（亜分類不明）
211	pT2a1
212	pT2a2
210	pT2a（亜分類不明）
22	pT2b
30	pT3（亜分類不明）
31	pT3a
32	pT3b
40	pT4

2) pT1a1, pT1a2症例の水平方向の広がり

code No

1	水平方向 7mm 以下
2	水平方向 7mm をこえる
9	不明

FIGO2018/日産婦2020ではIA期、pT1aの要件から「水平方向で7mm以内」という要件が除かれたため、水平方向の広がりには必須の記載項目ではないが、ICCRは腫瘍の性状を把握するためにも記載することを推奨しており、腫瘍登録の任意項目として追加した。

*) pT1a1, pT1a2症例の腫瘍の厚さ（または最大径）
code No

子宮頸癌登録実施要項 2024～

1	厚さが5mm以下
2	厚さが5mmこえるが2cm以下
3	腫瘍最大径が2cmをこえるが4cm以下
4	腫瘍最大径が4cmをこえる

間質浸潤の浅い腫瘍径の大きな腫瘍については、腫瘍の頂点から浸潤先端部までの距離、すなわち腫瘍の厚さ(または最大径)を腫瘍登録の任意項目として追加した。ICCRでは間質浸潤の浅い外向性発育を主体とする腫瘍の場合、厚みを進行期に反映させているが、本邦ではFIGOの見解に則る。

3) pN分類

a. 骨盤リンパ節 (RP)

code No

1	骨盤リンパ節を摘出しなかった(病理学的検索が行われなかった)
2	骨盤リンパ節の選択的郭清(生検)を行った
3	骨盤リンパ節の系統的郭清を行った
4	センチネルリンパ節生検を行った

code No

RP1	骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認めない
RP2	骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認める
RP3	骨盤リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない
RP4	骨盤リンパ節を摘出し、転移を認める

b. 傍大動脈リンパ節 (RA)

code No

1	傍大動脈リンパ節を摘出しなかった(病理学的検索が行われなかった)
2	傍大動脈リンパ節の選択的郭清(生検)を行った
3	傍大動脈リンパ節の系統的郭清を行った
4	センチネルリンパ節生検を行った

code No

RA1	傍大動脈リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認めない
RA2	傍大動脈リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認める
RA3	傍大動脈リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない
RA4	傍大動脈リンパ節を摘出し、転移を認める

4) pM分類

code No

pM0	遠隔転移なし
pM1	遠隔転移あり
pM9	遠隔転移の判定不十分なとき

【組織診断】

1) 組織診断

上皮性腫瘍

扁平上皮癌

code No

8085/3	扁平上皮癌 HPV関連
8086/3	扁平上皮癌 HPV非依存性
8070/3	扁平上皮癌, NOS

腺癌

code No

8483/3	腺癌 HPV関連
8484/3	腺癌 HPV非依存性
8140/3	腺癌, NOS

扁平上皮癌や腺癌でHPVとの関連が不明である場合は、それぞれ扁平上皮癌, NOS、腺癌, NOSを選択する。

その他

code No

8980/3	癌肉腫
8560/3	腺扁平上皮癌
8015/3	すりガラス細胞癌
8098/3	腺様基底細胞癌
8430/3	粘表皮癌
8200/3	腺様嚢胞癌
8020/3	未分化癌
8240/3	カルチノイド腫瘍
8249/3	非定型的カルチノイド腫瘍
8041/3	小細胞神経内分泌癌
8013/3	大細胞神経内分泌癌
M99-09	その他

間葉性腫瘍および腫瘍類似病変

code No

8890/3	平滑筋肉腫
8900/3	横紋筋肉腫
9581/3	胞巣状軟部肉腫
9120/3	血管肉腫
9540/3	悪性末梢神経鞘腫瘍
8850/3	脂肪肉腫
8805/3	未分化頸管肉腫
9364/3	ユーイング肉腫

上皮性・間葉性混合腫瘍

code No

8933/3	腺肉腫
--------	-----

メラノサイト腫瘍

code No

8720/3	悪性黒色腫
--------	-------

子宮頸癌登録実施要項 2024～

2) 扁平上皮癌(8085/3、8086/3、8070/3)を選択した場合は下記に該当するものがあれば選択する(任意)

code No

8071/3	角化型扁平上皮癌(角化型パターン)
8072/3	非角化型扁平上皮癌(非角化型パターン)
8052/3	乳頭状扁平上皮癌(乳頭状パターン)
8083/3	類基底細胞癌(類基底パターン)
8051-1/3	コンジローマ様癌(コンジローマ様パターン)
8051-2/3	疣(いぼ)状癌(疣状パターン)
8120/3	扁平移行上皮癌(扁平移行上皮パターン)
8082/3	リンパ上皮腫様癌(リンパ上皮腫様パターン)

3) 腺癌(8083/3、8084/3、8040/3)を選択した場合は下記に該当するものがあれば選択する(任意)

code No

8140/3	通常型内頸部腺癌
8480/3	粘液性癌
8482/3	腺癌 HPV非依存性、胃型
8144/3	腸型粘液性癌
8490/3	印環細胞型粘液性癌
8263/3	絨毛腺管癌
8380/3	類内膜癌
8310/3	腺癌 HPV非依存性、明細胞型
8441/3	漿液性癌
9110/3	腺癌 HPV非依存性、中腎型
8574/3	神経内分泌癌を伴う腺癌

【備考1】

進行期分類の選択の項目にて「治療開始前に進行期を決定した症例」を選択した場合にはypTNMとして手術時所見に即してpTNM分類を入力する。

【備考2】

不完全治療など、特筆すべきと考えられる事項を入力する。

3年および5年予後報告入力要領

【治療後の健否】

code No

10	生存(非担癌)
11	生存(担癌)
21	子宮頸癌による死亡
22	他の癌による死亡
23	癌と直接関係のない死亡
29	死因不明
99	生死不明

(1) 治療後満3年、満5年について生存か否かを入力する。

(2) 癌による死亡で「子宮頸癌による死亡」か「他

の癌による死亡」か不明のときは「子宮頸癌による死亡」とする。

(3) 死因がはっきりしないが癌による死亡が十分疑われる症例は「子宮頸癌による死亡」とする(「死因不明」としない)。

【最終生存確認年月日】

code No

1	(西暦年月日入力)
2	不明

(1) 最終生存確認年月日を西暦で入力する。

(2) 生死不明の患者はその生存を確認した最終年月日を入力する(退院後行方不明の場合は退院日となる)。

(3) 死亡した患者は死亡年月日を入力する。その年月日が不明の場合は「不明」を選択する。

特別調査実施項目

下記は、日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会が調査を必要と判断した際に、時限的に追加された調査項目である。

調査対象症例は2019年～2021年に治療開始し、婦人科腫瘍登録に登録されている症例であり、その3年予後および5年予後の詳細に関し、下記について入力することとする。

【再発の有無】

code No

1	なし
2	あり
9	不明

(1) 視触診、画像診断、病理診断などで再発病巣が確認された場合のみを再発と規定し、腫瘍マーカー上昇のみによる再発は再発としない。

【再発確認日】

(1) 主治医・担当医が再発を診断した日をもって、再発確認日とする。

【再発部位1】

code No

1	腔断端のみ
2	小骨盤腔内の腹膜外・リンパ節など
3	小骨盤腔内の腹膜内・腹膜播種など
4	小骨盤腔外の腹腔内・腹膜播種など
5	傍大動脈リンパ節転移
6	傍大動脈リンパ節以外の遠隔転移
9	不明

(1) 再発部位が複数箇所に渡る場合には、再発部位2も入力する。再発部位が3領域以上に渡る場合には、備考3に入力する。

【再発部位2】

子宮頸癌登録実施要項 2024～

code No

1	腔断端のみ
2	小骨盤腔内の腹膜外・リンパ節など
3	小骨盤腔内の腹膜内・腹膜播種など
4	小骨盤腔外の腹腔内・腹膜播種など
5	傍大動脈リンパ節転移
6	傍大動脈リンパ節以外の遠隔転移
9	不明

進行期分類

進行期分類は、治療法の決定や予後の推定あるいは治療成績の評価などに際し、最も基本となるものである。日本産科婦人科学会では国際的な比較を可能にするため、FIGOによる臨床進行期分類とUICCによるTNM分類を採用している。FIGO2018に準拠したUICCによるTNM分類（Cervix Uteri TNM 2021）がオンラインで公開されており、UICC第9版として正式に採用されるとみられているが、病理診断書に記載する場合はCervix Uteri TNM 2021に準拠している旨を記載することが望ましい。なおCervix Uteri TNM 2021では子宮漿膜、付属器への転移をM1としており、進行期分類（日産婦2020、FIGO2018）と乖離していることに注意を要する。

1. 臨床進行期分類（日産婦2020、FIGO2018）

I期	癌が子宮頸部に限局するもの(体部浸潤の有無は考慮しない)
IA期	組織学的にのみ診断できる浸潤癌のうち、間質浸潤が5mm以下のもの 浸潤がみられる表層上皮の基底膜より計測して5 mm 以下のものとする。脈管（静脈またはリンパ管）侵襲があっても進行期は変更しない。
IA1期	間質浸潤の深さが3 mm 以下のもの
IA2期	間質浸潤の深さが3 mm をこえるが、5 mm 以下のもの
IB期	子宮頸部に限局する浸潤癌のうち、浸潤の深さが5mmをこえるもの（IA期をこえるもの）
IB1期	腫瘍最大径が2cm以下のもの
IB2期	腫瘍最大径が2cmをこえるが、4cm以下のもの
IB3期	腫瘍最大径が4cmをこえるもの
II期	癌が頸部をこえて広がっているが、骨盤壁または腔壁下1/3には達していないもの
IIA期	腔壁浸潤が腔壁上2/3に限局していて、子宮傍組織浸潤は認められないもの
IIA1期	腫瘍最大径が4cm以下のもの
IIA2期	腫瘍最大径が4cmをこえるもの
IIB期	子宮傍組織浸潤が認められるが、骨盤壁

	までは達しないもの
III期	癌浸潤が腔壁下1/3まで達するもの、ならびに／あるいは骨盤壁にまで達するもの、ならびに／あるいは水腎症や無機能腎の原因となっているもの、ならびに／あるいは骨盤リンパ節ならびに／あるいは傍大動脈リンパ節に転移が認められるもの
IIIA期	癌は腔壁下1/3に達するが、骨盤壁までは達していないもの
IIIB期	子宮傍組織浸潤が骨盤壁にまで達しているもの、ならびに／あるいは明らかな水腎症や無機能腎が認められるもの（癌浸潤以外の原因による場合を除く）
IIIC期	骨盤リンパ節ならびに／あるいは傍大動脈リンパ節に転移が認められるもの（rやpの注釈をつける）
IIIC1期	骨盤リンパ節転移のみが認められるもの
IIIC2期	傍大動脈リンパ節に転移が認められるもの
IV期	癌が小骨盤腔をこえて広がるか、膀胱、直腸の粘膜を侵すもの
IVA期	膀胱、直腸の粘膜への浸潤があるもの
IVB期	小骨盤腔をこえて広がるもの

【分類にあたっての注意事項】

(1) 従来の進行期分類では「CT やMRI などによる検査結果は治療計画決定に使用するのには構わないが、進行期決定に際しては、これらの結果に影響されてはならない」とされていた。今回の臨床進行期分類の改訂では、従来臨床所見に加え、MRIやCT、PET-CTなどの画像診断、生検や手術摘出標本の病理学的所見を加味して、腫瘍の進展度合いや腫瘍サイズ、リンパ節転移の評価について、総合的に判断することとなった。

(2) 内診所見と、画像診断、生検標本、摘出標本の病理診断の結果が一致しない場合の診断方法の優先順位は、取扱い規約12ページを参照。

(3) 進行期分類の決定に迷う場合には軽いほうの進行期に分類する。

(4) 進行期決定のために行われる臨床検査は以下のものである。なお、進行期の決定に使用した検査法について記録しておくことが望ましい。

a) 触診、視診、コルポスコピー、診査切除、頸管内搔爬、子宮鏡、肺および骨のX線検査

b) 超音波検査、MRI、CT、PET、PET-CT、MRI-PET等の画像診断

c) 子宮頸部円錐切除術は、臨床検査とみなす。

d) 膀胱鏡、直腸鏡、排泄性尿路造影については必須の項目ではないが、IVA期の診断の際に用いられる。

(5) IA1期とIA2期の診断は、摘出組織の顕微鏡検査により行われるので、病巣がすべて含まれる円錐切

子宮頸癌登録実施要項 2024～

除標本により診断することが望ましい。

IA 期の浸潤の深さは、浸潤が起こってきた表層上皮の基底膜から計測して5 mm以下のものとする。静脈であれリンパ管であれ、脈管侵襲があっても進行期は変更しない。しかしながら、脈管侵襲が認められるものは将来治療方針の決定に影響するかもしれないので別途記載する。また、今回の分類では、水平方向の腫瘍の広がりには進行期に影響しないものとする。

(6) 進行期分類に際しては子宮頸癌の体部浸潤の有無は考慮しない。

(7) 従来は、肉眼的に明らかな腫瘍形成を伴う腫瘍は浸潤の程度に関わらずIB期と診断してきたが、本進行期分類では、肉眼的に明らかな腫瘍形成のみでIB期とはしない。内診所見、コルポスコピー所見、画像所見などと、病理学的所見に乖離がある場合は、再度の生検ないしは子宮頸部円錐切除術を施行して、浸潤癌の確定診断を下すことが望ましい。合併症等で確定的な組織診断に至らない場合はその旨を記載する。

(8) III B期の進行期分類の決定に際しては、内診・直腸診の所見と総合して診断を行い、画像所見のみでIII B期と診断しない。

(9) III C期の進行期分類の決定に際して、画像診断による評価を用いた場合はrを、病理学的評価をその根拠に用いた場合はpを付記するものとする。画像診断を根拠に骨盤リンパ節転移が陽性と判断しIII C1期と診断した症例は、III C1r期と表記する。あるいは病理学的評価を根拠にIII C1期と診断した場合は、III C1p期と表記する。なお、診断の根拠に使用した撮像法あるいは病理学的手法に関しては別途記載するものとする。画像診断によるリンパ節転移の診断基準は取扱い規約35ページを参照すること。

(10) リンパ節転移の診断は、微小転移以上のものを転移と診断し、isolated tumor cells (ITC) は転移としない。

(11) 膀胱または直腸への粘膜浸潤がMRI所見で明らかに認められる場合にはMRI所見のみでIVA期と診断できる。MRI所見が明らかではない場合は膀胱鏡／直腸鏡を施行し、生検により組織学的に確認しなければならない。膀胱内洗浄液中への癌細胞の出現、あるいは胞状浮腫の存在だけではIVA期に分類してはならない。

2. TNM分類 (Cervix Uteri TNM 2021)

TNM 分類は次の3つの因子に基づいて病変の解剖学的進展度を記述する。

T：原発腫瘍の進展度

N：領域リンパ節の状態

M：遠隔転移の有無

各々の広がりについては数字で付記する。

- (1) 組織診のないものは区別して記載する。
- (2) TNM分類は一度決めたら変更してはならない。
- (3) 判定に迷う場合は進行期の低い方の分類に入れる

(4) 画像診断 (CT, MRI, PET-CTなど) を腫瘍の進展度合いやサイズの評価、実質臓器転移 (肺, 肝臓, 脳など), リンパ節転移の評価に用い, 内診・直腸診による局所所見に画像所見を加味して総合的に判断する。

<TNM 治療前臨床分類>

1) T—原発腫瘍の進展度 (T分類はFIGOの進行期分類に適合するように定義されている)

TX	原発腫瘍が評価できないもの
T0	原発腫瘍を認めない
Tis	上皮内癌 (浸潤前癌)
T1	癌が子宮頸部に限局するもの(体部への進展は考慮に入れない)
T1a	組織学的にのみ診断できる浸潤癌のうち、間質浸潤が5mm以下のもの 浸潤の深さは、浸潤がみられる表層上皮の基底膜より計測して5 mm 以下のものとする。脈管 (静脈またはリンパ管) 侵襲があっても進行期は変更しない。
T1a1	間質浸潤の深さが3 mm 以下のもの
T1a2	質浸潤の深さが3 mmをこえるが、5 mm 以下のもの
T1b	子宮頸部に限局する浸潤癌のうち、浸潤の深さが5mmをこえるのもの (IA期を超えるもの)
T1b1	腫瘍最大径が2cm以下のもの
T1b2	腫瘍最大径が2cmをこえるが4cm以下のもの
T1b3	腫瘍最大径が4cmをこえるもの
T2	癌が子宮頸部をこえて広がっているが、腔壁下1/3または骨盤壁には達していないもの
T2a	腔壁浸潤が認められるが、子宮傍組織浸潤は認められないもの
T2a1	腫瘍最大径が4 cm以下のもの
T2a2	腫瘍最大径が4 cmをこえるもの
T2b	子宮傍組織浸潤を認めるが、骨盤壁までは達しないもの
T3	癌浸潤が腔壁下1/3まで達するもの、ならびに／あるいは骨盤壁にまで達するもの、ならびに／あるいは水腎症や無機能腎の原因となっているもの
T3a	癌は腔壁下1/3に達するが、骨盤壁までは達していないもの
T3b	子宮傍組織浸潤が骨盤壁にまで達しているもの、または明らかな水腎症や無機能腎を認めるもの (癌浸潤以外の原因による場合を除く)
T4	癌が小骨盤腔をこえて進展しているか、膀胱または直腸粘膜を臨床的に侵すもの

(1) 0期 (CIN 3) は進行期から除外されたため、2012年治療症例より「年報」の入力画面より登録する。

- (2) TisとT0を混同しないこと。
- (3) T0は臨床所見より子宮頸癌と診断したが、原発より組織学的な癌の診断ができないもの（組織学的検索をせずに治療を始めたものを含む）。
- (4) TXは組織学的に子宮頸癌と診断したが、その進行度の判定が何らかの障害で不可能なもの。

2) N-領域リンパ節

領域リンパ節は、基靭帯リンパ節、閉鎖リンパ節、外腸骨リンパ節、鼠径上リンパ節、内腸骨リンパ節、総腸骨リンパ節、仙骨リンパ節、傍大動脈リンパ節である。

NX	領域リンパ節を判定するための最低必要な検索が行われなかったとき
N0	領域リンパ節に転移を認めない
N1	骨盤リンパ節のみに転移を認めるもの
N2	傍大動脈リンパ節に転移を認めるもの

3) M-遠隔転移

M0	遠隔転移を認めない
M1	遠隔転移を認める

(1) 鼠径リンパ節転移や腹腔内病変、子宮漿膜、付属器への転移は遠隔転移に含む。腔, 骨盤漿膜への転移は遠隔転移から除外する。

参考. TNM分類 (Cervix Uteri TNM 2021)

このTNM分類は2023年1月以後の症例より適用される。

TNM分類は次の3つの因子に基づいて病変の解剖学的進展度を記述する。各々の広がりについては数字で付記する。

T分類：原発腫瘍の進展度

N分類：所属リンパ節の状態

M分類：遠隔転移の有無

- (1) 組織診のないものは区別して記載する。
- (2) TNM分類は一度決めたら変更してはならない。
- (3) 判定に迷う場合は進行期の低い方の分類に入れる
- (4) 画像診断（CT, MRI など）を腫瘍の進展度合いやサイズの評価、実質臓器転移（肺, 肝臓, 脳など）、リンパ節転移の評価に用い、内診・直腸診による局所所見に画像所見を加味して総合的に判断する。
- (5) リンパ節転移の診断は短径10mm以上をもって腫大とする。

子宮体癌登録実施要項 2026～

個別報告入力要領

治療患者の登録は、毎年、前年1月1日から12月31日の間に治療を開始した患者につき、以下の原則に従って行う。

(1) 子宮体部に原発した癌で、組織学的に確認されたもののみを報告する。治療開始日は、子宮体癌治療を開始した年月日とする。

(2) 子宮頸部と体部に同時に癌が認められ、原発部位を臨床検査あるいは術後組織検査で明確に決定できない場合は、その組織が腺癌であれば子宮体癌に、扁平上皮癌であれば子宮頸癌に分類する。

(3) 子宮体部と卵管・卵巣に同時に癌が認められ、原発部位を決定できない場合は、それぞれに登録する。

(4) 癌肉腫は本登録で報告する。

(5) 診断のみを行い治療を行わなかった症例、試験開腹のみを行いそれ以後に子宮体癌に対する治療をまったく行わなかった症例、診断が最終的に細胞診のみによって下された場合は報告から除外する。

(6) 子宮内膜異型増殖症は、本登録では報告せず「年報」入力画面から、症例数のみを報告する。

【登録コード】

code No

1	新規報告患者（追加したい患者）
2	既報告患者の内容変更
3	既報告患者の削除

【患者No.】

自動表示（EM20XX-から始まる番号）

【年齢】

治療開始時点での満年齢を入力する。

【手術状況】

code No

1	手術施行例
2	手術未施行例
3	術前治療施行例

(1) FIGO、UICCの進行期分類は同じにすること。

(2) 術前に放射線治療や化学療法を施行した症例は「術前治療施行例」となり、進行期分類（FIGO、TNM）は画像診断を用い、臨床進行期を推定し登録、備考1欄にypTNMとして手術時所見に即してpTNM分類を入力する。

【進行期分類】

1. FIGO分類（日産婦2011、FIGO2008）

code No

10	I期（亜分類不明）
----	-----------

11	IA期
12	IB期
20	II期
30	III期（亜分類不明）
31	IIIA期
32	IIIB期
33	IIIC期（亜分類不明）
34	IIIC1期
35	IIIC2期
40	IV期（亜分類不明）
41	IVA期
42	IVB期

(1) 漿膜、付属器浸潤の場合にIIIA期とし、腹水細胞診陽性は進行期分類には用いない。

2. TNM分類（UICC第8版）

1) T分類

code No

99	TX
00	T0
10	T1（亜分類不明）
11	T1a
12	T1b
20	T2
30	T3（亜分類不明）
31	T3a
32	T3b
40	T4

(1) T0とTXを混同しないこと。

T0：臨床所見より子宮体癌と診断したが、原発巣より組織学的な癌の診断ができないもの（組織学的検索をせずに治療を始めたものを含む）。

TX：組織学的に子宮体癌と診断したが、その進行度の判定が何らかの障害で不能なもの。

(i) 初回手術施行例

a. 付属器転移

code No

1	付属器転移を認めない
2	付属器転移を認める
3	不明

(1) 両側付属器摘出の既往があり、手術時に付属器が存在しなかった場合や部分的にでも卵巣を温存（残存）し、病理学的な検索が不十分であった場合には、総合的に判断してcodeを選択し、備考2欄にその旨入力する。

b. 子宮漿膜浸潤

code No

1	子宮漿膜浸潤を認めない
2	子宮漿膜浸潤を認める
3	不明

子宮体癌登録実施要項 2026～

(1) 漿膜の破綻がなくとも筋層をこえて漿膜直下の結合織に達しているものは漿膜浸潤とする。

c. 骨盤腹膜播種

code No

1	骨盤腹膜播種を認めない
2	骨盤腹膜播種を認める
3	不明

d. 子宮傍組織浸潤

code No

1	子宮傍組織浸潤を認めない
2	子宮傍組織浸潤を認める
3	不明

e. 腔壁浸潤

code No

1	腔壁浸潤を認めない
2	腔壁浸潤を認める
3	不明

f. 腹腔内播種

code No

1	腹腔内播種を認めない
2	腹腔内播種を認める
3	不明

(1) 骨盤腔内に位置していても虫垂、小腸、大網は骨盤外臓器として扱う。

g. 膀胱または腸管粘膜浸潤

code No

1	粘膜浸潤を認めない
2	粘膜浸潤を認める
3	不明

2) N分類

FIGO分類改定により、骨盤リンパ節と傍大動脈リンパ節はそれぞれ分けて結果を入力する。

(1) リンパ節郭清とはある領域のリンパ節を、リンパ管を含めて全て切除することである。

(2) リンパ節生検とは転移が疑わしいリンパ節を切除する。または肉眼的に確認できるリンパ節を切除することである。

(3) 「センチネルリンパ節生検」とはセンチネルリンパ節生検に留め、陰性あるいは陽性いずれの場合にも郭清を行わなかった場合である。

(i) 初回手術施行例

a. 骨盤リンパ節 (RP)

code No

1	骨盤リンパ節を摘出しなかった (病理学的
---	----------------------

	検索が行われなかった)
2	骨盤リンパ節の選択的郭清 (生検) を行った
3	骨盤リンパ節の系統的郭清 (すべての領域リンパ節) を行った
4	センチネルリンパ節生検を行った

code No

RP1	骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認めない
RP2	骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認める
RP3	骨盤リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない
RP4	骨盤リンパ節を摘出し、転移を認める

b. 傍大動脈リンパ節 (RA)

code No

1	傍大動脈リンパ節を摘出しなかった (病理学的検索が行われなかった)
2	傍大動脈リンパ節の選択的郭清 (生検) を行った
3	傍大動脈リンパ節の系統的郭清 (すべての領域リンパ節) を行った
4	センチネルリンパ節生検を行った

code No

RA1	傍大動脈リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認めない
RA2	傍大動脈リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認める
RA3	傍大動脈リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない
RA4	傍大動脈リンパ節を摘出し、転移を認める

(ii) 初回手術未施行例 (画像診断での判定)

a. 計測手段

code No

1	MRI
2	CT
3	PET/CT
4	施行せず

b. 骨盤リンパ節 (NP)

code No

NPX	リンパ節転移を判定するための画像診断が行われなかったとき
NP0	骨盤リンパ節に転移を認めない
NP1	骨盤リンパ節に転移を認める

(1) リンパ節転移の診断は短径10mm以上をもって腫大とする。短径10mm未満でもPET/CTにおける集積で転移と判断してもよい。

子宮体癌登録実施要項 2026～

c. 傍大動脈リンパ節 (NA)

code No

NAX	リンパ節転移を判定するための画像診断が行われなかったとき
NA0	傍大動脈リンパ節に転移を認めない
NA1	傍大動脈リンパ節に転移を認める

(1) リンパ節転移の診断は短径10mm以上をもって腫大とする。短径10mm未満でもPET/CTにおける集積で転移と判断してもよい。

3) M分類

code No

M0	遠隔転移なし
M1	その他の遠隔転移の存在
M9	遠隔転移の判定不十分なとき

code No

1	腹腔内播種
2	領域外リンパ節転移
3	肺転移
4	肝転移
5	骨転移
6	その他 (備考欄2に具体的部位を記載)

【組織診断 WHO分類2020】

1. 組織型

code No

8380/3	類内膜癌
8441/3	漿液性癌
8310/3	明細胞癌
8323/3	混合癌
8020/3	未分化癌
8020-2/3*	脱分化癌
8980/3	癌肉腫
9110/3	中腎腺癌
8070/3	扁平上皮癌
8114/3	粘液性癌, 胃/腸型
9111/3	中腎様腺癌
8240/3	神経内分泌腫瘍グレード1
8249/3	神経内分泌腫瘍グレード2
8041/3	小細胞神経内分泌癌
8013/3	大細胞神経内分泌癌
8045/3	混合型小細胞神経内分泌癌
8013/3	混合型大細胞神経内分泌癌
90	その他
99	採取せず

(1) 脱分化癌と未分化癌のICD-Oコードは共通であるが、施設診断に応じて選択する。

2. 組織学的異型度

code No

1	Grade 1
2	Grade 2
3	Grade 3
4	異型度評価の対象に含まれない
9	不明

3. 脈管侵襲

code No

1	なし
2	あり (限局的(focal))
3	あり (広範囲(extensive/substantial))
4	あり (分類不能)

【分子遺伝学的プロファイル】

a. POLE変異検査結果

code No

1	あり
2	なし
3	不明

b. POLE変異検査方法

code No

1	サンガー法
2	NGS法
3	PCR法
4	その他

c. MMR/MSI検査結果

code No

1	欠損/不安定 (dMMR/MSI-H)
2	保持/安定 (pMMR/MSS, MSI-L)
3	不明

d. MMR/MSI検査方法

code No

1	MSI検査 (PCR法・NGS法)
2	MMR-IHC検査 (IHC法)
3	その他

e. p53

code No

1	野生型
2	過剰発現
3	完全陰性
4	不明

f. p53検査方法

code No

1	TP53遺伝子変異検査 (サンガー法・NGS)
---	-------------------------

子宮体癌登録実施要項 2026～

	法)
2	p53-IHC検査 (IHC法)
3	その他

(1) 複数のバイオマーカー検査を実施した場合には、最終的な根拠とした手法・結果を選択する。

【腹腔洗浄・腹水細胞診】

code No

1	陽性
2	陰性
3	未施行
4	不明

【筋層浸潤の有無】

(i) 初回手術施行例

a. 病理学的診断

code No

1	浸潤なし
2	浸潤<1/2
3	浸潤≥1/2
4	不明

(ii) 初回手術未施行例 (画像診断での判定)

a. 計測手段

code No

1	MRI
2	CT
3	PET/CT

b. 画像診断による評価

code No

1	浸潤なし
2	浸潤<1/2
3	浸潤≥1/2
4	不明

【治療開始年月日】

癌に対する手術、化学療法、放射線療法がはじめて行われた年月日を西暦で入力する。

【治療法】

1) 治療法

code No

11	手術 (骨盤・傍大動脈リンパ節郭清を伴う)
12	手術 (骨盤リンパ節郭清のみを伴う)
2	手術 (リンパ節郭清を伴わない)
3	腔内照射
4	体外照射
51/Ch	化学療法
52/CIIm	化学療法+免疫チェックポイント阻害

	剤
53/Im	免疫チェックポイント阻害剤
54/ImMo	免疫チェックポイント阻害剤+分子標的治療
7	ホルモン療法
8	その他の治療
31	同時化学放射線療法 (腔内照射)
41	同時化学放射線療法 (体外照射)
110	骨盤・傍大動脈リンパ節郭清
120	骨盤リンパ節郭清

(1) いくつかの治療を併用した場合には、施行した順に入力するのを原則とする。

(2) 術前治療施行例の場合は治療を行った順に入力する。

(3) 試験開腹または癌の原発巣を除去する以外の目的の手術 (尿管移植、イレウス、尿瘻形成などに対する手術) は入力しない。

(4) 開腹または鏡視下で生検材料のみを採取し、閉腹したものは手術としない。また、子宮内膜全面搔爬で診断を確定しホルモン療法などを行い手術を行わなかった症例は、手術未施行例で登録する。

(5) 手術、放射線療法の補助として、化学療法、ホルモン療法、その他の治療を行ったが、その投与量が明らかに不十分とみなされる場合は治療として入力しない。

(6) 手術の選択 (入力コード 11 および 12) にあたってはリンパ節郭清を 一期的に行ったか否か をご確認下さい。

(7) 二期的にリンパ節郭清を行った場合は、入力コード 110 または 120 を入力する。

(8) 保険未承認治療については、その他の治療 (入力コード 8) として入力する。

2) 手術術式 (手術施行例、術前治療施行例)

a. 一回目手術

code No

1	開腹術
2	腹腔鏡手術
3	ロボット手術
9	該当せず

(1) 術中合併症あるいは術中所見に基づいて、開腹移行をしても、予定されていた術式を選択する。

b. 二回目手術

code No

1	開腹術
2	腹腔鏡手術
3	ロボット手術
9	該当せず

(1) 術中合併症あるいは術中所見に基づいて、開腹移行をしても、予定されていた術式を選択する。

子宮体癌登録実施要項 2026～

【備考1】

進行期分類の選択の項目にて「術前治療施行例」を選択した場合にはypTNMとして手術時所見に即してpTNM分類を入力する。

【備考2】

不完全治療、特筆すべきと考えられる事項を入力する。

3年・5年予後報告入力要領

【治療後の健否】

code No

10	生存（非担癌）
11	生存（担癌）
21	子宮体癌による死亡
22	他の癌による死亡
23	癌と直接関係のない死亡
29	死因不明
99	生死不明

(1) 治療後満3年および満5年について生存か否かを入力する。

(2) 癌による死亡で「子宮体癌による死亡」か「他の癌による死亡」か不明のときは「子宮体癌による死亡」とする。

(3) 死因がはっきりしないが癌による死亡が十分疑われる症例は「子宮体癌による死亡」とする（「死因不明」にしない）。

【最終生存確認年月日】

code No

1	（西暦年月日入力）
2	不明

(1) 最終生存確認年月日を西暦で入力する。

(2) 生死不明の患者はその生存を確認した最終年月日を入力する（退院後行方不明の場合は退院日となる）。

(3) 死亡した患者は死亡年月日を入力する。その年月日が不明の場合は「不明」を選択する。

進行期分類

1. 手術進行期分類（日産婦2011、FIGO2008）

I 期	癌が子宮体部に限局するもの
IA 期	癌が子宮筋層 1/2 未満のもの
IB 期	癌が子宮筋層 1/2 以上のもの
II 期	癌が頸部間質に浸潤するが、子宮をこえていないもの*
III 期	癌が子宮外に広がるが、小骨盤腔をこえていないもの、または領域リンパ節へ広がるもの

IIIA 期	子宮漿膜ならびに／あるいは付属器を侵すもの
IIIB 期	腔ならびに／あるいは子宮傍組織へ広がるもの
IIIC 期	骨盤リンパ節ならびに／あるいは傍大動脈リンパ節転移のあるもの
IIIC1 期	骨盤リンパ節陽性のもの
IIIC2 期	骨盤リンパ節への転移の有無にかかわらず、傍大動脈リンパ節陽性のもの
IV 期	癌が小骨盤腔をこえているか、明らかに膀胱ならびに／あるいは腸粘膜を侵すもの、ならびに／あるいは遠隔転移のあるもの
IVA 期	膀胱ならびに／あるいは腸粘膜浸潤のあるもの
IVB 期	腹腔内ならびに／あるいは鼠径リンパ節転移を含む遠隔転移のあるもの

*頸管腺浸潤のみはII期ではなくI期とする。

【分類に当たっての注意事項】

(1) 初回治療として手術がなされなかった症例（放射線や化学療法など）の進行期は、MRI、CTなどの画像診断で日産婦2011進行期分類を用いて推定する。

(2) 各期とも腺癌の組織学的分化度/異型度を併記する。

(3) 子宮内膜異型増殖症は日産婦1995分類により0期として登録してきたが、FIGO2008分類に従い0期のカテゴリーを削除する。子宮内膜異型増殖症の登録においては、日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会へ別に行う。

(4) 領域リンパ節とは骨盤リンパ節（閉鎖リンパ節、外腸骨リンパ節、鼠径上リンパ節、内腸骨リンパ節、総腸骨リンパ節、仙骨リンパ節、基靭帯リンパ節）および傍大動脈リンパ節をいう。

(5) 本分類は手術後分類であるから、従来I期とII期の区別に用いられてきた部位別搔爬などの所見は考慮しない。

(6) 子宮筋層の厚さは腫瘍浸潤の部位において測定することが望ましい。

(7) 腹水（洗浄）細胞診陽性は進行期決定には採用しないが、別に記録する。

(8) IIa期（FIGO1988）であった頸管腺のみに癌がおよぶものはFIGO2008進行期ではI期に分類する。

(9) Ia期（FIGO1988）（癌が子宮内膜に限局するもの）と筋層浸潤が1/2未満のものをFIGO2008進行期分類ではIA期とし、筋層浸潤が1/2以上のものをIB期としている。

(10) 混合癌は複数の組織型が種々の割合で混合する腫瘍で、エストロゲン非依存性で従来のII型に相当する漿液性癌か明細胞癌のどちらかを含むものとされる。ただし、いずれの成分も割合や多寡についての設定はない。低異型度の癌から高異型度の癌への進展が考えられている。予後は異型度の高い成分に依存する。

子宮体癌登録実施要項 2026～

(11) 漿液性子宮内膜上皮内癌 (SEIC) はT1の癌として扱う。

＜組織学的異型度 (Grade)＞

(1) 子宮内膜の類内膜腺癌は高分化型 (G1)、中分化型 (G2)、低分化型 (G3) に分けられる。

Grade 1: 明瞭な腺管構造が大半を占め、充実性胞巣からなる領域が5%以下。

Grade 2: 充実性胞巣からなる領域が5%をこえるが50%以下。または充実性胞巣が5%以下でも核異型が強い場合。

Grade 3: 充実性胞巣からなる領域が50%をこえる。または充実性胞巣が50%以下でも核異型が強い場合。

構造的にG1の定義を満たしても核異型が高度であればG2に、同様にG2はG3になる。

(2) 扁平上皮への分化を伴う場合のGradeは腺癌成分の分化度/異型度によって判定する。

(3) 漿液性癌、明細胞癌、癌肉腫は基本的には高異型度であるため、異型度評価の対象には含まれない。

(4) 神経内分泌腫瘍のグレードは組織型から選択し、組織学的異型度は4 (異型度評価の対象に含まれない) を選択する

2. TNM分類 (UICC第8版)

1) T-原発腫瘍

TNM分類	FIGO分類	
TX		原発腫瘍が評価が不可能
T0		原発腫瘍を認めないもの
T1	I	子宮体部に限局する腫瘍
T1a	IA	子宮内膜に限局する、または子宮筋層の1/2未満に浸潤する腫瘍
T1b	IB	子宮筋層の1/2以上に浸潤する腫瘍
T2	II	子宮頸部間質に浸潤するが、子宮をこえて進展しない腫瘍
T3	III	下記に特定する局所、および/または領域リンパ節への広がり
T3a	IIIA	子宮体部の漿膜または付属器に浸潤する腫瘍 (直接浸潤または転移)
T3b	IIIB	腔または子宮傍組織に浸潤 (直接浸潤または転移)
N1/2	IIIC	骨盤リンパ節または傍大動脈リンパ節転移への転移
N1	IIIC1	骨盤リンパ節への転移
N2	IIIC2	骨盤リンパ節への転移の有

		無に関係なく、傍大動脈リンパ節への転移
T4	IVA	膀胱粘膜および/または腸粘膜に浸潤する腫瘍
M1	IVB	遠隔転移

2) N-領域リンパ節

領域リンパ節は、骨盤リンパ節 (閉鎖リンパ節、内腸骨リンパ節、総腸骨リンパ節、外腸骨リンパ節、基韧带リンパ節および仙骨リンパ節) と傍大動脈リンパ節である。

N0	領域リンパ節転移なし
N1	骨盤リンパ節への転移あり
N2	骨盤リンパ節への転移の有無に関係なく、傍大動脈リンパ節への転移あり
NX	領域リンパ節転移の評価が不可能

3) M-遠隔転移

M0	遠隔転移なし
M1	遠隔転移あり (腔、骨盤漿膜、付属器への転移は除外し、鼠径リンパ節への転移と、傍大動脈リンパ節と骨盤リンパ節以外の腹腔内リンパ節転移を含む)

3. pTNM術後病理組織学的分類

pT、pN、pM分類の内容についてはTNM分類に準ずる。

＜FIGO分類とTNM分類の対応表＞

FIGO分類	TNM分類	
I	T1	N0 M0
IA	T1a	N0 M0
IB	T1b	N0 M0
II	T2	N0 M0
IIIA	T3a	N0 M0
IIIB	T3b	N0 M0
IIIC1	T1, T2, T3	N1 M0
IIIC2	T1, T2, T3	N2 M0
IVA	T4	Nに関係なく M0
IVB	Tに関係なく	Nに関係なく M1

卵巣腫瘍登録実施要項 2026～

個別報告入力要領

治療患者の登録は、毎年、前年1月1日から12月31日の間に治療を開始した患者につき、以下の原則に従って行う。

(1) 卵巣、卵管、腹膜に原発した悪性腫瘍または境界悪性腫瘍で、組織学的に確認されたものを報告する。また、画像診断で卵巣、卵管、腹膜に原発した悪性腫瘍または境界悪性腫瘍が強く疑われ、かつ細胞診にて卵巣、卵管、腹膜由来の悪性または境界悪性を推定した場合も登録を行う。

治療開始日は腫瘍に対する治療を開始した年月日とする。

(2) 卵巣・卵管・腹膜と子宮内膜などに同時に癌が認められ、原発部位を決定できない場合は、それぞれに登録する。

(3) 術前治療例は、手術以外の治療がなされたのちに手術療法を施行し、卵巣・卵管・腹膜悪性腫瘍または境界悪性腫瘍と組織学的に診断された場合に報告する。

(4) 試験開腹のみを行い、それ以後に治療を行わなかった症例、剖検にてはじめて卵巣・卵管・腹膜悪性腫瘍または境界悪性腫瘍と診断された症例、先行治療が他施設の場合は報告から除外する。

【登録コード】

code No

1	新規報告患者（追加したい患者）
2	既報告患者の内容変更
3	既報告患者の削除

【患者No.】

自動表示（OV20XX-から始まる番号）

【年齢】

治療開始時点での満年齢を入力する。

【診断】

code No

1	卵巣癌、卵巣境界悪性腫瘍
2	卵管癌、卵管境界悪性腫瘍
12	卵管・卵巣癌
3	腹膜癌
4	卵巣・卵管・腹膜（分類不能）

【病変の主座】

code No

1	卵巣
2	卵管
3	腹膜
9	不明

(1) 高異型度漿液性癌以外の組織型については、従来どおり、病変の主座をもって、原発巣とする。すなわち、病変の主座が卵巣であれば、卵巣癌と診断する。

(2) 高異型度漿液性癌は、まず子宮内膜原発の高異型度漿液性癌を否定する。そのうえで、卵管が病変の主座である場合に加え、卵管の一部または全部が卵巣と一塊である、または卵管・卵管采の十分な検索（SEE-FIM プロトコールやそれに準じた検索）を行い、漿液性卵管上皮内癌（STIC）または卵管（卵管采を含む）の粘膜を侵す高異型度漿液性癌を認める場合は、卵管癌と診断する。上記の条件を満たさず卵管癌が否定された場合に、卵巣に病変が認められれば、卵巣癌と診断し、腹膜のみに病変が認められれば、腹膜癌と診断する。

(3) 「卵管・卵巣癌」の診断は、下記のように卵巣癌と卵管癌の鑑別ができない症例に限る。

- 手術未施行、または手術施行時に付属器摘出が施行されず、卵巣、卵管の病理学的検索が行われなかった場合

- 術前化学療法等施行後で残存腫瘍がない等、病理学的に付属器病変を十分に検索できない場合

- SEE-FIM プロトコールに準じた卵管の検索が行われなかった場合や、片側の付属器の検索しか行われず、かつ卵管に STIC や高異型度漿液性癌を認めなかった場合（不十分な検索であっても、卵管に STIC や高異型度漿液性癌が認められれば、卵管癌と診断する）

【手術状況】

code No

1	手術施行例
2	術前治療施行例
3	手術未施行例

(1) 初回、試験開腹、試験腹腔鏡で生検等を行ったものの、手術進行期決定に必要な腹腔内検索を行わなかった症例は1には含めない。

(2) 術前化学療法を目的に治療を開始したが、手術を施行しなかった場合、あるいは、登録時点で手術をまだ行っていない場合は3で登録を行う。

(3) 上記の2, 3の場合にはFIGO進行期分類はXXに、pT分類はXXXX、pN分類はNXをそれぞれ選択するが、pM分類は画像診断や胸水細胞診の結果を踏まえて、分類する。

(4) 術前治療施行例や手術未施行例では、治療前の病変の広がりやの評価をFIGO分類やpTNM分類として反映できないため、上記2, 3の場合は治療前臨床分類として、cTNM分類の登録を行う（備考2欄に記入）。また、上記2の場合は加えて、ypTNM分類の登録も行う（備考1欄に記入）。

卵巣腫瘍登録実施要項 2026～

【進行期分類】

FIGOの進行期分類およびpTNM分類を示す。なお、術後の病理診断にてはじめて悪性腫瘍または境界悪性腫瘍と診断された症例においては、該当すると推定される進行期を選択し、入力する。

1. FIGO分類

code No

1A	IA 期
1B	IB 期
1C	IC 期
2A	II A 期
2B	II B 期
3A1	III A1 期
3A2	III A2 期
3B	III B 期
3C	III C 期
4A	IV A 期
4B	IV B 期
99	不明
XX	術前治療施行例・手術未施行症例

code No

1C1	手術操作による被膜破綻
1C2	自然被膜破綻あるいは被膜表面への浸潤
1C3	腹水または腹腔洗浄細胞診に悪性細胞が認められるもの

code No

3A11	転移巣最大径10mm以下
3A12	転移巣最大径10mmをこえる
3A1X	転移巣最大径による分類不能

(1) IC期の場合、この欄に1Cを入力し、さらに手術操作によるものでは「1C1」、被膜の破綻が自然または被膜表面への浸潤があるものでは「1C2」、開腹時の腹腔洗浄細胞診あるいは腹水で悪性細胞が認められた場合には「1C3」を入力する。

(2) IIIA1期の場合、この欄に「3A1」を入力し、転移リンパ節の転移巣の最大病巣径により「3A11」もしくは「3A12」を入力する。

(3) 進行期分類上必要とされるすべての所見が得られなかったとの理由で「99」または「XX」とはしない。得られた情報をもとに該当する進行期を選択すること。例えば、後腹膜リンパ節の触診を行わなかった症例を進行期不明「99」とはしない。

(4) 術前治療例および手術未施行例の場合にはFIGO 進行期分類はXXとする。たとえ、理学所見および画像診断上明らかな遠隔転移を認めたり、胸水細胞診陽性だった場合もIVA期、IVB期とせず、XXとする。

2. pTNM分類

1) pT分類

code No

1A	pT1a
1B	pT1b
1C1	pT1c1
1C2	pT1c2
1C3	pT1c3
2A	pT2a
2B	pT2b
3A	pT3a
3B	pT3b
3C	pT3c
99	不明
XXXX	術前治療施行例・手術未施行症例

2) pN分類

code No

0	pN0 領域リンパ節に転移を認めない
1a	pN1a 領域リンパ節に転移を認める (転移巣最大径10mm以下、組織所見による)
1b	pN1b 領域リンパ節に転移を認める (転移巣最大径10mm超、組織所見による)
1	pN1 領域リンパ節に転移を認める (転移巣最大径不明)
X	pNX 領域リンパ節に転移を判定するための病理学的検索が行われなかった

3) M分類

code No

0	M0 遠隔転移を認めない
1a	M1a 胸水中に悪性細胞を認める
1b	M1b 実質転移ならびに腹腔外臓器(鼠径リンパ節ならびに腹腔外リンパ節を含む)に転移を認めるもの
X	MX 遠隔転移を判定するための検索が行われなかった

M1の場合、遠隔転移の部位を入力する。

code No

code No

PUL	肺転移	BRA	脳転移
PLE	胸膜転移	OSS	骨転移
LYM	リンパ節転移	SKI	皮膚転移
HEP	肝転移	MAR	骨髄転移
OTH	その他		

(1) TNM分類はpTNM分類で示すので、開腹所見および摘出材料の組織所見で決定する。

(2) pNの決定は細胞診または組織診による。触診や画像診断上、腫大を認めただけではpN1とはしない。

(3) M分類は理学所見、画像診断、細胞診、組織診に

卵巣腫瘍登録実施要項 2026～

よる。従って、術前治療例または手術未施行例においても、M1aやM1bと診断される場合にはMXとはしない。

(4) 術前治療例、手術未施行例は、備考2欄にcTNMを入力する。加えて、術前治療例は備考1欄にypTNMも入力を行う。

(5) TNM分類は「卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約」第1版（2015年8月）では、UICC第7版が引き続き使用されると記載されているが、2015年以降の登録ではUICC第8版を使用し、手術進行期分類と対応させる。

【領域リンパ節】

code No

0	腫大なし
1	触診もしくは画像診断にて明らかに転移を疑うリンパ節腫大あり
2	細胞診にてリンパ節転移と診断
3	組織診（郭清or生検）にてリンパ節転移と診断

(1) FIGO2014では、触診や画像診断で転移を疑うリンパ節を認めても、病理学的検索がなされていなければリンパ節転移とは診断しないが、本登録では上記に分けて記録する。

【組織診断】

●上皮性腫瘍

code No

8442/1	漿液性境界悪性腫瘍
8441/2	漿液性卵管上皮内癌*1
8460/2	微小乳頭状漿液性境界悪性腫瘍
8460/3	低異型度漿液性癌
8461/3	高異型度漿液性癌
8472/1	粘液性境界悪性腫瘍
8480/3	粘液性癌
8380/1	類内膜境界悪性腫瘍
8380/3	類内膜癌
8474/3	漿液粘液性癌
8313/1	明細胞境界悪性腫瘍
8310/3	明細胞癌
9000/1	境界悪性ブレンナー腫瘍
9000/3	悪性ブレンナー腫瘍
9111/3	中腎様腺癌
8474/1	漿液粘液性境界悪性腫瘍
8020/3	未分化癌
8020-2/3	脱分化癌
8980/3	癌肉腫
8323/3	混合癌

*1 卵管に孤発性病変が存在した場合にのみ選択したうえで、卵管癌IA期とする。卵巣卵管腹膜に悪性病変を認める際には選択せず、下の漿液性卵管上皮内癌（STIC）で「あり」を選択する。

●間葉系腫瘍

code No

8931/3	低異型度類内膜間質肉腫
8930/3	高異型度類内膜間質肉腫

●混合型上皮性間葉系腫瘍

code No

8933/3	腺肉腫
--------	-----

●性索間質性腫瘍

code No

8810/1	富細胞性線維腫
8810/3	線維肉腫
8760/3	悪性ステロイド細胞腫瘍
8620/3	成人型顆粒膜細胞腫
8622/1	若年型顆粒膜細胞腫
8640/1	セルトリ細胞腫
8623/1	輪状細管を伴う性索腫瘍

●混合型性索間質性腫瘍

code No

8631/1	中分化型セルトリ・ライディッチ細胞腫
8631/3	低分化型セルトリ・ライディッチ細胞腫
8633/1	網状型セルトリ・ライディッチ細胞腫

●胚細胞腫瘍

code No

9060/3	未分化胚細胞腫
9071/3	卵黄嚢腫瘍
9070/3	胎芽性癌
9100/3	絨毛癌
9080-1/3	未熟奇形腫G1
9080-2/3	未熟奇形腫G2
9080-3/3	未熟奇形腫G3
9080-9/3	未熟奇形腫グレード不明
9085/3	混合型胚細胞性腫瘍
9085-1/3	混合型胚細胞性腫瘍： 卵黄嚢腫瘍 + 未分化胚細胞腫*1
9085-3/3	混合型胚細胞性腫瘍： 卵黄嚢腫瘍 + 未熟奇形腫*1

*1 組織分類（日産婦2016、WHO2014）では削除されたが、現実的にこれに相応する場合には選択する。

●単胚葉性奇形腫および皮様嚢腫に伴う体細胞型腫瘍*1

code No

9090/3	悪性卵巣甲状腺腫
8070/3	扁平上皮癌
8240/3	カルチノイド腫瘍
8410/3	脂腺癌

*1 従来の「悪性転化を伴う成熟嚢胞性奇形腫」に該当

卵巣腫瘍登録実施要項 2026～

する場合は、この項目のいずれかを選択する。

●胚細胞・性索間質性腫瘍

code No	
9073/1	性腺芽腫
8594/1	分類不能な混合型胚細胞・性索間質性腫瘍

●その他の腫瘍

code No	
9110/3	卵巣網膜癌
9110/1	ウォルフ管腫瘍
8044/3	高カルシウム血症性小細胞癌
8041/3	小細胞神経内分泌癌
8960/3	ウィルムス腫瘍
8452/1	充実性偽乳頭状腫瘍

●中皮腫瘍

code No	
9050/3	中皮腫

●リンパ性・骨髄性腫瘍

code No	
M39-06	悪性リンパ腫
9734/3	形質細胞腫

●平滑筋腫瘍（腹膜腫瘍）

code No	
8890/1	播種性腹膜平滑筋腫症

●起源不明の腫瘍

code No	
8806/3	線維形成性小型円形細胞腫瘍

●その他の原発腫瘍

code No	
8815/1	孤立性線維性腫瘍
8815/3	悪性孤立性線維性腫瘍
8822/1	腹部線維腫症
8936/3	消化管外間質腫瘍
M99-09	その他の腫瘍

(1) 組織型診断保留中の腫瘍は「XXX-XX」と入力する。組織診断がなされておらず、細胞診のみで登録した症例も、その推定病変によらず「XXX-XX」に分類する。

(2) 左右の卵巣で上記分類による組織型を異にする腫瘍が存在する時は、左側腫瘍の記号をこの欄に入力し、右側腫瘍の記号は備考3欄に入力する。ただし、片方が悪性腫瘍で対側が境界悪性腫瘍の場合には悪性腫瘍の方をこの欄に入力し、境界悪性腫瘍の記号は備考3欄に入力する。

【漿液性卵管上皮内癌（STIC）】

code No	
0	なし
1	あり
9	検索せず

(1) SEE-FIMプロトコルないしは、それに準じた検索を行わなかった場合に、「検索せず」を選択する。

【遺伝子プロファイル】

code No	
0	HRP
1	BRCA1/2病的バリエーション陽性
2	HRDかつBRCA1/2病的バリエーション陰性
8	HR不明かつBRCA1/2病的バリエーション陰性
9	不明

(1) BRACAnalysis®またはMyChoice™診断システム、遺伝子パネル検査等を施行した結果を入力する。

(2) BRACAnalysisのみ施行し、HR statusが不明の場合は、「HR不明かつBRCA1/2病的バリエーション陰性」を選択する。

(3) BRCA1/2病的バリエーション陽性は病的バリエーションのみを含み、VUSの場合は陰性と判断する。生殖細胞系列バリエーションか、腫瘍細胞バリエーションなのかは問わない。

【治療開始年月日】

(1) 腫瘍に対する手術、化学療法、放射線療法がはじめて行われた年月日を西暦で入力する。

(2) 試験開腹術/審査腹腔鏡は治療とみなさない。したがって、試験開腹術施行日は治療開始日とはしない。

【治療法】

1) 手術方法

code No	
1	開腹術
2	腹腔鏡手術
3	ロボット手術
9	該当せず

(1) 術中合併症あるいは術中所見に基づいて、開腹移行をしても、予定されていた術式を選択する。

2) 実施手術

code No	
T1	試験開腹術/審査腹腔鏡
T2	片側付属器摘出（嚢腫摘出術含む）
T3	両側付属器摘出術
T4	子宮摘出術（膣上部切断術を含む）
T5	大網切除術（亜全摘以上）
T6	領域リンパ節の摘出（生検または郭清）

卵巣腫瘍登録実施要項 2026～

T7	その他（他臓器の合併切除等）
----	----------------

(1) 手術に関しては施行した項目を連続して入力する
<例>

子宮摘出術、両側付属器摘出術、大網切除術を行った場合：T3T4T5

子宮摘出術、両側付属器摘出術、大網切除術、後腹膜リンパ節郭清、横隔膜ストリッピングを行った場合：T3T4T5T6T7

2) 化学療法および分子標的治療、放射線療法

code No

Ch	化学療法
Rd	放射線治療
Mo1	分子標的治療（血管新生阻害剤）
Mo2	分子標的治療（PARP阻害剤）
Mo9	分子標的治療（その他）
CMo1	化学療法と分子標的治療（血管新生阻害剤）の同時併用
CMo2	化学療法と分子標的治療（PARP阻害剤）の同時併用
CMo9	化学療法と分子標的治療（その他）の同時併用
Mo1Mo2	分子標的治療同時併用（血管新生阻害剤＋PARP阻害剤）

(1) 試験開腹術/審査腹腔鏡は治療とみなさないが、治療と関連があるので初回手術の場合に限り「T1」と入力する。

(2) これまで生検をT1としていたが、針生検など腹腔内観察を伴わない生検は、手術として登録しない。

(3) T1は限定的な生検を実施した場合のみ選択する。試験開腹術/審査腹腔鏡予定だったものの、原発巣切除などある程度の治療効果がある切除が達成された場合にはT1とせず、該当の実施コードを入力する。

(4) リンパ節に関して別項にも入力する。

(5) 既往に子宮ならびに／あるいは対側卵巣の摘出術を有する卵巣腫瘍症例に、今回手術を行い、結果として両側付属器摘出術あるいは子宮摘出術と同等となった場合は、それぞれに該当する記号（「T3」あるいは「T4」）を入力する。

(6) 手術に関しては、手術によって腫瘍が完全に摘出されたか、あるいはなお残存したかは問わない。初回手術の完遂度については別に入力する。

(7) 同一区分の化学療法の施行中に、レジメンの変更があっても入力コードを連記しない。

(8) 放射線療法では、部位や線源は問わない。

(9) 免疫療法やホルモン療法は入力しない。

(10) 2つ以上の治療を同時に施行した場合は、主たる治療法を先頭にしてそれぞれの記号を入力する。

但し、化学療法と分子標的治療を同時併用した場合はCMoと入力する。

(11) 化学療法と分子標的治療を同時併用した後に、維持療法として分子標的治療の単独投与を行った場合は、「CM」、「Mo」とわけて入力する。

【リンパ節郭清】

code No

0	リンパ節郭清を施行せず
1	骨盤リンパ節郭清のみ施行
2	傍大動脈リンパ節郭清のみ施行
3	両者を施行

(1) 入力時におけるリンパ節郭清術施行の有無について入力する。

(2) 傍大動脈リンパ節の摘出について、それを郭清とするか生検とするかの判断は各施設に委ねる。

【初回手術の完遂度】

code No

0	完全摘出
1	不完全摘出（残存腫瘍径が1cm未満）
2	不完全摘出（残存腫瘍径が1～2cm）
3	不完全摘出（2cmをこえる）
4	不完全摘出（ほとんどが残存）
9	不明

(1) 試験開腹術は「4 不完全摘出（ほとんどが残存）」とする。

(2) 手術未施行例は「4 不完全摘出（ほとんどが残存）」とする。

【試験開腹術の定義】

試験開腹術とは、進行癌のため後療法の効果を期待し、診断のための生検のみにとどめ閉腹した初回手術をいう。

【二回目の手術の完遂度】

code No

X	施行せず
0	完全摘出
1	不完全摘出（残存腫瘍径が1cm未満）
2	不完全摘出（残存腫瘍径が1～2cm）
3	不完全摘出（2cmを超える）
4	不完全摘出（ほとんどが残存）
9	不明

(1) 初回手術後に施行した手術（interval debulking surgeryなど）の完遂度を入力する。再発時の手術はこれに含まない。

【備考1】

術前治療例はypTNMを入力する。

卵巢腫瘍登録実施要項 2026～

【備考2】

術前治療例および手術未施行例はcTNMを入力する。

【備考3】

左右それぞれに原発したと考えられる異なる組織型の記号、他の部位の癌の合併（例）頸癌など、特筆すべきと考えられる事項を入力する。

3年・5年予後報告入力要領

【治療後の健否】

code No

10	生存（非担癌）
11	生存（担癌）
21	卵巢腫瘍・卵管癌・腹膜癌による死亡
22	他の癌による死亡
23	癌と直接関係のない死亡
29	死因不明
99	生死不明

(1) 治療後満3年および満5年について生存か否かを入力する。

(2) 癌による死亡で「卵巢腫瘍・卵管癌・腹膜癌による死亡」か「他の癌による死亡」か不明のときは「卵巢腫瘍・卵管癌・腹膜癌による死亡」とする。

(3) 死因がはっきりしないが癌による死亡が十分疑われる症例は「卵巢腫瘍・卵管癌・腹膜癌による死亡」とする（「死因不明」にしない）。

【最終生存確認年月日】

code No

1	（西暦年月日入力）
2	不明

(1) 最終生存確認年月日を西暦で入力する。

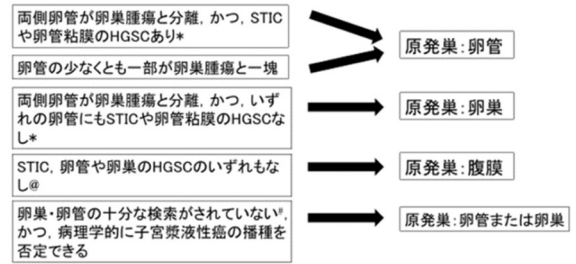
(2) 生死不明の患者はその生存を確認した最終年月日を入力する（退院後行方不明の場合は退院日となる）。

(3) 死亡した患者は死亡年月日を入力する。その年月日が不明の場合は「不明」を選択する。

原発巣の考え方

卵巢や腹膜の高異型度漿液性癌の大多数が、腫瘍の主座（腫瘍が最も大きい臓器）にかかわらず卵管原発であることが指摘され、WHO 分類 第5 版（2020 年）では高異型度漿液性癌の原発巣の決定基準が図1のように記載された。原発巣の診断には、卵管の肉眼所見、SEE-FIM（sectioning and extensively examining the fimbriated end）法を含む卵管と卵巢の適切な切り出し、場合によっては子宮内膜漿液性癌との鑑別が重要である。高異型度漿液性癌と子宮内膜漿液性癌は、組織像のみで鑑別することは困難で、そ

の広がりや周囲の所見を加味して総合的に判断する。子宮内膜漿液性癌が否定された場合に下記図1、図2に従って、原発巣を診断する。



STIC: 漿液性卵管上皮内癌; *SEE-FIM法で検索; #卵管(SEE-FIM法)・卵巢の十分な検索が必要
*生検、卵巢・卵管切除後、化学療法後、SEE-FIM法・それに準じた卵管の検索がなされていない場合
HGSC: 高異型度漿液性癌

図1 高異型度漿液性癌の原発巣決定方法

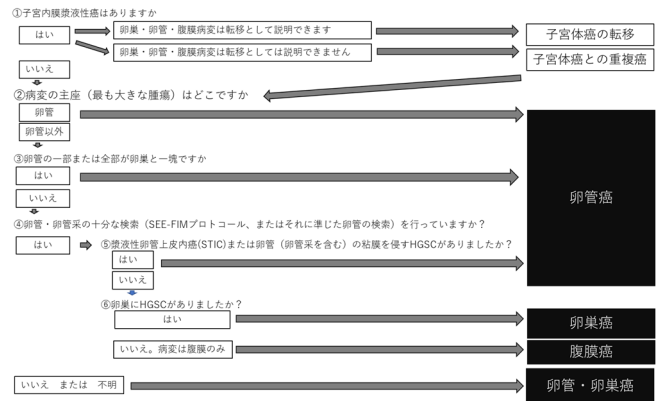


図2 高異型度漿液性癌の原発巣決定のためのフローチャート

進行期分類

1. 手術進行期分類（日産婦2014、FIGO 2014）

I 期	卵巢あるいは卵管内限局発育
IA	腫瘍が一侧の卵巢（被膜破綻がない）あるいは卵管に限局し、被膜表面への浸潤が認められないもの。腹水または洗浄液の細胞診にて悪性細胞の認められないもの
IB	腫瘍が両側の卵巢（被膜破綻がない）あるいは卵管に限局し、被膜表面への浸潤が認められないもの。腹水または洗浄液の細胞診にて悪性細胞の認められないもの
IC	腫瘍が一侧または両側の卵巢あるいは卵管に限局するが、以下のいずれかが認められるもの IC1期：手術操作による被膜破綻 IC2期：自然被膜破綻あるいは被膜表面への浸潤 IC3期：腹水または腹腔洗浄細胞診に悪性細胞が認められるもの
II 期	腫瘍が一侧または両側の卵巢あるいは卵管

卵巣腫瘍登録実施要項 2026～

	に存在し、さらに骨盤内（小骨盤腔）への進展を認めるもの、あるいは原発性腹膜癌
II A	進展ならびに/あるいは転移が子宮ならびに/あるいは卵管ならびに/あるいは卵巣に及ぶもの
II B	他の骨盤部腹腔内臓器に進展するもの
III 期	腫瘍が一側または両側の卵巣あるいは卵管に存在し、あるいは原発性腹膜癌で、細胞学的あるいは組織学的に確認された骨盤外の腹膜播種ならびに/あるいは後腹膜リンパ節転移を認めるもの。
III A1	後腹膜リンパ節転移陽性のみを認めるもの（細胞学的あるいは組織学的に確認） III A1(i)期：転移巣最大径10mm以下 III A1(ii)期：転移巣最大径10mmをこえる
III A2	後腹膜リンパ節転移の有無にかかわらず、骨盤外に顕微鏡的播種を認めるもの
III B	後腹膜リンパ節転移の有無にかかわらず、最大径2cm以下の腹腔内播種を認めるもの
III C	後腹膜リンパ節転移の有無にかかわらず、最大径2cmをこえる腹腔内播種を認めるもの（実質転移を伴わない肝および脾の被膜への進展を含む）
IV 期	腹膜播種を除く遠隔転移
IVA	胸水中に悪性細胞を認める
IV B	実質転移ならびに腹腔外臓器（鼠径リンパ節ならびに腹腔外リンパ節を含む）に転移を認めるもの

(1) 卵巣内に限局した状態であったI期では、卵巣あるいは卵管内限局発育と定義され、IC期では、再分類された。

IC1期：手術操作による被膜破綻

IC2期：自然被膜破綻あるいは被膜表面への浸潤

IC3期：腹水または腹腔洗浄細胞診に悪性細胞が認められるもの

(2) 原発性腹膜癌にはI期が存在しない。

(3) 腫瘍が両側の卵巣あるいは卵管に限局して存在している場合であっても、一方の卵巣あるいは卵管が原発巣で、体側の卵巣あるいは卵管の病巣が播種巣あるいは転移巣と判断される場合には、IB期ではなくII A期とする。

(4) 手術操作による被膜破綻はIC1期に分類するが、組織学的に証明された腫瘍細胞の露出を伴う強固な癒着はII期とする。

(5) S状結腸は骨盤部腹腔内臓器に分類される。

(6) 骨盤内（小骨盤腔）へ進展するII期に原発性腹膜癌が含まれたため、II c 期（腫瘍発育がII a またはII b で被膜表面への浸潤や被膜破綻が認められたり、腹水または洗浄液の細胞診にて悪性細胞がみとめられるもの）が削除された。

(7) III期では、骨盤外の腹膜播種や後腹膜リンパ節転移について、細胞学的あるいは組織学的に確認する必要がある。

リンパ節腫大のみでは転移と判定しない。転移巣最大径による細分類が追加された。

III A1(i)期：転移巣最大径10mm以下

III A1(ii)期：転移巣最大径10mmを超える

III A2期：後腹膜リンパ節転移の有無にかかわらず、骨盤外に顕微鏡的播種を認めるもの

(8) 遠隔転移を有する例をIV期としたが、胸水中に悪性細胞を認めるのみの例をIV A期とする。

(9) 腸管の貫通性浸潤、臍転移、肝や脾への実質転移は肺転移や骨転移同様にIV B期とする。ただし、大網から肝や脾への腫瘍の進展はIV B期とせず、III C期とする。

2. pTNM分類（UICC）

手術所見や摘出材料の病理組織学的検索により、TNM分類を補足修正したもので、pT、pN、pMとして表す。

1) pT：原発腫瘍の進展度

pTX	原発腫瘍の評価が不可能
pT0	原発腫瘍を認めない
pT1	卵巣あるいは卵管内限局発育
pT1a	腫瘍が一側の卵巣（被膜破綻がない）あるいは卵管に限局し、被膜表面への浸潤が認められないもの。腹水または洗浄液の細胞診にて悪性細胞の認められないもの
pT1b	腫瘍が両側の卵巣（被膜破綻がない）あるいは卵管に限局し、被膜表面への浸潤が認められないもの。腹水または洗浄液の細胞診にて悪性細胞の認められないもの
pT1c	腫瘍が一側または両側の卵巣あるいは卵管に限局するが、以下のいずれかが認められるもの
pT1c1	・手術操作による被膜破綻
pT1c2	・自然被膜破綻、被膜表面への浸潤
pT1c3	・腹水または腹腔洗浄細胞診に悪性細胞が認められるもの
pT2	腫瘍が一側または両側の卵巣あるいは卵管に存在し、さらに骨盤内（小骨盤腔）への進展を認めるもの、あるいは原発性腹膜癌
pT2a	進展ならびに/あるいは転移が子宮ならびに/あるいは卵管ならびに/あるいは卵巣に及ぶもの
pT2b	他の骨盤部腹腔内臓器に進展するもの
pT3	腫瘍が一側または両側の卵巣あるいは卵管に存在し、あるいは原発性腹膜癌で、細胞学的あるいは組織学的に確認された骨盤外の腹膜播種

卵巣腫瘍登録実施要項 2026～

pT3a	骨盤外に顕微鏡的播種を認めるもの
pT3b	最大径2cm以下の腹腔内播種を認めるもの
pT3c	最大径2cmをこえる腹腔内播種を認めるもの

II B 期	T2bN0M0
III A1(i)期	T1-2N1aM0
III A1(ii)期	T1-2N1bM0
III A2 期	T3aN0/N1M0
III B 期	T3bN0/N1M0
III C 期	T3cN0/N1M0
IV A 期	T1-3N0/N1M1a
IV B 期	T1-3N0/N1M1b

2) pN：領域リンパ節

領域リンパ節としては、傍大動脈節、総腸骨節、内・外腸骨節、仙骨節、閉鎖節、単径上節などが含まれる。

pNX	領域リンパ節転移の評価が不可能
pN0	領域リンパ節転移なし
pN1	領域リンパ節転移あり
pN1a	転移巣最大径10mm以下
pN1b	転移巣最大径10mmをこえる

3) M：遠隔転移

MX	遠隔転移を判定するための検索が行われなかったとき
M0	遠隔転移を認めない
M1a	胸水中に悪性細胞を認める
M1b	実質転移ならびに腹腔外臓器（鼠径リンパ節ならびに腹腔外リンパ節を含む）に転移を認めるもの

4) その他

(1) c-symbol

治療開始時に十分な腹腔内検索が行われていない場合（術前治療例、手術未施行例）は理学所見や画像診断から評価して、c-symbolを用い以下のように示す。

（例） cT2bN1M0

(2) y-symbol

pTNM分類決定前に集学的治療がなされた場合はy-symbolを用い以下のように示す。

（例） ypT2bN1M0

(3) FIGO分類とTNM分類の対比表

FIGO分類	TNM分類
IA 期	T1aN0M0
IB 期	T1bN0M0
IC1 期	T1c1N0M0
IC2 期	T1c2N0M0
IC3 期	T1c3N0M0
II A 期	T2aN0M0

外陰癌登録実施要項 2023～

変更履歴

2023年～新進行期分類（日産婦2022、FIGO2021）に変更

2016年～新規登録開始

個別報告入力要領

治療患者の登録は、毎年、前年1月1日から12月31日の間に治療を開始した患者につき、以下の原則に従って行う。

(1) 外陰に原発した浸潤癌で、組織学的に確認されたもののみを報告する。治療開始日は、外陰癌治療を開始した年月日とする。外陰部には恥丘・陰核・大陰唇・小陰唇・大前庭腺・腔前庭が含まれる。

(2) 診断のみ行い治療を行わなかった症例、診断が最終的に細胞診のみによって下された場合は報告より除外する。

(3) 初回治療として手術がなされなかった症例（放射線や化学療法など）の進行期は、MRI、CTなどの画像診断で新進行期分類を用いて推定する。

(4) 悪性黒色腫、パジェット病は独自の進行期分類があるため、今回の外陰癌の登録からは除外する。

(5) T、N、M判定のための最低必要な臨床的な検索および画像診断が行われていない場合にはTX,NX,MXの記号で示す。

(6) 手術前に他の治療が行われている例では、y記号を付けて区別する。pT、pN、pM分類については、TNM分類に準じ、病理学的pTNMが用いられる。
例：ypT2N1bM0

【登録コード】

code No

1	新規報告患者（追加したい患者）
2	既報告患者の内容変更
3	既報告患者の削除

【患者No.】

自動表示（VU20XX-から始まる番号）

【年齢】

治療開始時点での満年齢を入力する。

【手術状況】

code No

1	手術施行例
2	手術未施行例
3	術前治療施行例

(1) 進行期はFIGO分類、TNMはUICC第8版に従う。

(2) 術前に放射線治療や化学療法を施行した症例は「術前治療施行例」となり、進行期分類(FIGO、TNM)は画像診断を用い、進行期を推定して登録、備考1欄にypTNMとして手術所見に即してpTNM分類を

入力する。

【進行期分類】

1. FIGO分類（日産婦2022、FIGO2021）

code No

10	I 期（亜分類不明）
11	I A 期
12	I B 期
20	II 期
30	III 期（亜分類不明）
31	III A 期
32	III B 期
33	III C 期
40	IV 期（亜分類不明）
41	IV A 期
42	IV B 期

（注1）癌および VIN の近傍にある正常表皮突起の最深部の基底膜の深さから癌の浸潤先端の深さまでの距離を間質浸潤の深さとする

2. TNM分類（UICC第8版）

1) T分類

code No

99	TX
00	T0
01	Tis
10	T1（亜分類不明）
11	T1a
12	T1b
20	T2
30	T3

(1) Tisは上皮内癌（VIN3）であるが、2008年FIGO進行期分類の改定以降、Tisに該当する症例は進行期分類から削除されている。

(2) T0とTXを混同しないこと。

T0：臨床所見より外陰癌と診断したが、原発巣より組織学的な癌の診断ができないもの（組織学的検索をせずに治療を始めたものを含む）。

TX：組織学的に外陰癌と診断したが、その進行度の判定が何らかの障害で不能なもの。

2) N分類

code No

NX	領域リンパ節転移の評価が不可能
N0	領域リンパ節転移なし
N1a	5mm未満のリンパ節転移が1～2個
N1b	5mm以上のリンパ節転移が1個
N2a	5mm未満のリンパ節転移が3個以上
N2b	5mm以上のリンパ節転移が2個以上
N2c	節外浸潤を呈するリンパ節転移
N3	固着性または潰瘍性の領域リンパ節転移

（注1）領域リンパ節は鼠径リンパ節である。鼠径リン

外陰癌登録実施要項 2023～

パ節は浅鼠径リンパ節と深鼠径リンパ節に分けられる（日本癌治療学会リンパ節規約、2002年）。

（注2）リンパ節郭清の未施行例では、触診、視診、画像診断を参考にして転移の有無を判断する。

（注3）5mmは転移巣の大きさであり、リンパ節の大きさではない。

3) M分類

code No

M0	遠隔転移なし
M1	遠隔転移あり
MX	遠隔転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった

3. 組織診断

1) 組織型

code No

10	扁平上皮癌
20	腺癌
30	腺扁平上皮癌
90	その他
99	不明

【治療開始年月日】

癌に対する手術、化学療法、放射線療法がはじめて行われた年月日を西暦で入力する。

【治療法】

code No

10	手術
20	化学療法
30	放射線療法
40	同時化学放射線療法
99	その他の治療

（1）いくつかの治療を併用した場合には、主治療を先に、その他、施行した順に入力するのが原則とする。ただし、上記5つの治療法のうち、代表的なもの6つまでを入力すること。

（2）手術には、根治的部分切除術、単純外陰切除、リンパ組織もあわせて切除する広汎外陰切除術などがあるがすべて手術として記載する。

（3）術前治療施行例の場合は治療を行った順に入力する。

（4）手術、放射線療法の補助として、化学療法、その他の治療を行ったが、その投与量が明らかに不十分とみなされる場合は治療法として入力しない。

【備考1】

進行期分類の選択の項目にて「術前治療施行例」を選択した場合にはypTNMとして手術時所見に即してpTNM分類を入力する。

【備考2】

不完全治療、特筆すべきと考えられる事項を入力する。

3年および5年予後報告入力要領

【治療後の健否】

code No

10	生存（非担癌）
11	生存（担癌）
21	外陰癌による死亡
22	他の癌による死亡
23	癌と直接関係のない死亡
29	死因不明
99	生死不明

（1）治療後満3年、満5年について生存か否かを入力する。

（2）癌による死亡で「外陰癌による死亡」か「他の癌による死亡」か不明のときは「外陰癌による死亡」とする。

（3）死因がはっきりしないが癌による死亡が十分疑われる症例は「外陰癌による死亡」とする（「死因不明」としない）。

【最終生存確認年月日】

code No

1	（西暦年月日入力）
2	不明

（1）最終生存確認年月日を西暦で入力する。

（2）生死不明の患者はその生存を確認した最終年月日を入力する（退院後行方不明の場合は退院日となる）。

（3）死亡した患者は死亡年月日を入力する。その年月日が不明の場合は「不明」を選択する。

進行期分類

1. FIGO進行期分類（日産婦2022、FIGO2021）

I 期	外陰に限局した腫瘍
I A期	腫瘍径 2cm 以下の腫瘍で、間質浸潤の深さが 1mm 以下のもの ¹ 、リンパ節転移はない
I B期	腫瘍径 2cm をこえるかまたは間質浸潤の深さが 1mm をこえるもの ¹ 、リンパ節転移はない
II 期	腫瘍が隣接組織の下部（尿道下部 1/3、膣下部 1/3、肛門管 ² 下部 1/3）に浸潤するもの。リンパ節転移はない。腫瘍の大きさは問わない
III 期	腫瘍が隣接組織の上部まで浸潤するか、固着や潰瘍を伴わない鼠径リンパ節 ³ に

外陰癌登録実施要項 2023～

	転移のあるもの。腫瘍の大きさは問わない
ⅢA期	尿道上部 2/3、膣上部 2/3、肛門管 ² 上部 2/3、膀胱粘膜、直腸粘膜に浸潤する腫瘍、または 5mm 以下の鼠径リンパ節 ³ 転移があるもの。腫瘍の大きさは問わない
ⅢB期	5mmをこえる鼠径リンパ節 ³ 転移があるもの
ⅢC期	被膜外浸潤を有する鼠径リンパ節 ³ 転移があるもの
Ⅳ期	腫瘍が骨に固着するか、固着あるいは潰瘍化したリンパ節転移があるもの。または遠隔転移のあるもの。腫瘍の大きさは問わない
ⅣA期	骨盤骨に固着した腫瘍か、固着あるいは潰瘍化した鼠径リンパ節 ³ 転移があるもの
ⅣB期	遠隔臓器に転移のあるもの

(注1) 癌および VIN の近傍にある正常表皮突起の最深部の基底膜の深さから癌の浸潤先端の深さまでの距離を間質浸潤の深さとする

(注2) ここでの肛門管は肛門縁から肛門括約筋上縁の高さまでの部分である

(注3) 鼠径リンパ節は深鼠径および浅鼠径リンパ節を指す

(1) 0期はFIGO分類から削除された。

2. TNM分類 (UICC第8版)

1) T—原発腫瘍

TX	原発腫瘍の評価が不可能
T0	原発腫瘍を認めない
Tis	上皮内癌 (浸潤前癌)
T1	外陰、または外陰と会陰に限局する腫瘍
T1a	最大径2cm以下の腫瘍で間質浸潤1.0mm以下 ¹
T1b	最大径2cmをこえる腫瘍か、および/または間質浸潤が1.0mmをこえる ¹
T2	次の構造のいずれかに浸潤する腫瘍：尿道の下部3分の1、膣の下部3分の1、肛門
T3 ²	次の会陰構造のいずれかに浸潤する腫瘍：尿道の上部3分の2、膣の上部3分の2、膀胱粘膜、直腸粘膜に進展する、または骨盤骨に固着する腫瘍

(注1) 浸潤の深達度は隣接する最も表層の真皮乳頭の上皮間質接合部から最深浸潤点までを計測する。

(1) FIGOではT3は使用しない

2) N—領域リンパ節

NX	領域リンパ節転移の評価が不可能
N0	領域リンパ節転移なし

N1	以下の特徴をもつ領域リンパ節転移
N1a	1個5mm未満のリンパ節転移が1～2個
N1b	5mm以上のリンパ節転移が1個
N2	以下の特徴をもつ領域リンパ節転移
N2a	1個5mm未満のリンパ節転移が3個以上
N2b	5mm以上のリンパ節転移が2個以上
N2c	節外浸潤を呈するリンパ節転移
N3	固着性または潰瘍性の領域リンパ節転移

3) M—遠隔転移

MX	遠隔転移の評価が不可能
M0	遠隔転移なし
M1	遠隔転移あり (骨盤リンパ節転移を含む)

個別報告入力要領

治療患者の登録は、毎年、前年1月1日から12月31日の間に治療を開始した患者につき、以下の原則に従って行う。

(1) 腔に原発した浸潤癌で、組織学的に確認されたもののみを報告する。治療開始日は、腔癌治療を開始した年月日とする。外陰と腔にまたがる腫瘍は外陰癌として扱い、子宮頸部にまで広がり外子宮口におよんでいるものは子宮頸癌として扱う。

(2) 診断のみを行い治療を行わなかった症例、診断が最終的に細胞診のみによって下された場合は報告より除外する。

(3) 子宮頸癌と同様、臨床進行期分類が採用されているため進行期の決定にMRIやCTは使用しない。

(4) 上皮性悪性腫瘍のみを登録し、肉腫、悪性黒色腫は除外する。

(5) T、N、M判定のための最低必要な臨床的な検索および画像診断が行われていない場合にはTX,NX,MXの記号で示す。

(6) 手術前に他の治療が行われている例では、y記号を付けて区別する。pT,pN,pM分類については、TNM分類に準じ、病理学的pTNMが用いられる。

例：ypT2N1M0

【登録コード】

code No

1	新規報告患者（追加したい患者）
2	既報告患者の内容変更
3	既報告患者の削除

【患者No.】

自動表示（VA20XX-から始まる番号）

【年齢】

治療開始時点での満年齢を入力する。

【手術状況】

code No

1	手術施行例
2	手術未施行例
3	術前治療施行例

(1) FIGO、UICCの進行期分類は同じにすること。

(2) 術前に放射線治療や化学療法を施行した症例は「術前治療施行例」となり、進行期分類(FIGO、TNM)は画像診断を用い、臨床進行期を推定して登録、備考1欄にypTNMとして手術所見に即してpTNM分類を入力する。

【進行期分類】

1. FIGO分類（日産婦2014、FIGO1971）

code No

10	I 期
20	II 期
30	III 期
40	IV 期（亜分類不明）
41	IVA 期
42	IVB 期

2. TNM分類（UICC第8版）

1) T分類

code No

99	TX
00	T0
01	Tis
10	T1
20	T2
30	T3
40	T4

(1) Tisは上皮内癌であるが、2008年FIGO進行期分類の改定により、Tisに該当する症例は進行期分類から削除されている。

(2) T0とTXを混同しないこと。

T0：臨床所見より腔癌と診断したが、原発巣より組織学的な癌の診断ができないもの（組織学的検索をせずに治療を始めたものを含む）。

TX：組織学的に腔癌と診断したが、その進行度の判定が何らかの障害で不能なもの。

2) N分類

code No

NX	領域リンパ節転移の評価が不可能
N0	領域リンパ節転移なし
N1	領域リンパ節転移あり

(注1) 領域リンパ節は、腔上部2/3の場合は骨盤リンパ節（鼠径上リンパ節、閉鎖リンパ節、内腸骨リンパ節、外腸骨リンパ節、総腸骨リンパ節、仙骨リンパ節）。腔下部1/3の場合は鼠径リンパ節（浅鼠径リンパ節、深鼠径リンパ節）。

3) M分類

code No

M0	遠隔転移なし
M1	遠隔転移あり
MX	遠隔転移の評価が不可能

腔癌登録実施要項 2016～

3. 組織診断

1) 組織型

code No

10	扁平上皮癌
20	腺癌
30	腺扁平上皮癌
90	その他
99	不明

【治療開始年月日】

癌に対する手術、化学療法、放射線療法がはじめて行われた年月日を西暦で入力する。

【治療法】

code No

10	手術
20	化学療法
30	放射線療法
40	同時化学放射線療法
99	その他の治療

(1) いくつかの治療を併用した場合には、主治療を先に、その他、施行した順に入力するのを原則とする。ただし、上記5つの治療法のうち、代表的なもの6つまでを入力すること。

(2) 術前治療施行例の場合は治療を行った順に入力する。

(3) 手術、放射線療法の補助として、化学療法、その他の治療を行ったが、その投与量が明らかに不十分とみなされる場合は治療法として入力しない。

【備考1】

進行期分類の選択の項目にて「術前治療施行例」を選択した場合にはypTNMとして手術時所見に即してpTNM分類を入力する。

【備考2】

不完全治療、特筆すべきと考えられる事項を入力する。

(1) 治療後満3年、満5年について生存か否かを入力する。

(2) 癌による死亡で「腔癌による死亡」か「他の癌による死亡」か不明のときは「腔癌による死亡」とする。

(3) 死因がはっきりしないが癌による死亡が十分疑われる症例は「腔癌による死亡」とする（「死因不明」としない）。

【最終生存確認年月日】

code No

1	(西暦年月日入力)
2	不明

(1) 最終生存確認年月日を西暦で入力する。

(2) 生死不明の患者はその生存を確認した最終年月日を入力する（退院後行方不明の場合は退院日となる）。

(3) 死亡した患者は死亡年月日を入力する。その年月日が不明の場合は「不明」を選択する。

進行期分類

1. FIGO進行期分類（日産婦2014、FIGO1971）

I 期	癌が腔壁に局限するもの
II 期	癌が傍腔結合織まで浸潤するが、骨盤壁には達していないもの
III 期	癌が骨盤壁にまで達するもの
IV 期	癌が小骨盤腔をこえて広がるか、膀胱、直腸粘膜を侵すもの
IV A 期	膀胱および/または直腸粘膜への浸潤があるもの、および/または小骨盤腔をこえて直接進展のあるもの、但し、胞状浮腫の所見のみでIV期と診断してはならない
IV B 期	遠隔転移を認めるもの

(1) 0期はFIGO分類から削除された。

2. TNM分類（UICC第8版）

1) T—原発腫瘍

TX	原発腫瘍の評価が不可能
T0	原発腫瘍を認めない
Tis	上皮内癌
T1	腔壁に局限する腫瘍
T2	腔傍組織に浸潤するが、骨盤壁には達していない腫瘍
T3	骨盤壁に達する腫瘍
T4	膀胱および/または直腸の粘膜への浸潤が

3年および5年予後報告入力要領

【治療後の健否】

code No

10	生存（非担癌）
11	生存（担癌）
21	腔癌による死亡
22	他の癌による死亡
23	癌と直接関係のない死亡
29	死因不明
99	生死不明

	あるもの、および/または小骨盤をこえて直接進展のあるもの。但し、泡状浮腫の所見のみではT4と診断しない。
--	--

(注1) 泡状浮腫はT4に分類するには十分な証拠はない。したがって生検の確証を得なければならない。

2) N-領域リンパ節

NX	領域リンパ節転移の評価が不可能
N0	領域リンパ節転移なし
N1	領域リンパ節転移あり

(注1) 領域リンパ節は、腔上部2/3の場合は骨盤リンパ節（鼠径上リンパ節、閉鎖リンパ節、内腸骨リンパ節、外腸骨リンパ節、総腸骨リンパ節、仙骨リンパ節）。腔下部1/3の場合は鼠径リンパ節（浅鼠径リンパ節、深鼠径リンパ節）。

3) M-遠隔転移

MX	遠隔転移の評価が不可能
M0	遠隔転移なし
M1	遠隔転移あり（腔下部1/3の場合は骨盤リンパ節転移を含む）

< FIGO分類とTNM分類の対比表 >

	N0	N1
T1	I	I
T2	II	II
T3	III	III
T4	IVA	IVA
M1	IVB	IVB

子宮肉腫登録実施要項 2018～

個別報告入力要領

治療患者の登録は、毎年、前年1月1日から12月31日の間に治療を開始した患者につき、以下の原則に従って行う。

(1) 子宮に原発した悪性腫瘍で、組織学的に確認されたもののみを報告する。治療開始日は、子宮肉腫治療を開始した年月日とする。

(2) 診断のみを行い治療を行わなかった症例、試験開腹のみを行いそれ以後に子宮肉腫に対する治療をまったく行わなかった症例、診断が最終的に細胞診のみによって下された場合は報告より除外する。

(3) 初回治療として手術がなされなかった症例（放射線や化学療法など）の進行期は、MRI、CTなどの画像診断で新進行期分類を用いて推定する。

(4) 「子宮体癌取り扱い規約第4版病理編」の組織学的分類のうち、間葉性腫瘍が本登録の対象となり、平滑筋肉腫、横紋筋肉腫、低異型度子宮内膜間質肉腫、高異型度子宮内膜間質肉腫、未分化肉腫が該当する。

Adenosarcoma with sarcomatous overgrowthは腺肉腫に含まれる。腺肉腫、癌肉腫は子宮肉腫と進行期が異なるため、本子宮肉腫登録からは除外し、別に登録する。

(5) 子宮内膜間質肉腫および腺肉腫については、子宮体部腫瘍と卵巣・骨盤内子宮内膜症を伴う卵巣・骨盤内腫瘍が同時に存在する場合、それぞれ独立した腫瘍として取り扱うことに注意する。

(6) 下記の検索はT、N、M判定のための最低必要な検査法で、これが行われていない場合にはTX, NX, MXの記号で示す。FIGO進行期分類は手術進行期分類に、TNM分類は臨床的、組織学的分類にそれぞれ基づいている。

Tカテゴリー：臨床的な検索および画像診断

Nカテゴリー：臨床的な検索および画像診断

Mカテゴリー：臨床的な検索および画像診断

(7) 手術前に他の治療が行われている例では、y記号を付けて区別する。pT, pN, pM分類については、TNM分類に準じ、病理学的pTNMが用いられる。

例：ypT2bN1M0

【登録コード】

code No

1	新規報告患者（追加したい患者）
2	既報告患者の内容変更
3	既報告患者の削除

【患者No.】

自動表示（US20XX-から始まる番号）

【年齢】

治療開始時点での満年齢を入力する。

【手術状況】

code No

1	手術施行例
2	手術未施行例
3	術前治療施行例

(1) FIGO, UICCの進行期分類は同じにすること。

(2) 術前に放射線治療や化学療法を施行した症例は「術前治療施行例」となり、進行期分類(FIGO, TNM)は画像診断を用い、臨床進行期を推定して登録、備考1欄にypTNMとして手術所見に即してpTNM分類を入力する。

【進行期分類】

1. FIGO分類（日産婦2014、FIGO2008）

code No

10	I 期（亜分類不明）
11	I A 期
12	I B 期
20	II 期（亜分類不明）
21	II A 期
22	II B 期
30	III 期（亜分類不明）
31	III A 期
32	III B 期
33	III C 期
40	IV 期（亜分類不明）
41	IV A 期
42	IV B 期

（注1）平滑筋肉腫/子宮内膜間質肉腫では、腫瘍が子宮に限局するI期を、I A期：腫瘍サイズが5cm以下のもの、I B期：腫瘍サイズが5cmをこえるものと定義した。

（注2）腫瘍が骨盤外の腹腔内組織に浸潤するものをIII期とし、単に骨盤内に突出しているものは除く。

（注3）多臓器の進展は組織学的検索が望ましい。

2. TNM分類（UICC第8版）

1) T分類

code No

99	TX
00	T0
10	T1
11	T1a
12	T1b
20	T2
21	T2a
22	T2b
30	T3
31	T3a
32	T3b
40	T4

子宮肉腫登録実施要項 2018～

2) N分類

code No

N0	領域リンパ節に転移を認めない
N1	領域リンパ節に転移を認める
NX	領域リンパ節に転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった

(注1) 領域リンパ節は閉鎖リンパ節、内腸骨リンパ節、外腸骨リンパ節、総腸骨リンパ節、仙骨リンパ節、基靭帯リンパ節および大動脈周囲リンパ節（傍大動脈リンパ節）である。

(注2) リンパ節郭清の未施行例では、触診、視診、画像診断を参考にして転移の有無を判断する。

3) M分類

code No

M0	遠隔転移を認めない
M1	遠隔転移を認める
MX	遠隔転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった

3. 組織診断

1) 組織型

code No

8890/3	平滑筋肉腫
8891/3	類上皮平滑筋肉腫
8896/3	類粘液平滑筋肉腫
8931/3	低異型度子宮内膜間質肉腫
8930/3	高異型度子宮内膜間質肉腫
8805/3	未分化子宮肉腫
8900/3	横紋筋肉腫
90	その他
99	不明（採取せず）

(注) 癌肉腫は「子宮体癌オンライン登録」から登録する。

【治療開始年月日】

癌に対する手術、化学療法、放射線療法がはじめて行われた年月日を西暦で入力する。

【治療法】

code No

10	手術
20	化学療法
30	放射線療法
40	同時化学放射線療法
50	ホルモン療法
60	分子標的療法
99	その他の治療

(1) いくつかの治療を併用した場合には、主治療を先に、その他、施行した順に入力するのを原則とする。ただし、上記7つの治療法のうち、代表的なもの6

つまでを入力すること。

(2) 術前治療施行例の場合は治療を行った順に入力する。

(3) 試験開腹または癌の原発巣を除去する以外の目的の手術（尿管移植、イレウス、尿瘻形成などに対する手術）は入力しない。

(4) 開腹で生検材料のみを採取し、閉腹したものは手術としない。

(5) 手術、放射線療法の補助として、化学療法、ホルモン療法、その他の治療を行ったが、その投与量が明らかに不十分とみなされる場合は治療法として入力しない。

【備考1】

進行期分類の選択の項目にて「術前治療施行例」を選択した場合にはypTNMとして手術時所見に即してpTNM分類を入力する。

【備考2】

不完全治療、特筆すべきと考えられる事項を入力する。

3年および5年予後報告入力要領

【治療後の健否】

code No

10	生存（非担癌）
11	生存（担癌）
21	子宮肉腫による死亡
22	他の癌による死亡
23	肉腫と直接関係のない死亡
29	死因不明
99	生死不明

(1) 治療後満3年、満5年について生存か否かを入力する。

(2) 癌による死亡で「子宮肉腫による死亡」か「他の癌による死亡」か不明のときは「子宮肉腫による死亡」とする。

(3) 死因がはっきりしないが癌による死亡が十分疑われる症例は「子宮肉腫による死亡」とする（「死因不明」としない）。

【最終生存確認年月日】

code No

1	（西暦年月日入力）
2	不明

(1) 最終生存確認年月日を西暦で入力する。

(2) 生死不明の患者はその生存を確認した最終年月日を入力する（退院後行方不明の場合は退院日となる）。

子宮肉腫登録実施要項 2018～

(3) 死亡した患者は死亡年月日を入力する。その年月日が不明の場合は「不明」を選択する。

進行期分類

1. FIGO進行期分類（日産婦2014、FIGO2008）

I 期	腫瘍が子宮に限局するもの
I A期	腫瘍サイズが5cm以下のもの
I B期	腫瘍サイズが5cmをこえるもの
II 期	腫瘍が骨盤腔に及ぶもの
II A期	付属器浸潤のあるもの
II B期	その他の骨盤内組織へ浸潤するもの
III 期	腫瘍が骨盤外に進展するもの
III A期	1部位のもの
III B期	2部位以上のも
III C期	骨盤リンパ節ならびに/あるいは傍大動脈リンパ節転移のあるもの
IV 期	
IV A期	膀胱粘膜ならびに/あるいは直腸粘膜に浸潤のあるもの
IV B期	遠隔転移のあるもの

2. TNM分類（UICC第8版）

1) T－原発腫瘍

TX	原発腫瘍の評価が不可能
T0	原発腫瘍を認めない
T1	腫瘍が子宮に限局するもの
T1a	最大径が5cm以下の腫瘍
T1b	最大径が5cmをこえる腫瘍
T2	腫瘍が骨盤腔に及ぶもの
T2a	付属器浸潤のあるもの
T2b	その他の骨盤内組織に浸潤するもの
T3	腫瘍が骨盤外へ進展するもの
T3a	1部位のもの
T3b	2部位以上のも
T4	膀胱粘膜ならびに/または直腸粘膜に浸潤のあるもの

2) N－領域リンパ節

NX	領域リンパ節転移の評価が不可能
N0	領域リンパ節転移なし
N1	領域リンパ節転移あり

（注1）領域リンパ節は閉鎖リンパ節、内腸骨リンパ節、外腸骨リンパ節、総腸骨リンパ節、仙骨リンパ節、基靭帯リンパ節および大動脈周囲リンパ節（傍大動脈リンパ節）である。

（注2）リンパ節郭清の未施行例では、触診、視診、画像診断を参考にして転移の有無を判断する。

3) M－遠隔転移

MX	遠隔転移の評価が不可能
M0	遠隔転移なし
M1	遠隔転移あり

< FIGO分類とTNM分類の対比表 >

	N0	N1
T1	I	III C
T1a	I A	III C
T1b	I B	III C
T2	II	III C
T2a	II A	III C
T2b	II B	III C
T3	III	III C
T3a	III A	III C
T3b	III B	III C
T4	IV A	IV A
M1	IV B	IV B

子宮腺肉腫登録実施要項 2016～

個別報告入力要領

治療患者の登録は、毎年、前年1月1日から12月31日の間に治療を開始した患者につき、以下の原則に従って行う。

(1) 子宮に原発した悪性腫瘍で、組織学的に確認されたもののみを報告する。治療開始日は、子宮肉腫治療を開始した年月日とする。

(2) 診断のみを行い治療を行わなかった症例、試験開腹のみを行いそれ以後に子宮腺肉腫に対する治療をまったく行わなかった症例、診断が最終的に細胞診のみによって下された場合は報告より除外する。

(3) 初回治療として手術がなされなかった症例（放射線や化学療法など）の進行期は、MRI、CTなどの画像診断で新進行期分類を用いて推定する。

(4) Adenosarcoma with sarcomatous overgrowthは治療に抵抗することが多く、腺肉腫に含まれる。

(5) 子宮内膜間質肉腫および腺肉腫については、子宮体部腫瘍と卵巣・骨盤内子宮内膜症を伴う卵巣・骨盤内腫瘍が同時に存在する場合、それぞれ独立した腫瘍として取り扱うことに注意する。

(6) 下記の検索はT、N、M判定のための最低必要な検査法で、これが行われていない場合にはTX,NX,MXの記号で示す。FIGO進行期分類は手術進行期分類に、TNM分類は臨床的、組織学的分類にそれぞれ基づいている。

Tカテゴリー：臨床的な検索および画像診断

Nカテゴリー：臨床的な検索および画像診断

Mカテゴリー：臨床的な検索および画像診断

(7) 手術前に他の治療が行われている例では、y記号を付けて区別する。pT, pN, pM分類については、TNM分類に準じ、病理学的pTNMが用いられる。

例：ypT2bN1M0

【登録コード】

code No

1	新規報告患者（追加したい患者）
2	既報告患者の内容変更
3	既報告患者の削除

【患者No.】

自動表示（UAS20XX-から始まる番号）

【年齢】

治療開始時点での満年齢を入力する。

【手術状況】

code No

1	手術施行例
2	手術未施行例
3	術前治療施行例

(1) FIGO、UICCの進行期分類は同じにすること。

(2) 術前に放射線治療や化学療法を施行した症例は

「術前治療施行例」となり、進行期分類(FIGO、TNM)は画像診断を用い、臨床進行期を推定して登録、備考1欄にypTNMとして手術所見に即してpTNM分類を入力する。

【進行期分類】

1. FIGO分類（日産婦2014、FIGO2008）

code No

10	I 期（亜分類不明）
11	I A 期
12	I B 期
13	I C 期
20	II 期（亜分類不明）
21	II A 期
22	II B 期
30	III 期（亜分類不明）
31	III A 期
32	III B 期
33	III C 期
40	IV 期（亜分類不明）
41	IV A 期
42	IV B 期

(注1) 腫瘍が骨盤外の腹腔内組織に浸潤するものをⅢ期とし、単に骨盤内から腹腔内に突出しているものは除く。

(注2) 多臓器の進展は組織学的検索が望ましい。

2. TNM分類（UICC第8版）

1) T分類

code No

99	TX
00	T0
10	T1
11	T1a
12	T1b
13	T1c
20	T2
21	T2a
22	T2b
30	T3
31	T3a
32	T3b
40	T4

2) N分類

code No

N0	領域リンパ節に転移を認めない
N1	領域リンパ節に転移を認める
NX	領域リンパ節に転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった

(注1) 領域リンパ節は閉鎖リンパ節、内腸骨リンパ節、外腸骨リンパ節、総腸骨リンパ節、仙骨リンパ節、基靭帯リンパ節および大動脈周囲リンパ節（傍大動脈リン

子宮腺肉腫登録実施要項 2016～

パ節)である。

(注2)リンパ節郭清の未施行例では、触診、視診、画像診断を参考にして転移の有無を判断する。

3) M分類

code No

M0	遠隔転移を認めない
M1	遠隔転移を認める
MX	遠隔転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった

3. 組織診断

1) 組織型

code No

10	腺肉腫
90	その他
99	不明

【治療開始年月日】

癌に対する手術、化学療法、放射線療法がはじめて行われた年月日を西暦で入力する。

【治療法】

code No

10	手術
20	化学療法
30	放射線療法
40	同時化学放射線療法
50	ホルモン療法
60	分子標的療法
99	その他の治療

(1) いくつかの治療を併用した場合には、主治療を先に、その他、施行した順に入力するのを原則とする。ただし、上記7つの治療法のうち、代表的なもの6つまでを入力すること。

(2) 術前治療施行例の場合は治療を行った順に入力する。

(3) 試験開腹または癌の原発巣を除去する以外の目的の手術(尿管移植、イレウス、尿瘻形成などに対する手術)は入力しない。

(4) 開腹で生検材料のみを採取し、閉腹したものは手術としない。

(5) 手術、放射線療法の補助として、化学療法、ホルモン療法、その他の治療を行ったが、その投与量が明らかに不十分とみなされる場合は治療法として入力しない。

【備考1】

進行期分類の選択の項目にて「術前治療施行例」を選択した場合にはypTNMとして手術時所見に即してpTNM分類を入力する。

【備考2】

不完全治療、特筆すべきと考えられる事項を入力する。

3年および5年予後報告入力要領

【治療後の健否】

code No

10	生存(非担癌)
11	生存(担癌)
21	子宮腺肉腫による死亡
22	他の癌による死亡
23	子宮腺肉腫と直接関係のない死亡
29	死因不明
99	生死不明

(1) 治療後満3年、満5年について生存か否かを入力する。

(2) 癌による死亡で「子宮腺肉腫による死亡」か「他の癌による死亡」か不明のときは「子宮腺肉腫による死亡」とする。

(3) 死因がはっきりしないが腺肉腫による死亡が十分疑われる症例は「子宮腺肉腫による死亡」とする(「死因不明」としない)。

【最終生存確認年月日】

code No

1	(西暦年月日入力)
2	不明

(1) 最終生存確認年月日を西暦で入力する。

(2) 生死不明の患者はその生存を確認した最終年月日を入力する(退院後行方不明の場合は退院日となる)。

(3) 死亡した患者は死亡年月日を入力する。その年月日が不明の場合は「不明」を選択する。

進行期分類

1. FIGO進行期分類(日産婦2014、FIGO2008)

I 期	腫瘍が子宮に局限するもの
I A 期	子宮体部内膜、頸部内膜に局限するもの(筋層浸潤なし)
I B 期	筋層浸潤が1/2以内のもの
I C 期	筋層浸潤が1/2をこえるもの
II 期	腫瘍が骨盤腔に及ぶもの
II A 期	付属器浸潤のあるもの

子宮腺肉腫登録実施要項 2016～

Ⅱ B 期	その他の骨盤内組織へ浸潤するもの
Ⅲ期	腫瘍が骨盤外に進展するもの
Ⅲ A 期	1部位のもの
Ⅲ B 期	2部位以上のももの
Ⅲ C 期	骨盤リンパ節ならびに/あるいは傍大動脈リンパ節転移のあるもの
Ⅳ期	
Ⅳ A 期	膀胱粘膜ならびに/あるいは直腸粘膜に浸潤のあるもの
Ⅳ B 期	遠隔転移のあるもの

＜FIGO分類とTNM分類の対比表＞

	N0	N1
T1	I	Ⅲ C
T1a	I A	Ⅲ C
T1b	I B	Ⅲ C
T1c	I C	Ⅲ C
T2	Ⅱ	Ⅲ C
T2a	Ⅱ A	Ⅲ C
T2b	Ⅱ B	Ⅲ C
T3	Ⅲ	Ⅲ C
T3a	Ⅲ A	Ⅲ C
T3b	Ⅲ B	Ⅲ C
T4	Ⅳ A	Ⅳ A
M1	Ⅳ B	Ⅳ B

2. TNM分類（UICC第8版）

1) T－原発腫瘍

TX	原発腫瘍の評価が不可能
T0	原発腫瘍を認めない
T1	腫瘍が子宮に限局するもの
T1a	子宮体部内膜、頸部内膜に限局するもの（筋層浸潤なし）
T1b	筋層浸潤が1/2以内の腫瘍
T1c	筋層浸潤が1/2をこえる腫瘍
T2	子腫瘍が骨盤腔に及ぶもの
T2a	付属器に關与する腫瘍
T2b	他の骨盤組織に關与する腫瘍
T3	腫瘍が骨盤外に進展するもの
T3a	1部位のもの
T3b	2部位以上のももの
T4	膀胱粘膜ならびに/または直腸粘膜に浸潤のあるもの

2) N－領域リンパ節

NX	領域リンパ節転移の評価が不可能
N0	領域リンパ節転移なし
N1	領域リンパ節転移あり

（注1）領域リンパ節は閉鎖リンパ節、内腸骨リンパ節、外腸骨リンパ節、総腸骨リンパ節、仙骨リンパ節、基靭帯リンパ節および大動脈周囲リンパ節（傍大動脈リンパ節）である。

（注2）リンパ節郭清の未施行例では、触診、視診、画像診断を参考にして転移の有無を判断する。

3) M－遠隔転移

MX	遠隔転移の評価が不可能
M0	遠隔転移なし
M1	遠隔転移あり

絨毛性疾患登録実施要項 2016～

個別報告入力要領

治療患者の登録は、毎年、前年1月1日から12月31日の間に治療を開始した患者につき、以下の原則に従って行う。

(1) 絨毛性疾患の登録の対象は、病理組織学的に診断された侵入奇胎、絨毛癌、PSTT、ETTの4つと、組織診断の得られていない奇胎後hCG存続症、臨床的侵入奇胎、臨床的絨毛癌の3つの、合計7疾患を対象とする。胞状奇胎は登録の対象としない。個々の疾患の定義・診断基準は、絨毛性疾患取扱い規約第3版（2011）に基づいて行う。また、治療を行った施設が登録する。

(2) 治療開始日は、診断確定後、治療を開始した年月日とする。

(3) 病理組織学的に診断された侵入奇胎および絨毛癌に関しても、参考として絨毛癌診断スコアをつける。ただしその場合はスコアの点数に関わらず、診断名は病理組織診断を優先する。PSTT、ETT、奇胎後hCG存続症は絨毛癌診断スコアの対象外である。

(4) PSTT、ETTを除くすべての症例に、FIGOスコアを記入する。侵入奇胎、臨床的侵入奇胎、奇胎後hCG存続症は概ねLow risk（6点以下）に含まれ、絨毛癌、臨床的絨毛癌は概ねHigh risk（7点以上）に含まれることが多いが、必ずしもそうならないこともある。国際的なFIGOの診断基準にも対応するため、本スコアは必ず登録する。

(5) 侵入奇胎、臨床的侵入奇胎、奇胎後hCG存続症の治療後、いったん寛解した後、再発した場合は、あらたに絨毛癌または臨床的絨毛癌として新規登録する。

(6) 過大着床部や着床部結節は、取扱い規約において絨毛性疾患として分類されないため、登録の対象としない。

【登録コード】

code No

1	新規報告患者（追加したい患者）
2	既報告患者の内容変更
3	既報告患者の削除

【患者No.】

自動表示（TD20XX-から始まる番号）

【年齢】

治療開始時点での満年齢を入力する。

【診断名】

1) 病理組織診断あり

code No

1-1	侵入胞状奇胎（侵入奇胎）
1-2	絨毛癌
1-3	PSTT（胎盤部トロホプラスト腫瘍）
1-4	ETT（類上皮性トロホプラスト腫瘍）

2) 病理組織診断なし（存続絨毛症）

code No

2-1	奇胎後hCG存続症
2-2	臨床的侵入奇胎（絨毛癌診断スコア0～4点）
2-3	臨床的絨毛癌（絨毛癌診断スコア5点以上）

(1) 病理組織診断ありとは、子宮原発病巣や転移病巣の手術検体の病理組織学的診断により侵入奇胎、絨毛癌、PSTT、ETTと診断された場合である。PSTTとETTは、病理組織診断で確定したもののみを登録する。

(2) 病理組織診断なし（存続絨毛症）とは、胞状奇胎・分娩・流産などあらゆる妊娠の終了後、hCG値や画像検査（超音波・CT・MRI）などにより、侵入奇胎や絨毛癌の続発が臨床的に疑われるが、手術をおこなわず化学療法のみで治療を行うため、病巣の組織診断が得られない場合である。この場合は以下に記す方法で臨床的に3つに分類して登録する。

(3) 臨床的に病巣の存在が確認される場合は、絨毛癌診断スコアによって臨床的侵入奇胎または臨床的絨毛癌と診断する。胞状奇胎後にhCG値の下降が不良で臨床的侵入奇胎を疑うが、画像検査で病巣が検出できない場合は、奇胎後hCG存続症と診断し、この場合は絨毛癌診断スコアを記入しない。

【治療開始年月日】

絨毛性疾患の診断後に、手術、化学療法、放射線療法がはじめて行われた年月日を西暦で入力する。

【絨毛癌診断スコア】

下記の1～7のすべての項目について、当てはまるものを選択する。診断スコアは自動計算される。

病理組織学的に診断された侵入奇胎および絨毛癌に関しても、参考として絨毛癌診断スコアをつける。ただしPSTT、ETTは絨毛癌診断スコアの対象外である。

1. 先行妊娠

胞状奇胎（0点）

流産（3点）

正期産（5点）

2. 潜伏期

6か月未満（0点）

6か月～3年未満（4点）

3年以上（5点）

3. 原発病巣

子宮体部・子宮傍結合織・腔（0点）

卵管・卵巢（3点）

子宮頸部（4点）

骨盤外（5点）

4. 転移部位

なし・肺・骨盤内（0点）

絨毛性疾患登録実施要項 2016～

骨盤外（肺を除く）（5点）

5. 肺転移巣

	0点	3点	4点	5点
直径	20mm未満	20～30mm 未満		30mm以上
大小不同	なし		あり	
個数	20個以下			21個以上

6. hCG値 (mIU/ml)

10⁶未満（0点）

10⁶～10⁷未満（1点）

10⁷以上（3点）

7. 基礎体温（月経周期）

不規則・一相性（不規則）（0点）

二相性（整調）（5点）

（注1）先行妊娠は、直前の妊娠とする。

（注2）潜伏期は、先行妊娠の終了から診断までの期間とする。

（注3）肺転移巣の大小不同性は、肺陰影の大小に直径1cm以上の差がある場合に大小不同とする。なお、肺転移巣の診断（直径、大小不同性、個数）は、今日ではCT画像で行われることが多いが、本診断スコアでの評価は胸部X線写真に基づく解析結果に基づいている。

（注4）基礎体温（月経周期）は先行妊娠の終了から診断までの期間に少なくとも数ヶ月以上続いて基礎体温が2相性を示すか、あるいは規則正しく月経が発来する場合に整調とする。なお、整調でなくともこの間にhCGがカットオフ値以下であることが数回にわたって確認されていれば、BBT2相性を選択し、5点を与える。

（注5）胞状奇胎娩出後、hCGがカットオフ値以下になった後に、新たな妊娠ではなくhCGの再上昇を示す場合には、BBT2相性を選択し、5点を与える。

【FIGOスコア】

下記の8～15のすべての項目について、当てはまるものを選択する。診断スコアは自動計算される。

0～6点の場合はLow risk、7点以上の場合はHigh riskを選択する。

ただしPSTT、ETTはFIGOスコアの対象外である。

8. 年齢

40歳未満（0点）

40歳以上（1点）

9. 先行妊娠

胞状奇胎（0点）

流産（1点）

正期産（2点）

10. 先行妊娠からの期間

4カ月未満（0点）

4カ月～7カ月未満（1点）

7カ月～13カ月未満（2点）

13か月以上（4点）

11. 治療前血中hCG値 (mIU/ml)

10³未満（0点）

10³～10⁴未満（1点）

10⁴～10⁵未満（2点）

10⁵以上（4点）

12. 腫瘍の最大径

3cm未満（0点）

3～5cm未満（1点）

5cm以上（2点）

13. 転移部位

肺（0点）

脾臓・腎臓（1点）

消化管（2点）

肝臓・脳（4点）

14. 転移の数（個）

1～4個（1点）

5～8個（2点）

9個以上（4点）

15. 効果不良の既往化学療法

単剤療法（2点）

多剤療法（4点）

（注1）画像検査で病巣の検出できない場合、項目12は0点、転移が検出されない場合、項目13および14は0点、既往化学療法のない場合、項目15は0点となり、それぞれの項目の選択は不要である。

【FIGO進行期分類（FIGO2000）】

すべての症例において、FIGO 2000 stage I期からIV期の該当する進行期を記載する。病巣が検出されない奇胎後hCG存続症の場合は、stage I期とする。

16. FIGO 2000 stage

I期	病巣は子宮に限局
II期	病巣が子宮外に進展、ただし付属器、膣、広靱帯に限局している
III期	肺転移の存在、ただし内性器の病巣の有無は問わない
IV期	その他の部位への転移の存在

3年および5年予後報告入力要領

【治療後の健否】

code No

10	生存（非担癌）
11	生存（担癌）
21	絨毛性疾患による死亡
22	他の癌による死亡
23	癌と直接関係のない死亡
29	死因不明
99	生死不明

(1) 治療後満3年、満5年について生存か否かを入力する。

(2) 癌による死亡で「絨毛性疾患による死亡」か「他の癌による死亡」か不明のときは「絨毛性疾患による死亡」とする。

(3) 死因がはっきりしないが癌による死亡が十分疑われる症例は「絨毛性疾患による死亡」とする（「死因不明」としない）。

【最終生存確認年月日】

code No

1	（西暦年月日入力）
2	不明

(1) 最終生存確認年月日を西暦で入力する。

(2) 生死不明の患者はその生存を確認した最終年月日を入力する（退院後行方不明の場合は退院日となる）。

(3) 死亡した患者は死亡年月日を入力する。その年月日が不明の場合は「不明」を選択する。

GO-CC / 患者登録フォーム (子宮頸癌)

この色の項目は、空欄では登録が完了しません。 **【必須入力】**

●特別調査項目は2021年で登録を終了いたしました。

2025 年データ

999999 日本産科婦人科学会事務局

登録コード

1新規報告患者 (追加したい患者) 2既報告患者の内容変更 3既報告患者の削除

患者 No.

自動表示

※対応表は3年後、5年後の予後調査に必要です。それまでの期間、各施設において厳重に管理して下さるようお願いいたします。

年齢
(必須)

歳

進行期分類の選択
(必須)

1 手術により進行期を決定した症例
 2 治療開始前に進行期を決定した症例 (根治的放射線療法、術前化学療法・術前放射線療法実施例など)

FIGO分類
(必須)

10 I期 (亜分類不明) 20 II期 (亜分類不明) 33 IIIC期 (亜分類不明)
 11 IA1期 21 IIA1期 331 IIIC1r期
 12 IA2期 22 IIA2期 332 IIIC1p期
 13 IA期 (亜分類不明) 23 IIA期 (亜分類不明) 333 IIIC2r期
 14 IB1期 24 IIB期 334 IIIC2p期
 15 IB2期 30 III期 (亜分類不明) 40 IV期 (亜分類不明)
 152 IB3期 31 IIIA期 41 IVA期
 16 IB期 (亜分類不明) 32 IIIB期 42 IVB期

T

99 TX 17 T1b1
 00 T0 18 T1b2
 01 Tis 182 T1b3
 10 T1 (亜分類不明) 19 T1b (亜分類不明)
 11 T1a1 : 脈管侵襲なし 20 T2 (亜分類不明)
 12 T1a1 : 脈管侵襲あり 211 T2a1
 13 T1a2 : 脈管侵襲なし 212 T2a2
 14 T1a2 : 脈管侵襲あり 210 T2a (亜分類不明)
 15 T1a (亜分類不明) : 脈管侵襲なし 22 T2b
 16 T1a (亜分類不明) : 脈管侵襲あり 30 T3 (亜分類不明)
 31 T3a
 32 T3b
 40 T4

※T1a期を選択時、詳細入力可

1 水平方向7mm以下
 2 水平方向7mmをこえる
 9 不明

clear

cTNM分類
(必須)

N

N0 領域リンパ節転移なし
 N1 骨盤リンパ節のみに転移を認める
 N21 傍大動脈リンパ節のみに転移を認める
 N22 骨盤および傍大動脈リンパ節転移を認める
 NX 画像診断をしなかった

M

M0 遠隔転移なし
 M1 遠隔転移あり ※M1を選択した場合、詳細入力可
 M9 遠隔転移の判定不十分とき

L1 縦隔リンパ節
 L2 鎖骨上 (下) リンパ節
 L3 鼠径リンパ節
 L9 上記以外のリンパ節
 M1 肺
 M2 肝臓
 M3 腹膜播種
 M4 脳
 M5 骨
 M6 子宮漿膜
 M7 付属器

※ご入力完了しましたら最下部の「次へ進む」から、内容をご確認の上「登録する」を押下してください。

▲Top

▼最下部へ

所見と診断方法 (必須)	腫瘍最大径	<input type="radio"/> 1 顕微鏡的病変 <input type="radio"/> 2 ~2cm <input type="radio"/> 3 ~4cm <input type="radio"/> 4 ~6cm <input type="radio"/> 5 6cmをこえる	<input type="radio"/> 1 視触診 (内診、コルポスコープ診を含む) <input type="radio"/> 2 画像診断 <input type="radio"/> 3 病理診断	
	基幹部浸潤	<input type="radio"/> 1 あり <input type="radio"/> 2 なし <input type="radio"/> 3 不明	<input type="radio"/> 1 視触診 (内診、コルポスコープ診を含む) <input type="radio"/> 2 画像診断 <input type="radio"/> 3 病理診断	
	腔壁浸潤	<input type="radio"/> 1 あり <input type="radio"/> 2 なし <input type="radio"/> 3 不明	<input type="radio"/> 1 視触診 (内診、コルポスコープ診を含む) <input type="radio"/> 2 画像診断 <input type="radio"/> 3 病理診断	
	膀胱粘膜浸潤	<input type="radio"/> 1 あり <input type="radio"/> 2 なし <input type="radio"/> 3 不明	<input type="radio"/> 2 画像診断 <input type="radio"/> 3 病理診断 <input type="radio"/> 4 膀胱鏡	
	直腸粘膜浸潤	<input type="radio"/> 1 あり <input type="radio"/> 2 なし <input type="radio"/> 3 不明	<input type="radio"/> 2 画像診断 <input type="radio"/> 3 病理診断 <input type="radio"/> 4 直腸鏡・大腸鏡	
	骨盤リンパ節転移	<input type="radio"/> 1 あり <input type="radio"/> 2 なし <input type="radio"/> 3 不明	<input type="radio"/> 1 視診・触診 <input type="radio"/> 21 画像診断—MRI <input type="radio"/> 22 画像診断—CT <input type="radio"/> 23 画像診断—PET/CT <input type="radio"/> 3 病理診断 <input type="radio"/> 9 その他	
	傍大動脈リンパ節転移	<input type="radio"/> 1 あり <input type="radio"/> 2 なし <input type="radio"/> 3 不明	<input type="radio"/> 1 視診・触診 <input type="radio"/> 21 画像診断—MRI <input type="radio"/> 22 画像診断—CT <input type="radio"/> 23 画像診断—PET/CT <input type="radio"/> 3 病理診断	
	その他のリンパ節転移	<input type="radio"/> 1 あり <input type="radio"/> 2 なし <input type="radio"/> 3 不明	<input type="radio"/> 1 視診・触診 <input type="radio"/> 21 画像診断—MRI <input type="radio"/> 22 画像診断—CT <input type="radio"/> 23 画像診断—PET/CT <input type="radio"/> 3 病理診断	
リンパ節以外の遠隔転移	<input type="radio"/> 1 あり <input type="radio"/> 2 なし <input type="radio"/> 3 不明	<input type="radio"/> 1 視診・触診 <input type="radio"/> 2 画像診断 <input type="radio"/> 3 病理診断		
pTNM分類	<input type="radio"/> 99 pTX <input type="radio"/> 00 pT0 <input type="radio"/> 01 pTis <input type="radio"/> 10 pT1 (亜分類不明)	<input type="radio"/> 17 pT1b1 <input type="radio"/> 18 pT1b2 <input type="radio"/> 182 pT1b3 <input type="radio"/> 19 pT1b (亜分類不明) <input type="radio"/> 20 pT2 (亜分類不明) <input type="radio"/> 211 pT2a1 <input type="radio"/> 212 pT2a2 <input type="radio"/> 210 pT2a (亜分類不明) <input type="radio"/> 22 pT2b <input type="radio"/> 30 pT3 (亜分類不明) <input type="radio"/> 31 pT3a <input type="radio"/> 32 pT3b <input type="radio"/> 40 pT4		
	<p>pT</p> <p>clear</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※T1a期を選択時、詳細入力可</p> <table border="0"> <tr> <td> <input type="radio"/> 1 水平方向7mm以下 <input type="radio"/> 2 水平方向7mmをこえる <input type="radio"/> 9 不明 clear </td> <td> 腫瘍の厚さ (または最大径) <input type="radio"/> 1 厚さが5mm以下 <input type="radio"/> 2 厚さが5mmをこえるが2cm以下 <input type="radio"/> 3 腫瘍最大径が2cmをこえるが4cm以下 <input type="radio"/> 4 腫瘍最大径が4cmをこえる clear </td> </tr> </table> </div>	<input type="radio"/> 1 水平方向7mm以下 <input type="radio"/> 2 水平方向7mmをこえる <input type="radio"/> 9 不明 clear	腫瘍の厚さ (または最大径) <input type="radio"/> 1 厚さが5mm以下 <input type="radio"/> 2 厚さが5mmをこえるが2cm以下 <input type="radio"/> 3 腫瘍最大径が2cmをこえるが4cm以下 <input type="radio"/> 4 腫瘍最大径が4cmをこえる clear	
<input type="radio"/> 1 水平方向7mm以下 <input type="radio"/> 2 水平方向7mmをこえる <input type="radio"/> 9 不明 clear	腫瘍の厚さ (または最大径) <input type="radio"/> 1 厚さが5mm以下 <input type="radio"/> 2 厚さが5mmをこえるが2cm以下 <input type="radio"/> 3 腫瘍最大径が2cmをこえるが4cm以下 <input type="radio"/> 4 腫瘍最大径が4cmをこえる clear			
	<p>pN</p> <p>a.骨盤リンパ節 (RP)</p> <input type="radio"/> 1 骨盤リンパ節を摘出しなかった (病理学的検索が行われなかった) <input type="radio"/> 2 骨盤リンパ節の選択的郭清 (生検) を行った <input type="radio"/> 3 骨盤リンパ節の系統的郭清を行った <input type="radio"/> 4 センチネルリンパ節生検を行った <p>clear</p>			

※ご入力完了しましたら最下部の「次へ進む」から、内容をご確認の上「登録する」を押下してください。

	<input type="radio"/> RP3 骨盤リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない <input type="radio"/> RP4 骨盤リンパ節を摘出し、転移を認める <input type="button" value="clear"/>
<p>pN</p> <p>b. 傍大動脈リンパ節 (RA)</p>	<input type="radio"/> 1 傍大動脈リンパ節を摘出しなかった (病理学的検索が行われなかった) <input type="radio"/> 2 傍大動脈リンパ節の選択的郭清 (生検) を行った <input type="radio"/> 3 傍大動脈リンパ節の系統的郭清を行った <input type="radio"/> 4 センチネルリンパ節生検を行った <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> RA1 傍大動脈リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認めない <input type="radio"/> RA2 傍大動脈リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認める <input type="radio"/> RA3 傍大動脈リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない <input type="radio"/> RA4 傍大動脈リンパ節を摘出し、転移を認める <input type="button" value="clear"/>
<p>pM</p> <input type="button" value="clear"/>	<input type="radio"/> pM0 遠隔転移なし <input type="radio"/> pM1 遠隔転移あり <input type="radio"/> pM9 遠隔転移の判定不十分なとき

組織診断
(必須)

上皮性腫瘍 Epithelial tumors

扁平上皮癌

- 8085/3 扁平上皮癌 HPV関連
- 8086/3 扁平上皮癌 HPV非依存性
- 8070/3 扁平上皮癌, NOS

上記を選択した場合、詳細入力 ⇒

- 8071/3 角化型扁平上皮癌 (角化型パターン)
- 8072/3 非角化型扁平上皮癌 (非角化型パターン)
- 8052/3 乳頭状扁平上皮癌 (乳頭状パターン)
- 8083/3 類基底細胞癌 (類基底パターン)
- 8051-1/3 コンジローマ様癌 (コンジローマ様パターン)
- 8051-2/3 疣 (いぼ) 状癌 (疣状パターン)
- 8120/3 扁平移行上皮癌 (扁平移行上皮パターン)
- 8082/3 リンパ上皮腫様癌 (リンパ上皮腫様パターン)

腺癌

- 8483/3 腺癌 HPV関連
- 8484/3 腺癌 HPV非依存性
- 8140/3 腺癌, NOS

上記を選択した場合、詳細入力 ⇒

- 8140/3 通常型内頸部腺癌
- 8480/3 粘液性癌
- 8482/3 腺癌 HPV非依存性、胃型
- 8144/3 腸型粘液性癌
- 8490/3 印環細胞型粘液性癌
- 8263/3 絨毛腺管癌
- 8380/3 類内膜癌
- 8310/3 腺癌 HPV非依存性、明細胞型
- 8441/3 漿液性癌
- 9110/3 腺癌 HPV非依存性、中腎型
- 8574/3 神経内分泌癌を伴う腺癌

その他

- 8560/3 腺扁平上皮癌
- 8015/3 すりガラス細胞癌
- 8098/3 腺様基底細胞癌
- 8430/3 粘表皮癌
- 8200/3 腺様嚢胞癌
- 8020/3 未分化癌
- 8240/3 カルチノイド腫瘍
- 8249/3 非定型的カルチノイド腫瘍
- 8041/3 小細胞神経内分泌癌
- 8013/3 大細胞神経内分泌癌
- M99-09 その他

間葉性腫瘍および腫瘍類似病変

- 8890/3 平滑筋肉腫
- 8900/3 横紋筋肉腫
- 9581/3 胞巣状軟部肉腫
- 9120/3 血管肉腫
- 9540/3 悪性末梢神経鞘腫瘍
- 8850/3 脂肪肉腫
- 8805/3 未分化頸管肉腫
- 9364/3 ユーイング肉腫

上皮性・間葉性混合腫瘍

- 8933/3 腺肉腫
- 8980/3 癌肉腫

※ご入力完了しましたら最下部の「次へ進む」から、内容をご確認の上「登録する」を押下してください。

○ 8720/3 悪性黒色腫

治療開始年月日
(必須)

/ / (西暦)

治療法

- 主治療を先に、その他施行した順に入力してください
- 術前治療施行例の場合は治療を行った順に入力してください
- 全ての治療をご記入ください

1
(必須)

- 11 手術（骨盤・傍大動脈リンパ節郭清を行う）
- 12 手術（骨盤リンパ節郭清のみを行う）
- 13 手術（リンパ節郭清を伴わない）
- 2 腔内照射
- 3 体外照射
- 4 化学療法
- 5 分子標的治療の単剤投与
- 45 化学療法と分子標的治療の併用
- 6 免疫チェックポイント阻害剤
- 46 化学療法と免疫チェックポイント阻害剤 の併用
- 456 化学療法と分子標的治療と免疫チェックポイント阻害剤の併用
- 7 その他の治療
- 21 同時化学放射線療法（腔内照射）
- 31 同時化学放射線療法（体外照射）

2

clear

- 11 手術（骨盤・傍大動脈リンパ節郭清を行う）
- 12 手術（骨盤リンパ節郭清のみを行う）
- 13 手術（リンパ節郭清を伴わない）
- 2 腔内照射
- 3 体外照射
- 4 化学療法
- 5 分子標的治療の単剤投与
- 45 化学療法と分子標的治療の併用
- 6 免疫チェックポイント阻害剤
- 46 化学療法と免疫チェックポイント阻害剤 の併用
- 456 化学療法と分子標的治療と免疫チェックポイント阻害剤の併用
- 7 その他の治療
- 21 同時化学放射線療法（腔内照射）
- 31 同時化学放射線療法（体外照射）

3

clear

- 11 手術（骨盤・傍大動脈リンパ節郭清を行う）
- 12 手術（骨盤リンパ節郭清のみを行う）
- 13 手術（リンパ節郭清を伴わない）
- 2 腔内照射
- 3 体外照射
- 4 化学療法
- 5 分子標的治療の単剤投与
- 45 化学療法と分子標的治療の併用
- 6 免疫チェックポイント阻害剤
- 46 化学療法と免疫チェックポイント阻害剤 の併用
- 456 化学療法と分子標的治療と免疫チェックポイント阻害剤の併用
- 7 その他の治療
- 21 同時化学放射線療法（腔内照射）
- 31 同時化学放射線療法（体外照射）

4

clear

- 11 手術（骨盤・傍大動脈リンパ節郭清を行う）
- 12 手術（骨盤リンパ節郭清のみを行う）
- 13 手術（リンパ節郭清を伴わない）
- 2 腔内照射
- 3 体外照射
- 4 化学療法
- 5 分子標的治療の単剤投与
- 45 化学療法と分子標的治療の併用
- 6 免疫チェックポイント阻害剤
- 46 化学療法と免疫チェックポイント阻害剤 の併用
- 456 化学療法と分子標的治療と免疫チェックポイント阻害剤の併用
- 7 その他の治療
- 21 同時化学放射線療法（腔内照射）

※ご入力完了しましたら最下部の「次へ進む」から、内容をご確認の上「登録する」を押下してください。

<p>5</p> <p>clear</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 11 手術（骨盤・傍大動脈リンパ節郭清を行う） <input type="radio"/> 12 手術（骨盤リンパ節郭清のみを行う） <input type="radio"/> 13 手術（リンパ節郭清を伴わない） <input type="radio"/> 2 腔内照射 <input type="radio"/> 3 体外照射 <input type="radio"/> 4 化学療法 <input type="radio"/> 5 分子標的治療の単剤投与 <input type="radio"/> 45 化学療法と分子標的治療の併用 <input type="radio"/> 6 免疫チェックポイント阻害剤 <input type="radio"/> 46 化学療法と免疫チェックポイント阻害剤 の併用 <input type="radio"/> 456 化学療法と分子標的治療と免疫チェック ポイント阻害剤の併用 <input type="radio"/> 7 その他の治療 <input type="radio"/> 21 同時化学放射線療法（腔内照射） <input type="radio"/> 31 同時化学放射線療法（体外照射）
<p>6</p> <p>clear</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 11 手術（骨盤・傍大動脈リンパ節郭清を行う） <input type="radio"/> 12 手術（骨盤リンパ節郭清のみを行う） <input type="radio"/> 13 手術（リンパ節郭清を伴わない） <input type="radio"/> 2 腔内照射 <input type="radio"/> 3 体外照射 <input type="radio"/> 4 化学療法 <input type="radio"/> 5 分子標的治療の単剤投与 <input type="radio"/> 45 化学療法と分子標的治療の併用 <input type="radio"/> 6 免疫チェックポイント阻害剤 <input type="radio"/> 46 化学療法と免疫チェックポイント阻害剤 の併用 <input type="radio"/> 456 化学療法と分子標的治療と免疫チェック ポイント阻害剤の併用 <input type="radio"/> 7 その他の治療 <input type="radio"/> 21 同時化学放射線療法（腔内照射） <input type="radio"/> 31 同時化学放射線療法（体外照射）
<p>初回手術施行例 の術式 (必須)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 1 開腹術 <input type="radio"/> 2 腹腔鏡下手術 <input type="radio"/> 3 ロボット支援下手術 <input type="radio"/> 4 腔式手術（子宮頸部円錐切除術以外） <input type="radio"/> 5 子宮頸部円錐切除術（本術式のみで治療終了した場合） <input type="radio"/> 9 該当せず

<p>備考 1 ypTNM分類</p> <p>ypT</p> <p>clear</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 99 pTX <input type="radio"/> 00 pT0 <input type="radio"/> 01 pTis <input type="radio"/> 10 pT1（亜分類不明） <input type="radio"/> 11 pT1a1 : 尿管侵襲なし <input type="radio"/> 12 pT1a1 : 尿管侵襲あり <input type="radio"/> 13 pT1a2 : 尿管侵襲なし <input type="radio"/> 14 pT1a2 : 尿管侵襲あり <input type="radio"/> 15 pT1a（亜分類不明）: 尿管侵襲なし <input type="radio"/> 16 pT1a（亜分類不明）: 尿管侵襲あり <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>※T1a期を選択時、詳細入力可</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 1 水平方向7mm以下 <input type="radio"/> 2 水平方向7mmをこえる <input type="radio"/> 9 不明 <p>clear</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>腫瘍の厚さ（または最大径）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 1 厚さが5mm以下 <input type="radio"/> 2 厚さが5mmこえるが2cm以下 <input type="radio"/> 3 腫瘍最大径が2cmをこえるが4cm以下 <input type="radio"/> 4 腫瘍最大径が4cmをこえる <p>clear</p> </td> </tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 17 pT1b1 <input type="radio"/> 18 pT1b2 <input type="radio"/> 182 pT1b3 <input type="radio"/> 19 pT1b（亜分類不明） <input type="radio"/> 20 pT2（亜分類不明） <input type="radio"/> 211 pT2a1 <input type="radio"/> 212 pT2a2 <input type="radio"/> 210 pT2a（亜分類不明） <input type="radio"/> 22 pT2b <input type="radio"/> 30 pT3（亜分類不明） <input type="radio"/> 31 pT3a <input type="radio"/> 32 pT3b <input type="radio"/> 40 pT4 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 1 水平方向7mm以下 <input type="radio"/> 2 水平方向7mmをこえる <input type="radio"/> 9 不明 <p>clear</p>	<p>腫瘍の厚さ（または最大径）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 1 厚さが5mm以下 <input type="radio"/> 2 厚さが5mmこえるが2cm以下 <input type="radio"/> 3 腫瘍最大径が2cmをこえるが4cm以下 <input type="radio"/> 4 腫瘍最大径が4cmをこえる <p>clear</p>
<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 1 水平方向7mm以下 <input type="radio"/> 2 水平方向7mmをこえる <input type="radio"/> 9 不明 <p>clear</p>	<p>腫瘍の厚さ（または最大径）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 1 厚さが5mm以下 <input type="radio"/> 2 厚さが5mmこえるが2cm以下 <input type="radio"/> 3 腫瘍最大径が2cmをこえるが4cm以下 <input type="radio"/> 4 腫瘍最大径が4cmをこえる <p>clear</p>		
<p>ypN a.骨盤リンパ節（RP）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 1 骨盤リンパ節を摘出しなかった（病理学的検索が行われなかった） <input type="radio"/> 2 骨盤リンパ節の選択的郭清（生検）を行った <input type="radio"/> 3 骨盤リンパ節の系統的郭清を行った <input type="radio"/> 4 センチネルリンパ節生検を行った <p>clear</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> RP1 骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認めない <input type="radio"/> RP2 骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認める <input type="radio"/> RP3 骨盤リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない <input type="radio"/> RP4 骨盤リンパ節を摘出し、転移を認める 		

※ご入力完了しましたら最下部の「次へ進む」から、内容をご確認の上「登録する」を押下してください。

pN
b. 傍大動脈リンパ節 (RA)

- 1 傍大動脈リンパ節を摘出しなかった (病理学的検索が行われなかった)
- 2 傍大動脈リンパ節の選択的郭清 (生検) を行った
- 3 傍大動脈リンパ節の系統的郭清を行った
- 4 センチネルリンパ節生検を行った

clear

- RA1 傍大動脈リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認めない
- RA2 傍大動脈リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認める
- RA3 傍大動脈リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない
- RA4 傍大動脈リンパ節を摘出し、転移を認める

clear

ypM

clear

- ypM0 遠隔転移なし
- ypM1 遠隔転移あり
- ypM9 遠隔転移の判定不十分なとき

備考 2

※不完全治療など、特筆すべきと考えられる事項を入力。個人を容易に特定できるような情報を入力しないでください。

【ハッシュ値】 ※入力の必要はありません

ハッシュ値1

ハッシュ値2

ハッシュ値3

【メールアドレス】 ※このメールアドレスは疑義照会の際にのみ使用いたします。

担当者メールアドレス

次へ進む

※ご入力が入力完了しましたら最下部の「次へ進む」から、内容をご確認の上「登録する」を押下してください。

GO-EM / 患者登録フォーム〔子宮体癌〕

● この色の項目は、空欄では登録が完了しません。 **[必須入力]**

2025 年データ		999999 日本産科婦人科学会事務局								
登録コード		<input checked="" type="radio"/> 1 新規報告患者（追加したい患者） <input type="radio"/> 2 既報告患者の内容変更 <input type="radio"/> 3 既報告患者の削除								
患者 No.		自動表示 ※対応表は3年後、5年後の予後調査に必要です。それまでの期間、各施設において厳重に管理して下さるようお願いいたします。								
年齢 (必須)		<input type="text"/> 歳								
手術状況 (必須)		<input type="radio"/> 1 手術施行例 <input type="radio"/> 2 手術未施行例 <input type="radio"/> 3 術前治療施行例								
FIGO分類 (必須)		<input type="radio"/> 10 I期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 11 IA期 <input type="radio"/> 12 IB期 <input type="radio"/> 20 II期 <input type="radio"/> 30 III期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 31 IIIA期 <input type="radio"/> 32 IIIB期 <input type="radio"/> 33 IIIC期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 34 IIIC1期 <input type="radio"/> 35 IIIC2期 <input type="radio"/> 40 IV期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 41 IVA期 <input type="radio"/> 42 IVB期								
TNM分類 (必須)	T	<input type="radio"/> 99 TX <input type="radio"/> 00 T0 <input type="radio"/> 10 T1 (亜分類不明) <input type="radio"/> 11 T1a <input type="radio"/> 12 T1b <input type="radio"/> 20 T2 <input type="radio"/> 30 T3 (亜分類不明) <input type="radio"/> 31 T3a <input type="radio"/> 32 T3b <input type="radio"/> 40 T4								
		初回手術施行例 <table border="1"> <tr> <td> a. 付属器転移 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 付属器転移を認めない <input type="radio"/> 2 付属器転移を認める <input type="radio"/> 3 不明 </td> <td> b. 子宮漿膜浸潤 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 子宮漿膜浸潤を認めない <input type="radio"/> 2 子宮漿膜浸潤を認める <input type="radio"/> 3 不明 </td> <td> c. 骨盤腹膜播種 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 骨盤腹膜播種を認めない <input type="radio"/> 2 骨盤腹膜播種を認める <input type="radio"/> 3 不明 </td> </tr> <tr> <td> d. 子宮傍組織浸潤 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 子宮傍組織浸潤を認めない <input type="radio"/> 2 子宮傍組織浸潤を認める <input type="radio"/> 3 不明 </td> <td> e. 腔壁浸潤 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 腔壁浸潤を認めない <input type="radio"/> 2 腔壁浸潤を認める <input type="radio"/> 3 不明 </td> <td> f. 腹腔内播種 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 腹腔内播種を認めない <input type="radio"/> 2 腹腔内播種を認める <input type="radio"/> 3 不明 </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> g. 膀胱または腸管粘膜浸潤 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 粘膜浸潤を認めない <input type="radio"/> 2 粘膜浸潤を認める <input type="radio"/> 3 不明 </td> </tr> </table>		a. 付属器転移 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 付属器転移を認めない <input type="radio"/> 2 付属器転移を認める <input type="radio"/> 3 不明	b. 子宮漿膜浸潤 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 子宮漿膜浸潤を認めない <input type="radio"/> 2 子宮漿膜浸潤を認める <input type="radio"/> 3 不明	c. 骨盤腹膜播種 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 骨盤腹膜播種を認めない <input type="radio"/> 2 骨盤腹膜播種を認める <input type="radio"/> 3 不明	d. 子宮傍組織浸潤 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 子宮傍組織浸潤を認めない <input type="radio"/> 2 子宮傍組織浸潤を認める <input type="radio"/> 3 不明	e. 腔壁浸潤 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 腔壁浸潤を認めない <input type="radio"/> 2 腔壁浸潤を認める <input type="radio"/> 3 不明	f. 腹腔内播種 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 腹腔内播種を認めない <input type="radio"/> 2 腹腔内播種を認める <input type="radio"/> 3 不明	g. 膀胱または腸管粘膜浸潤 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 粘膜浸潤を認めない <input type="radio"/> 2 粘膜浸潤を認める <input type="radio"/> 3 不明
a. 付属器転移 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 付属器転移を認めない <input type="radio"/> 2 付属器転移を認める <input type="radio"/> 3 不明	b. 子宮漿膜浸潤 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 子宮漿膜浸潤を認めない <input type="radio"/> 2 子宮漿膜浸潤を認める <input type="radio"/> 3 不明	c. 骨盤腹膜播種 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 骨盤腹膜播種を認めない <input type="radio"/> 2 骨盤腹膜播種を認める <input type="radio"/> 3 不明								
d. 子宮傍組織浸潤 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 子宮傍組織浸潤を認めない <input type="radio"/> 2 子宮傍組織浸潤を認める <input type="radio"/> 3 不明	e. 腔壁浸潤 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 腔壁浸潤を認めない <input type="radio"/> 2 腔壁浸潤を認める <input type="radio"/> 3 不明	f. 腹腔内播種 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 腹腔内播種を認めない <input type="radio"/> 2 腹腔内播種を認める <input type="radio"/> 3 不明								
g. 膀胱または腸管粘膜浸潤 <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 粘膜浸潤を認めない <input type="radio"/> 2 粘膜浸潤を認める <input type="radio"/> 3 不明										
	N	※「初回手術施行例」か「初回手術未施行例」のいずれかで入力が必要です ●初回手術施行例 <table border="1"> <tr> <td> a. 骨盤リンパ節 (RP) <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 骨盤リンパ節を摘出しなかった (病理学的検索が行われなかった) <input type="radio"/> 2 骨盤リンパ節の選択的郭清 (生検) を行った <input type="radio"/> 3 骨盤リンパ節の系統的郭清 (すべての領域リンパ節) を行った <input type="radio"/> 4 センチネルリンパ節生検を行った <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> RP1 骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認めない <input type="radio"/> RP2 骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認める <input type="radio"/> RP3 骨盤リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない <input type="radio"/> RP4 骨盤リンパ節を摘出し、転移を認める </td> <td> b. 傍大動脈リンパ節 (RA) <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 傍大動脈リンパ節を摘出しなかった (病理学的検索が行われなかった) </td> </tr> </table>		a. 骨盤リンパ節 (RP) <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 骨盤リンパ節を摘出しなかった (病理学的検索が行われなかった) <input type="radio"/> 2 骨盤リンパ節の選択的郭清 (生検) を行った <input type="radio"/> 3 骨盤リンパ節の系統的郭清 (すべての領域リンパ節) を行った <input type="radio"/> 4 センチネルリンパ節生検を行った <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> RP1 骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認めない <input type="radio"/> RP2 骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認める <input type="radio"/> RP3 骨盤リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない <input type="radio"/> RP4 骨盤リンパ節を摘出し、転移を認める	b. 傍大動脈リンパ節 (RA) <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 傍大動脈リンパ節を摘出しなかった (病理学的検索が行われなかった)					
a. 骨盤リンパ節 (RP) <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 骨盤リンパ節を摘出しなかった (病理学的検索が行われなかった) <input type="radio"/> 2 骨盤リンパ節の選択的郭清 (生検) を行った <input type="radio"/> 3 骨盤リンパ節の系統的郭清 (すべての領域リンパ節) を行った <input type="radio"/> 4 センチネルリンパ節生検を行った <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> RP1 骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認めない <input type="radio"/> RP2 骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認める <input type="radio"/> RP3 骨盤リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない <input type="radio"/> RP4 骨盤リンパ節を摘出し、転移を認める	b. 傍大動脈リンパ節 (RA) <input type="button" value="clear"/> <input type="radio"/> 1 傍大動脈リンパ節を摘出しなかった (病理学的検索が行われなかった)									

- 2 傍大動脈リンパ節の選択的郭清（生検）を行った
- 3 傍大動脈リンパ節の系統的郭清（すべての領域リンパ節）を行った
- 4 センチネルリンパ節生検を行った

clear

- RA1 傍大動脈リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認めない
- RA2 傍大動脈リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認める
- RA3 傍大動脈リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない
- RA4 傍大動脈リンパ節を摘出し、転移を認める

●初回手術未施行例（画像診断での判定）

a. 計測手段 clear

- 1 MRI
- 2 CT
- 3 PET/CT
- 4 施行せず

b. 骨盤リンパ節（NP） clear

- NPX リンパ節転移を判定するための画像診断が行われなかったとき
- NP0 骨盤リンパ節に転移を認めない
- NP1 骨盤リンパ節に転移を認める

c. 傍大動脈リンパ節（NA） clear

- NAX リンパ節転移を判定するための画像診断が行われなかったとき
- NA0 傍大動脈リンパ節に転移を認めない
- NA1 傍大動脈リンパ節に転移を認める

M

- M0 遠隔転移なし
- M1 その他の遠隔転移の存在
- M9 遠隔転移の判定不十分なとき

⇒

※「M1」選択時詳細記入

- 1 腹腔内播種
- 2 領域外リンパ節転移
- 3 肺転移
- 4 肝転移
- 5 骨転移
- 6 その他（備考欄2に具体的部位を記載）

組織型
(必須)

- 8380/3 類内膜癌
- 8441/3 漿液性癌
- 8310/3 明細胞癌
- 8323/3 混合癌
- 8020/3 未分化癌
- 8020-2/3 脱分化癌
- 8980/3 癌肉腫
- 9110/3 中腎腺癌
- 8070/3 扁平上皮癌
- 8114/3 粘液性癌, 胃/腸型
- 9111/3 中腎様腺癌
- 8240/3 神経内分泌腫瘍グレード1
- 8249/3 神経内分泌腫瘍グレード2
- 8041/3 小細胞神経内分泌癌
- 8013/3 大細胞神経内分泌癌
- 8045/3 混合型小細胞神経内分泌癌
- 8013-2/3 混合型大細胞神経内分泌癌
- 90 その他
- 99 採取せず

組織学的異型度

clear

- 1 Grade 1
- 2 Grade 2
- 3 Grade 3
- 4 異型度評価の対象に含まれない
- 9 不明

脈管侵襲

clear

- 1 なし
- 2 あり [限局的(focal)]
- 3 あり [広範囲(extensive/substantial)]
- 4 あり (分類不能)

分子遺伝学的プロファイル
(必須)

POLE変異

- 1 あり
- 2 なし
- 3 不明

POLE変異検査方法 clear

- 1 サンガー法
- 2 NGS法

- 3 PCR法
- 4 その他

MMR/MSI検査結果

- 1 欠損/不安定 (dMMR/MSI-H)
- 2 保持/安定 (pMMR/MSS, MSI-L)
- 3 不明

MMR/MSI検査方法

- 1 MSI検査 (PCR法・NGS法)
- 2 MMR-IHC検査 (IHC法)
- 3 その他

p53

- 1 野生型
- 2 過剰発現
- 3 完全陰性
- 4 不明

p53検査方法

- 1 TP53遺伝子変異検査 (サンガー法・NGS法)
- 2 p53-IHC検査 (IHC法)
- 3 その他

腹腔洗浄・腹水細胞診
(必須)

- 1 陽性
- 2 陰性
- 3 未施行
- 4 不明

筋層浸潤の有無
(必須)

※「初回手術施行例」か「初回手術未施行例」のいずれかで入力が必要です

●初回手術施行例

病理学的診断

- 1 浸潤なし
- 2 浸潤 < 1/2
- 3 浸潤 ≥ 1/2
- 4 不明

●初回手術未施行例(画像診断での判定)

計測手段

- 1 MRI
- 2 CT
- 3 PET/CT

画像診断による評価

- 1 浸潤なし
- 2 浸潤 < 1/2
- 3 浸潤 ≥ 1/2
- 4 不明

治療開始年月日
(必須)

/ / (西暦)

治療法

※主治療を先に、その他
施行した順に入力

※術前治療施行例の場合は
治療を行った順に入力

1
(必須)

- 11 手術 (骨盤・傍大動脈リンパ節郭清を伴う)
- 12 手術 (骨盤リンパ節郭清のみを伴う)
- 2 手術 (リンパ節郭清を伴わない)
- 3 腔内照射
- 4 体外照射
- 51/Ch 化学療法
- 52/CI_m 化学療法 + 免疫チェックポイント阻害剤
- 53/Im 免疫チェックポイント阻害剤
- 54/ImMo 免疫チェックポイント阻害剤 + 分子標的治療
- 7 ホルモン療法
- 8 その他の治療
- 31 同時化学放射線療法 (腔内照射)
- 41 同時化学放射線療法 (体外照射)
- 110 骨盤・傍大動脈リンパ節郭清
- 120 骨盤リンパ節郭清

2

clear

- 11 手術（骨盤・傍大動脈リンパ節郭清を伴う）
- 12 手術（骨盤リンパ節郭清のみを伴う）
- 2 手術（リンパ節郭清を伴わない）
- 3 腔内照射
- 4 体外照射
- 51/Ch 化学療法
- 52/CIm 化学療法+免疫チェックポイント阻害剤
- 53/Im 免疫チェックポイント阻害剤
- 54/ImMo 免疫チェックポイント阻害剤+分子標的治療
- 7 ホルモン療法
- 8 その他の治療
- 31 同時化学放射線療法（腔内照射）
- 41 同時化学放射線療法（体外照射）
- 110 骨盤・傍大動脈リンパ節郭清
- 120 骨盤リンパ節郭清

3

clear

- 11 手術（骨盤・傍大動脈リンパ節郭清を伴う）
- 12 手術（骨盤リンパ節郭清のみを伴う）
- 2 手術（リンパ節郭清を伴わない）
- 3 腔内照射
- 4 体外照射
- 51/Ch 化学療法
- 52/CIm 化学療法+免疫チェックポイント阻害剤
- 53/Im 免疫チェックポイント阻害剤
- 54/ImMo 免疫チェックポイント阻害剤+分子標的治療
- 7 ホルモン療法
- 8 その他の治療
- 31 同時化学放射線療法（腔内照射）
- 41 同時化学放射線療法（体外照射）
- 110 骨盤・傍大動脈リンパ節郭清
- 120 骨盤リンパ節郭清

4

clear

- 11 手術（骨盤・傍大動脈リンパ節郭清を伴う）
- 12 手術（骨盤リンパ節郭清のみを伴う）
- 2 手術（リンパ節郭清を伴わない）
- 3 腔内照射
- 4 体外照射
- 51/Ch 化学療法
- 52/CIm 化学療法+免疫チェックポイント阻害剤
- 53/Im 免疫チェックポイント阻害剤
- 54/ImMo 免疫チェックポイント阻害剤+分子標的治療
- 7 ホルモン療法
- 8 その他の治療
- 31 同時化学放射線療法（腔内照射）
- 41 同時化学放射線療法（体外照射）
- 110 骨盤・傍大動脈リンパ節郭清
- 120 骨盤リンパ節郭清

5

clear

- 11 手術（骨盤・傍大動脈リンパ節郭清を伴う）
- 12 手術（骨盤リンパ節郭清のみを伴う）
- 2 手術（リンパ節郭清を伴わない）
- 3 腔内照射
- 4 体外照射
- 51/Ch 化学療法
- 52/CIm 化学療法+免疫チェックポイント阻害剤
- 53/Im 免疫チェックポイント阻害剤
- 54/ImMo 免疫チェックポイント阻害剤+分子標的治療
- 7 ホルモン療法
- 8 その他の治療
- 31 同時化学放射線療法（腔内照射）
- 41 同時化学放射線療法（体外照射）
- 110 骨盤・傍大動脈リンパ節郭清
- 120 骨盤リンパ節郭清

6

clear

- 11 手術（骨盤・傍大動脈リンパ節郭清を伴う）
- 12 手術（骨盤リンパ節郭清のみを伴う）

- 2 手術（リンパ節郭清を伴わない）
- 3 腔内照射
- 4 体外照射
- 51/Ch 化学療法
- 52/CIm 化学療法 + 免疫チェックポイント阻害剤
- 53/Im 免疫チェックポイント阻害剤
- 54/ImMo 免疫チェックポイント阻害剤 + 分子標的治療
- 7 ホルモン療法
- 8 その他の治療
- 31 同時化学放射線療法（腔内照射）
- 41 同時化学放射線療法（体外照射）
- 110 骨盤・傍大動脈リンパ節郭清
- 120 骨盤リンパ節郭清

手術術式
(手術施行例、術前治療施行例)

a. 一回目手術

- 1 開腹術
- 2 腹腔鏡手術
- 3 ロボット手術
- 9 該当せず

b. 二回目手術

- 1 開腹術
- 2 腹腔鏡手術
- 3 ロボット手術
- 9 該当せず

ypT

- 99 TX
- 00 T0
- 10 T1 (亜分類不明)
- 11 T1a
- 12 T1b
- 20 T2
- 30 T3 (亜分類不明)
- 31 T3a
- 32 T3b
- 40 T4

ypN

a. 骨盤リンパ節 (RP)

- 1 骨盤リンパ節を摘出しなかった (病理学的検索が行われなかった)
- 2 骨盤リンパ節の選択的郭清 (生検) を行った
- 3 骨盤リンパ節の系統的郭清 (すべての領域リンパ節) を行った
- 4 センチネルリンパ節生検を行った

- RP1 骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認めない
- RP2 骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認める
- RP3 骨盤リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない
- RP4 骨盤リンパ節を摘出し、転移を認める

b. 傍大動脈リンパ節 (RA)

- 1 傍大動脈リンパ節を摘出しなかった (病理学的検索が行われなかった)
- 2 傍大動脈リンパ節の選択的郭清 (生検) を行った
- 3 傍大動脈リンパ節の系統的郭清 (すべての領域リンパ節) を行った
- 4 センチネルリンパ節生検を行った

- RA1 傍大動脈リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認めない
- RA2 傍大動脈リンパ節の病理学的検索が行われなかったが、明らかな腫大を認める
- RA3 傍大動脈リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない
- RA4 傍大動脈リンパ節を摘出し、転移を認める

ypM

- M0 遠隔転移なし
- M1 その他の遠隔転移の存在
- M9 遠隔転移の判定不十分なとき

備考2

※不完全治療など、特筆すべきと考えられる事項を入力。個人を容易に特定できるような情報を入力しないでください。

【ハッシュ値】

ハッシュ値1

ハッシュ値2

ハッシュ値3

【メールアドレス】 ※このメールアドレスは疑義照会の際にのみ使用いたします。

担当者メールアドレス

次へ進む

GO-OV / 患者登録フォーム〔卵巢腫瘍〕

● この色の項目は、空欄では登録が完了しません。〔必須入力〕

2025 年データ		999999 日本産科婦人科学会事務局	
登録コード		<input checked="" type="radio"/> 1 新報告患者（追加したい患者） <input type="radio"/> 2 既報告患者の内容変更 <input type="radio"/> 3 既報告患者の削除	
患者 No.		自動表示 ※対応表は3年後、5年後の予後調査に必要です。それまでの期間、各施設において厳重に管理して下さるようお願いいたします。	
年齢（必須）		<input type="text"/> 歳	
診断（必須）		高異型度漿液性癌の原発巣決定のためのフローチャートを確認する <input type="radio"/> 1 卵巢癌、卵巢境界悪性腫瘍 <input type="radio"/> 2 卵管癌、卵管境界悪性腫瘍 <input type="radio"/> 12 卵管・卵巢癌 ※高異型度漿液性癌の場合のみ選択 <input type="radio"/> 3 腹膜癌 <input type="radio"/> 4 卵巢・卵管・腹膜（分類不能）	
病変の主座（必須）		<input type="radio"/> 1 卵巢 <input type="radio"/> 2 卵管 <input type="radio"/> 3 腹膜 <input type="radio"/> 9 不明	
手術状況（必須）		<input type="radio"/> 1 手術施行例 <input type="radio"/> 2 術前治療施行例 <input type="radio"/> 3 手術未施行例 (1)初回、試験開腹、試験腹腔鏡で生検等を行ったものの、手術進期決定に必要な腹腔内検索を行わなかった症例は1には含めません。 (2)術前化学療法を目的に治療を開始したが、手術を施行しなかった場合、あるいは、登録時点で手術をまだ行っていない場合は3で登録してください。 (3)その他、登録要項に詳細が記載されていますので、ご確認ください。	
進行期分類	FIGO（必須）	<input type="radio"/> 1A IA期 <input type="radio"/> 1B IB期 <input type="radio"/> 1C IC期 ⇒詳細を入力して下さい <input type="radio"/> 2A IIA期 <input type="radio"/> 2B IIB期 <input type="radio"/> 3A1 IIIA1期 ⇒詳細を入力して下さい <input type="radio"/> 3A2 IIIA2期 <input type="radio"/> 3B IIIB期 <input type="radio"/> 3C IIIC期 <input type="radio"/> 4A IVA期 <input type="radio"/> 4B IVB期 <input type="radio"/> 99 不明 <input type="radio"/> XX 術前治療施行例・手術未施行症例	「IC期」を選択した場合、下記入力をお願い致します <input type="radio"/> 1C1 手術操作による被膜破綻 <input type="radio"/> 1C2 自然被膜破綻あるいは被膜表面への浸潤 <input type="radio"/> 1C3 腹水または腹腔洗浄細胞診に悪性細胞が認められるもの <input type="button" value="clear"/>
	pT（必須）	<input type="radio"/> 1A pT1a <input type="radio"/> 1C1 pT1c1 <input type="radio"/> 2A pT2a <input type="radio"/> 3A pT3a <input type="radio"/> 99 不明	<input type="radio"/> 1B pT1b <input type="radio"/> 1C2 pT1c2 <input type="radio"/> 2B pT2b <input type="radio"/> 3B pT3b <input type="radio"/> 3C pT3c <input type="radio"/> XXXX 術前治療施行例・手術未施行症例
	pN（必須）	<input type="radio"/> 0 pN0 領域リンパ節に転移を認めない <input type="radio"/> 1a pN1a 領域リンパ節に転移を認める（転移巣最大径10mm以下、組織所見による） <input type="radio"/> 1b pN1b 領域リンパ節に転移を認める（転移巣最大径10mm超、組織所見による） <input type="radio"/> 1 pN1 領域リンパ節に転移を認める（転移巣最大径不明） <input type="radio"/> X pNX 領域リンパ節に転移を判定するための病理学的検索が行われなかった	
	M（必須）	<input type="radio"/> 0 M0 遠隔転移を認めない <input type="radio"/> 1a M1a 胸水中に悪性細胞を認める	

- 1b M1b 実質転移ならびに腹腔外臓器（鼠径リンパ節ならびに腹腔外リンパ節を含む）に転移を認めるもの
- X MX 遠隔転移を判定するための検索が行われなかった

遠隔転移の部位

- | | | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> PUL 肺転移 | <input type="checkbox"/> OSS 骨転移 | <input type="checkbox"/> HEP 肝転移 | <input type="checkbox"/> BRA 脳転移 |
| <input type="checkbox"/> LYM リンパ節転移 | <input type="checkbox"/> MAR 骨髄転移 | <input type="checkbox"/> PLE 胸膜転移 | <input type="checkbox"/> SKI 皮膚転移 |
| <input type="checkbox"/> OTH その他 | | | |

領域リンパ節
(必須)

- 0 腫大なし
- 1 触診もしくは画像診断にて明らかに転移を疑うリンパ節腫大あり
- 2 細胞診にてリンパ節転移と診断
- 3 組織診（郭清or生検）にてリンパ節転移と診断

組織診断
(必須)

- | | |
|----------------------------------|---|
| 上皮性腫瘍 | <input type="radio"/> 8442/1 漿液性境界悪性腫瘍 |
| | <input type="radio"/> 8441/2 漿液性卵管上皮内癌 |
| | <input type="radio"/> 8460/2 微小乳頭状漿液性境界悪性腫瘍 |
| | <input type="radio"/> 8460/3 低異型度漿液性癌 |
| | <input type="radio"/> 8461/3 高異型度漿液性癌 |
| | <input type="radio"/> 8472/1 粘液性境界悪性腫瘍 |
| | <input type="radio"/> 8480/3 粘液性癌 |
| | <input type="radio"/> 8380/1 類内膜境界悪性腫瘍 |
| | <input type="radio"/> 8380/3 類内膜癌 |
| | <input type="radio"/> 8474/3 漿液粘液性癌 |
| | <input type="radio"/> 8313/1 明細胞境界悪性腫瘍 |
| | <input type="radio"/> 8310/3 明細胞癌 |
| | <input type="radio"/> 9000/1 境界悪性ブレンナー腫瘍 |
| | <input type="radio"/> 9000/3 悪性ブレンナー腫瘍 |
| | <input type="radio"/> 9111/3 中腎様腺癌 |
| | <input type="radio"/> 8474/1 漿液粘液性境界悪性腫瘍 |
| | <input type="radio"/> 8020/3 未分化癌 |
| | <input type="radio"/> 8020-2/3 脱分化癌 |
| | <input type="radio"/> 8980/3 癌肉腫 |
| <input type="radio"/> 8323/3 混合癌 | |
| 間葉系腫瘍 | <input type="radio"/> 8931/3 低異型度類内膜間質肉腫 |
| | <input type="radio"/> 8930/3 高異型度類内膜間質肉腫 |
| 混合型上皮性間葉系腫瘍 | <input type="radio"/> 8933/3 腺肉腫 |
| 性索間質性腫瘍 | <input type="radio"/> 8810/1 富細胞性線維腫 |
| | <input type="radio"/> 8810/3 線維肉腫 |
| | <input type="radio"/> 8760/3 悪性ステロイド細胞腫瘍 |
| | <input type="radio"/> 8620/3 成人型顆粒膜細胞腫 |
| | <input type="radio"/> 8622/1 若年型顆粒膜細胞腫 |
| | <input type="radio"/> 8640/1 セルトリ細胞腫 |
| | <input type="radio"/> 8623/1 輪状細管を伴う性索腫瘍 |
| 混合型性索間質性腫瘍 | <input type="radio"/> 8631/1 中分化型セルトリ・ライディッヒ細胞腫 |
| | <input type="radio"/> 8631/3 低分化型セルトリ・ライディッヒ細胞腫 |
| | <input type="radio"/> 8633/1 網状型セルトリ・ライディッヒ細胞腫 |
| 胚細胞腫瘍 | <input type="radio"/> 9060/3 未分化胚細胞腫 |
| | <input type="radio"/> 9071/3 卵黄嚢腫瘍 |
| | <input type="radio"/> 9070/3 胎芽性癌 |
| | <input type="radio"/> 9100/3 絨毛癌 |
| | <input type="radio"/> 9080-1/3 未熟奇形腫G1 |

	○9080-2/3 未熟奇形腫G2
	○9080-3/3 未熟奇形腫G3
	○9080-9/3 未熟奇形腫グレード不明
	○9085/3 混合型胚細胞性腫瘍
	○9085-1/3 混合型胚細胞性腫瘍：卵黄嚢腫瘍 + 未分化胚細胞腫
	○9085-3/3 混合型胚細胞性腫瘍：卵黄嚢腫瘍 + 未熟奇形腫
単胚葉性奇形腫および 皮様嚢腫に伴う体細胞型腫瘍	○9090/3 悪性卵巣甲状腺腫
	○8070/3 扁平上皮癌
	○8240/3 カルチノイド腫瘍
胚細胞・性索間質性腫瘍	○8410/3 脂腺癌
	○9073/1 性腺芽腫
その他の腫瘍	○8594/1 分類不能な混合型胚細胞・性索間質性腫瘍
	○9110/3 卵巣網膜癌
	○9110/1 ウォルフ管腫瘍
	○8044/3 高カルシウム血症性小細胞癌
	○8041/3 小細胞神経内分泌癌
	○8960/3 ウィルムス腫瘍
	○8452/1 充実性偽乳頭状腫瘍
	○9050/3 中皮腫
	○M39-06 悪性リンパ腫
	○9734/3 形質細胞腫
中皮腫瘍	○8890/1 播種性腹膜平滑筋腫症
リンパ性・骨髄性腫瘍	○8806/3 線維形成性小型円形細胞腫瘍
平滑筋腫瘍（腹膜腫瘍）	○8815/1 孤立性線維性腫瘍
起源不明の腫瘍	○8815/3 悪性孤立性線維性腫瘍
その他の原発腫瘍	○8822/1 腹部線維腫症
	○8936/3 消化管外間質腫瘍
	○M99-09 その他の腫瘍
	○XXX-XX 組織型診断保留中

漿液性卵管上皮内癌（STIC）
（必須）

- 0 なし
○1 あり
○9 検索せず

遺伝子プロファイル
（必須）

- 0 HRP
○1 BRCA1/2病的バリエント陽性
○2 HRDかつBRCA1/2病的バリエント陰性
○8 HR不明かつBRCA1/2病的バリエント陰性
○9 不明

治療開始年月日
（必須）

/ / （西暦）

手術方法
（必須）

- 1 開腹術
○2 腹腔鏡手術
○3 ロボット手術
○9 該当せず

治療法
（必須）

※治療を行った順に入力
※手術に関しては施行した項目
を連続して入力してください

	実施	Mo/CM詳細
1.	▼	▼
2.	▼	▼
3.	▼	▼
4.	▼	▼

下記該当する記号を左へ記入してください

【実施手術】

T1 試験開腹術/審査腹腔鏡
T2 片側付属器摘出術（嚢腫摘出術含む）
T3 両側付属器摘出術
T4 子宮摘出術（腔上部切断術を含む）
T5 大網切除術（亜全摘以上）
T6 領域リンパ節の摘出（生検または郭清）
T7 その他（他臓器の合併切除等）

【備考3】左右それぞれに原発したと考えられる異なる組織型の記号、他の部位の癌の合併（例）頸癌など、特筆すべきと考えられる事項を入力。

備考3

個人を容易に特定できるような情報を入力しないでください。

【ハッシュ値】

ハッシュ値1

ハッシュ値2

ハッシュ値3

【メールアドレス】 ※このメールアドレスは疑義照会の際にのみ使用いたします。

担当者メールアドレス

次へ進む

GO-RT

外陰癌

患者登録フォーム

この色の項目は【必須入力】です。未入力では登録が完了しません。

2025年データ	999999 日本産科婦人科学会事務局	
登録コード clear	<input checked="" type="radio"/> 1 新規報告患者 <input type="radio"/> 2 既報告患者の内容変更 <input type="radio"/> 3 既報告患者の削除	
患者No.	自動表示	
年齢 (必須)	<input type="text"/> 歳	
手術状況 (必須)	<input type="radio"/> 1 手術施行例 <input type="radio"/> 2 手術未施行例 <input type="radio"/> 3 術前治療施行例	
FIGO分類 (必須)	<input type="radio"/> 10 I期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 30 III期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 40 IV期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 11 IA期 <input type="radio"/> 31 IIIA期 <input type="radio"/> 41 IVA期 <input type="radio"/> 12 IB期 <input type="radio"/> 32 IIIB期 <input type="radio"/> 42 IVB期 <input type="radio"/> 20 II期 <input type="radio"/> 33 IIIC期	
TNM分類 (必須)	T	<input type="radio"/> 99 TX <input type="radio"/> 10 T1 (亜分類不明) <input type="radio"/> 20 T2 <input type="radio"/> 00 T0 <input type="radio"/> 11 T1a <input type="radio"/> 30 T3 <input type="radio"/> 01 Tis <input type="radio"/> 12 T1b
	N	<input type="radio"/> NX 領域リンパ節転移の評価が不可能 <input type="radio"/> N0 領域リンパ節転移なし <input type="radio"/> N1a 5mm未満のリンパ節転移が1~2個 <input type="radio"/> N1b 5mm以上のリンパ節転移が1個 <input type="radio"/> N2a 5mm未満のリンパ節転移が3個以上 <input type="radio"/> N2b 5mm以上のリンパ節転移が2個以上 <input type="radio"/> N2c 節外浸潤を呈するリンパ節転移 <input type="radio"/> N3 固着性または潰瘍性の領域リンパ節転移
	M	<input type="radio"/> M0 遠隔転移なし <input type="radio"/> M1 遠隔転移あり <input type="radio"/> MX 遠隔転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった
組織診断 (必須)	組織型	<input type="radio"/> 10 扁平上皮癌 <input type="radio"/> 30 腺扁平上皮癌 <input type="radio"/> 99 不明 <input type="radio"/> 20 腺癌 <input type="radio"/> 90 その他
治療 始年月日 (必須)	<input type="text"/> / <input type="text"/> / <input type="text"/> (西暦)	
治療法 ※主治療を先に、その他、施行した順に入力	1 (必須)	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法

※術前治療施行例の場合は、
治療を行った順に入力

2 clear	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 20 化学療法	<input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法	<input type="radio"/> 99 その他の治療
3 clear	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 20 化学療法	<input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法	<input type="radio"/> 99 その他の治療
4 clear	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 20 化学療法	<input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法	<input type="radio"/> 99 その他の治療
5 clear	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 20 化学療法	<input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法	<input type="radio"/> 99 その他の治療
6 clear	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 20 化学療法	<input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法	<input type="radio"/> 99 その他の治療

備考1

ypTNM 分類

ypT clear	<input type="radio"/> 99 TX <input type="radio"/> 00 T0 <input type="radio"/> 01 Tis	<input type="radio"/> 10 T1 (亜分類不明) <input type="radio"/> 11 T1a <input type="radio"/> 12 T1b	<input type="radio"/> 20 T2 <input type="radio"/> 30 T3
ypN clear	<input type="radio"/> NX 領域リンパ節転移の評価が不可能 <input type="radio"/> N0 領域リンパ節転移なし <input type="radio"/> N1a 5mm未満のリンパ節転移が1~2個 <input type="radio"/> N1b 5mm以上のリンパ節転移が1個 <input type="radio"/> N2a 5mm未満のリンパ節転移が3個以上 <input type="radio"/> N2b 5mm以上のリンパ節転移が2個以上 <input type="radio"/> N2c 節外浸潤を呈するリンパ節転移 <input type="radio"/> N3 固着性または潰瘍性の領域リンパ節転移		
ypM clear	<input type="radio"/> M0 遠隔転移なし <input type="radio"/> M1 遠隔転移あり <input type="radio"/> MX 遠隔転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった		

備考2

※不完全治療など、症例上の特筆事項を入力。
個人を容易に特定できるような情報を入力しないでください。

次へ進む

GO-RT

腔癌

患者登録フォーム

この色の項目は【必須入力】です。未入力では登録が完了しません。

2025年データ	999999 日本産科婦人科学会事務局	
登録コード clear	<input checked="" type="radio"/> 1 新規報告患者 <input type="radio"/> 2 既報告患者の内容変更 <input type="radio"/> 3 既報告患者の削除	
患者No.	自動表示	
年齢 (必須)	<input type="text"/> 歳	
手術状況 (必須)	<input type="radio"/> 1 手術施行例 <input type="radio"/> 2 手術未施行例 <input type="radio"/> 3 術前治療施行例	
FIGO分類 (必須)	<input type="radio"/> 10 I期 <input type="radio"/> 20 II期 <input type="radio"/> 30 III期 <input type="radio"/> 40 IV期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 41 IVA期 <input type="radio"/> 42 IVB期	
TNM分類 (必須)	T	<input type="radio"/> 99 TX <input type="radio"/> 00 T0 <input type="radio"/> 01 Tis <input type="radio"/> 10 T1 <input type="radio"/> 20 T2 <input type="radio"/> 30 T3 <input type="radio"/> 40 T4
	N	<input type="radio"/> NX 領域リンパ節転移の評価が不可能 <input type="radio"/> N0 領域リンパ節転移なし <input type="radio"/> N1 領域リンパ節転移あり
	M	<input type="radio"/> M0 遠隔転移なし <input type="radio"/> M1 遠隔転移あり <input type="radio"/> MX 遠隔転移の評価が不可能
組織診断 (必須)	組織型	<input type="radio"/> 10 扁平上皮癌 <input type="radio"/> 20 腺癌 <input type="radio"/> 30 腺扁平上皮癌 <input type="radio"/> 90 その他 <input type="radio"/> 99 不明
治療開始年月日 (必須)	<input type="text"/> / <input type="text"/> / <input type="text"/> (西暦)	
治療法 ※主治療を先に、その他、施行した順に入力 ※術前治療施行例の場合は、治療を行った順に入力	1 (必須)	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療
	2 clear	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療
	3 clear	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療

		4 <input type="button" value="clear"/>	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 20 化学療法	<input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法	<input type="radio"/> 99 その他の治療	
		5 <input type="button" value="clear"/>	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 20 化学療法	<input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法	<input type="radio"/> 99 その他の治療	
		6 <input type="button" value="clear"/>	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 20 化学療法	<input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法	<input type="radio"/> 99 その他の治療	
備考1	ypTNM 分類	ypT <input type="button" value="clear"/>	<input type="radio"/> 99 TX <input type="radio"/> 00 T0 <input type="radio"/> 01 Tis	<input type="radio"/> 10 T1 <input type="radio"/> 20 T2	<input type="radio"/> 30 T3 <input type="radio"/> 40 T4	
		ypN <input type="button" value="clear"/>	<input type="radio"/> NX 領域リンパ節転移の評価が不可能 <input type="radio"/> N0 領域リンパ節転移なし <input type="radio"/> N1 領域リンパ節転移あり			
		ypM <input type="button" value="clear"/>	<input type="radio"/> M0 遠隔転移なし <input type="radio"/> M1 遠隔転移あり <input type="radio"/> MX 遠隔転移の評価が不可能			
備考2		※不完全治療など、症例上の特筆事項を入力。 個人を容易に特定できるような情報を入力しないでください。 <div style="border: 1px solid #ccc; height: 40px; margin-top: 5px;"></div>				

GO-RT

子宮肉腫

患者登録フォーム

この色の項目は【必須入力】です。未入力では登録が完了しません。

2025年データ	999999 日本産科婦人科学会事務局	
登録コード clear	<input checked="" type="radio"/> 1 新規報告患者 <input type="radio"/> 2 既報告患者の内容変更 <input type="radio"/> 3 既報告患者の削除	
患者No.	自動表示	
年齢 (必須)	<input type="text"/> 歳	
手術状況 (必須)	<input type="radio"/> 1 手術施行例 <input type="radio"/> 2 手術未施行例 <input type="radio"/> 3 術前治療施行例	
FIGO分類 (必須)	<input type="radio"/> 10 I期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 22 IIB期 <input type="radio"/> 40 IV期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 11 IA期 <input type="radio"/> 30 III期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 41 IVA期 <input type="radio"/> 12 IB期 <input type="radio"/> 31 IIIA期 <input type="radio"/> 42 IVB期 <input type="radio"/> 20 II期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 32 IIIB期 <input type="radio"/> 21 IIA期 <input type="radio"/> 33 IIIC期	
TNM分類 (必須)	T	<input type="radio"/> 99 TX <input type="radio"/> 12 T1b <input type="radio"/> 30 T3 <input type="radio"/> 00 T0 <input type="radio"/> 20 T2 <input type="radio"/> 31 T3a <input type="radio"/> 10 T1 <input type="radio"/> 21 T2a <input type="radio"/> 32 T3b <input type="radio"/> 11 T1a <input type="radio"/> 22 T2b <input type="radio"/> 40 T4
	N	<input type="radio"/> N0 領域リンパ節に転移を認めない <input type="radio"/> N1 領域リンパ節に転移を認める <input type="radio"/> NX 領域リンパ節に転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった
	M	<input type="radio"/> M0 遠隔転移を認めない <input type="radio"/> M1 遠隔転移を認める <input type="radio"/> MX 遠隔転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった
組織診断 (必須)	組織型	<input type="radio"/> 8890/3 平滑筋肉腫 <input type="radio"/> 8805/3 未分化子宮肉腫 <input type="radio"/> 8891/3 類上皮平滑筋肉腫 <input type="radio"/> 8900/3 横紋筋肉腫 <input type="radio"/> 8896/3 類粘液平滑筋肉腫 <input type="radio"/> 90 その他 <input type="radio"/> 8931/3 低異型度子宮内膜間質肉腫 <input type="radio"/> 99 不明 (採取せず) <input type="radio"/> 8930/3 高異型度子宮内膜間質肉腫
治療開始年月日 (必須)	<input type="text"/> / <input type="text"/> / <input type="text"/> (西暦)	
治療法	1 (必須)	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 50 ホルモン療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法 <input type="radio"/> 60 分子標的療法

※主治療を先に、その他、
施行した順に入力

※術前治療施行例の場合
は、治療を行った順に入力

2 clear	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 50 ホルモン療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法 <input type="radio"/> 60 分子標的療法
3 clear	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 50 ホルモン療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法 <input type="radio"/> 60 分子標的療法
4 clear	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 50 ホルモン療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法 <input type="radio"/> 60 分子標的療法
5 clear	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 50 ホルモン療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法 <input type="radio"/> 60 分子標的療法
6 clear	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 50 ホルモン療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法 <input type="radio"/> 60 分子標的療法

備考1

ypTNM 分類

ypT clear	<input type="radio"/> 99 TX <input type="radio"/> 12 T1b <input type="radio"/> 30 T3 <input type="radio"/> 00 T0 <input type="radio"/> 20 T2 <input type="radio"/> 31 T3a <input type="radio"/> 10 T1 <input type="radio"/> 21 T2a <input type="radio"/> 32 T3b <input type="radio"/> 11 T1a <input type="radio"/> 22 T2b <input type="radio"/> 40 T4
ypN clear	<input type="radio"/> N0 領域リンパ節に転移を認めない <input type="radio"/> N1 領域リンパ節に転移を認める <input type="radio"/> NX 領域リンパ節に転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった
ypM clear	<input type="radio"/> M0 遠隔転移を認めない <input type="radio"/> M1 遠隔転移を認める <input type="radio"/> MX 遠隔転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった

備考2

※不完全治療など、症例上の特筆事項を入力。
個人を容易に特定できるような情報を入力しないでください。

次へ進む

GO-RT

子宮腺肉腫

患者登録フォーム

この色の項目は【必須入力】です。未入力では登録が完了しません。

2025年データ	999999 日本産科婦人科学会事務局	
登録コード clear	<input checked="" type="radio"/> 1 新規報告患者 <input type="radio"/> 2 既報告患者の内容変更 <input type="radio"/> 3 既報告患者の削除	
患者No.	自動表示	
年齢 (必須)	<input type="text"/> 歳	
手術状況 (必須)	<input type="radio"/> 1 手術施行例 <input type="radio"/> 2 手術未施行例 <input type="radio"/> 3 術前治療施行例	
FIGO分類 (必須)	<input type="radio"/> 10 I期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 21 IIA期 <input type="radio"/> 33 IIIC期 <input type="radio"/> 11 IA期 <input type="radio"/> 22 IIB期 <input type="radio"/> 40 IV期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 12 IB期 <input type="radio"/> 30 III期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 41 IVA期 <input type="radio"/> 13 IC期 <input type="radio"/> 31 IIIA期 <input type="radio"/> 42 IVB期 <input type="radio"/> 20 II期 (亜分類不明) <input type="radio"/> 32 IIIB期	
TNM分類 (必須)	T	<input type="radio"/> 99 TX <input type="radio"/> 13 T1c <input type="radio"/> 31 T3a <input type="radio"/> 00 T0 <input type="radio"/> 20 T2 <input type="radio"/> 32 T3b <input type="radio"/> 10 T1 <input type="radio"/> 21 T2a <input type="radio"/> 40 T4 <input type="radio"/> 11 T1a <input type="radio"/> 22 T2b <input type="radio"/> 12 T1b <input type="radio"/> 30 T3
	N	<input type="radio"/> N0 領域リンパ節に転移を認めない <input type="radio"/> N1 領域リンパ節に転移を認める <input type="radio"/> NX 領域リンパ節に転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった
	M	<input type="radio"/> M0 遠隔転移を認めない <input type="radio"/> M1 遠隔転移を認める <input type="radio"/> MX 遠隔転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった
組織診断 (必須)	組織型	<input type="radio"/> 10 腺肉腫 <input type="radio"/> 90 その他 <input type="radio"/> 99 不明
治療開始年月日 (必須)	<input type="text"/> / <input type="text"/> / <input type="text"/> (西暦)	

<p style="text-align: center;">治療法</p> <p>※主治療を先に、その他、施行した順に入力</p> <p>※術前治療施行例の場合は、治療を行った順に入力</p>		<p style="text-align: center;">1 (必須)</p>	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 50 ホルモン療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法 <input type="radio"/> 60 分子標的療法
		<p style="text-align: center;">2 clear</p>	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 50 ホルモン療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法 <input type="radio"/> 60 分子標的療法
		<p style="text-align: center;">3 clear</p>	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 50 ホルモン療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法 <input type="radio"/> 60 分子標的療法
		<p style="text-align: center;">4 clear</p>	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 50 ホルモン療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法 <input type="radio"/> 60 分子標的療法
		<p style="text-align: center;">5 clear</p>	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 50 ホルモン療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法 <input type="radio"/> 60 分子標的療法
		<p style="text-align: center;">6 clear</p>	<input type="radio"/> 10 手術 <input type="radio"/> 30 放射線療法 <input type="radio"/> 50 ホルモン療法 <input type="radio"/> 99 その他の治療 <input type="radio"/> 20 化学療法 <input type="radio"/> 40 同時化学放射線療法 <input type="radio"/> 60 分子標的療法
備考1	ypTNM 分類	<p style="text-align: center;">ypT clear</p>	<input type="radio"/> 99 TX <input type="radio"/> 13 T1c <input type="radio"/> 31 T3a <input type="radio"/> 00 T0 <input type="radio"/> 20 T2 <input type="radio"/> 32 T3b <input type="radio"/> 10 T1 <input type="radio"/> 21 T2a <input type="radio"/> 40 T4 <input type="radio"/> 11 T1a <input type="radio"/> 22 T2b <input type="radio"/> 12 T1b <input type="radio"/> 30 T3
		<p style="text-align: center;">ypN clear</p>	<input type="radio"/> N0 領域リンパ節に転移を認めない <input type="radio"/> N1 領域リンパ節に転移を認める <input type="radio"/> NX 領域リンパ節に転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった
		<p style="text-align: center;">ypM clear</p>	<input type="radio"/> M0 遠隔転移を認めない <input type="radio"/> M1 遠隔転移を認める <input type="radio"/> MX 遠隔転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった
備考2		<p>※不完全治療など、症例上の特筆事項を入力。 個人を容易に特定できるような情報を入力しないでください。</p> <div style="border: 1px solid gray; height: 40px; width: 100%;"></div>	

次へ進む

GO-TD

侵入奇胎・絨毛癌・PSTT・ETT・存続絨毛症

患者登録フォーム

(2025年データ) 施設	999999 日本産科婦人科学会事務局				
登録コード	<input checked="" type="radio"/> 1 新規報告患者 <input type="radio"/> 2 既報告患者の内容変更 <input type="radio"/> 3 既報告患者の削除				
患者No.	自動表示				
年齢 (必須)	<input type="text"/> 歳				
診断名 (必須)	<table><tr><td>病理組織診断あり clear</td><td><input type="radio"/> 1-1 侵入胎状奇胎 (侵入奇胎) <input type="radio"/> 1-2 絨毛癌 <input type="radio"/> 1-3 PSTT (胎盤部トロホプラスト腫瘍) <input type="radio"/> 1-4 ETT (類上皮性トロホプラスト腫瘍)</td></tr><tr><td>病理組織診断なし (存続絨毛症) clear</td><td><input type="radio"/> 2-1 奇胎後hCG存続症 (病巣不明) <input type="radio"/> 2-2 臨床的侵入奇胎 (絨毛癌診断スコア0~4点) <input type="radio"/> 2-3 臨床的絨毛癌 (絨毛癌診断スコア5点以上)</td></tr></table>	病理組織診断あり clear	<input type="radio"/> 1-1 侵入胎状奇胎 (侵入奇胎) <input type="radio"/> 1-2 絨毛癌 <input type="radio"/> 1-3 PSTT (胎盤部トロホプラスト腫瘍) <input type="radio"/> 1-4 ETT (類上皮性トロホプラスト腫瘍)	病理組織診断なし (存続絨毛症) clear	<input type="radio"/> 2-1 奇胎後hCG存続症 (病巣不明) <input type="radio"/> 2-2 臨床的侵入奇胎 (絨毛癌診断スコア0~4点) <input type="radio"/> 2-3 臨床的絨毛癌 (絨毛癌診断スコア5点以上)
病理組織診断あり clear	<input type="radio"/> 1-1 侵入胎状奇胎 (侵入奇胎) <input type="radio"/> 1-2 絨毛癌 <input type="radio"/> 1-3 PSTT (胎盤部トロホプラスト腫瘍) <input type="radio"/> 1-4 ETT (類上皮性トロホプラスト腫瘍)				
病理組織診断なし (存続絨毛症) clear	<input type="radio"/> 2-1 奇胎後hCG存続症 (病巣不明) <input type="radio"/> 2-2 臨床的侵入奇胎 (絨毛癌診断スコア0~4点) <input type="radio"/> 2-3 臨床的絨毛癌 (絨毛癌診断スコア5点以上)				
治療開始年月日 (必須)	<input type="text"/> / <input type="text"/> / <input type="text"/> (西暦)				

絨毛癌診断スコア (PSTT・ETT・奇胎後hCG存続症以外は必須)

絨毛癌診断スコア (1~7の合計点)	自動表示 点																				
1. 先行妊娠 clear	<input type="radio"/> 胎状奇胎 (0点) <input type="radio"/> 流産 (3点) <input type="radio"/> 正期産 (5点)																				
2. 潜伏期 clear	<input type="radio"/> 6か月未満 (0点) <input type="radio"/> 6か月~3年未満 (4点) <input type="radio"/> 3年以上 (5点)																				
3. 原発病巣 clear	<input type="radio"/> 子宮体部・子宮傍結合織・腔 (0点) <input type="radio"/> 卵管・卵巣 (3点) <input type="radio"/> 子宮頸部 (4点) <input type="radio"/> 骨盤外 (5点)																				
4. 転移部位 clear	<input type="radio"/> なし・肺・骨盤内 (0点) <input type="radio"/> 骨盤外 (肺を除く) (5点)																				
5. 肺転移巣 clear	<table><tr><td></td><td><input type="radio"/> 0点</td><td><input type="radio"/> 3点</td><td><input type="radio"/> 4点</td><td><input type="radio"/> 5点</td></tr><tr><td>直径</td><td>20mm未満</td><td>20~30mm未満</td><td></td><td>30mm以上</td></tr><tr><td>大小不同</td><td>なし</td><td></td><td>あり</td><td></td></tr><tr><td>個数</td><td>20個以下</td><td></td><td></td><td>21個以上</td></tr></table>		<input type="radio"/> 0点	<input type="radio"/> 3点	<input type="radio"/> 4点	<input type="radio"/> 5点	直径	20mm未満	20~30mm未満		30mm以上	大小不同	なし		あり		個数	20個以下			21個以上
	<input type="radio"/> 0点	<input type="radio"/> 3点	<input type="radio"/> 4点	<input type="radio"/> 5点																	
直径	20mm未満	20~30mm未満		30mm以上																	
大小不同	なし		あり																		
個数	20個以下			21個以上																	
6. hCG値 (mIU/ml) clear	<input type="radio"/> 10^6 未満 (0点) <input type="radio"/> 10^6 ~ 10^7 未満 (1点) <input type="radio"/> 10^7 以上 (3点)																				
7. 基礎体温 (月経周期) clear	<input type="radio"/> 不規則・一相性 (不規則) (0点) <input type="radio"/> 二相性 (整調) (5点) ※下記に該当する場合は、二相性 (整調) (5点) を選択してください。 ① 先行妊娠の終了から診断までの期間に、hCGがカットオフ値以下であることが数回にわたり確認された場合 ② 胎状奇胎娩出後、hCGがカットオフ値以下になった後に、新たな妊娠ではなくhCGの再上昇を示した場合																				

FIGOスコア (PSTT・ETT以外は必須)

FIGOスコア (8~15の合計点)	自動表示 点 Low risk (0~6点) High risk (7点以上)
8.年齢 <input type="button" value="clear"/>	<input type="radio"/> 40歳未満 (0点) <input type="radio"/> 40歳以上 (1点)
9.先行妊娠 <input type="button" value="clear"/>	<input type="radio"/> 胎状奇胎 (0点) <input type="radio"/> 流産 (1点) <input type="radio"/> 正期産 (2点)
10.先行妊娠からの期間 <input type="button" value="clear"/>	<input type="radio"/> 4カ月未満 (0点) <input type="radio"/> 4カ月~7カ月未満 (1点) <input type="radio"/> 7カ月~13カ月未満 (2点) <input type="radio"/> 13か月以上 (4点)
11.治療前血中hCG値 (mIU/ml) <input type="button" value="clear"/>	<input type="radio"/> 10 ³ 未満 (0点) <input type="radio"/> 10 ³ ~10 ⁴ 未満 (1点) <input type="radio"/> 10 ⁴ ~10 ⁵ 未満 (2点) <input type="radio"/> 10 ⁵ 以上 (4点)
12.腫瘍の最大径 <input type="button" value="clear"/>	<input type="radio"/> 3cm未満 (0点) <input type="radio"/> 3~5cm未満 (1点) <input type="radio"/> 5cm以上 (2点) <input type="radio"/> 画像検査での検出なし (0点)
13.転移部位 <input type="button" value="clear"/>	<input type="radio"/> 肺 (0点) <input type="radio"/> 脾臓・腎臓 (1点) <input type="radio"/> 消化管 (2点) <input type="radio"/> 肝臓・脳 (4点) <input type="radio"/> 転移の検出なし (0点)
14.転移の数 (個) <input type="button" value="clear"/>	<input type="radio"/> 1~4 (1点) <input type="radio"/> 5~8 (2点) <input type="radio"/> 9以上 (4点) <input type="radio"/> 転移の検出なし (0点)
15.効果不良の既往化学療法 <input type="button" value="clear"/>	<input type="radio"/> 単剤療法 (2点) <input type="radio"/> 多剤療法 (4点) <input type="radio"/> 既往化学療法なし (0点)

注：画像検査で病巣が検出されない場合、項目12は0点、転移が検出されない場合、項目13および14は0点、既往化学療法のない場合、項目15は0点となります。

FIGO 2000 進行期 (全症例で必須)

16. FIGO 2000 stage (必須)	<input type="radio"/> I期 : 病巣は子宮に限局 <input type="radio"/> II期 : 病巣が子宮外に進展、ただし付属器,膣,広靭帯に限局している <input type="radio"/> III期 : 肺転移の存在、ただし内性器の病巣の有無は問わない <input type="radio"/> IV期 : その他の部位への転移の存在
------------------------------------	--

1
2 日本産科婦人科学会 婦人科腫瘍委員会
3 婦人科腫瘍登録事業及び登録情報に基づく研究
4 に対するご協力をお願い

5
6 研究責任者 所属 日本産科婦人科学会 婦人科腫瘍委員会
7 職名 委員長 氏名 佐藤 豊実
8

9 このたび、日本産科婦人科学会 婦人科腫瘍登録事業ならびにそれにより得られた婦人科腫瘍登
10 録データベースを用いた下記の医学系研究を、東北大学病院臨床研究倫理委員会の承認および日本
11 産科婦人科学会臨床研究審査委員会ならびに理事長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して
12 実施しますので、ご協力をお願いいたします。なお、この研究は既存の診療録情報を用いなければ
13 研究の実施が困難であり、個別に同意をいただかずに、通知・公開を行うことで実施することが国
14 の指針によって認められています。

15 この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプ
16 ライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を
17 診療を受けた施設までお申し出下さいますようお願いいたします。
18

19 1 対象となる方

20 2000年1月1日より2034年12月31日までの間に、婦人科腫瘍登録参加施設（下記参照）で
21 婦人科悪性腫瘍（子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌・卵巣境界悪性腫瘍・卵管癌・卵管境界悪性腫瘍、
22 腹膜癌、外陰癌、膣癌、子宮肉腫、子宮腺肉腫、絨毛性疾患）に対する治療を受けた方
23

24 2 研究課題名

25 東北大学病院臨床研究倫理委員会の受付番号：受付-44219

26 日本産科婦人科学会の支持番号：2017-70-3（支持番号 65）

27 研究課題名「日本産科婦人科学会 婦人科腫瘍委員会 婦人科腫瘍登録事業及び登録情報に基づく研
28 究」
29

30 3 研究実施機関

31 婦人科腫瘍登録参加施設からのデータ提供を受けて公益社団法人日本産科婦人科学会が実施。

32 登録参加施設は日本産科婦人科学会ホームページにおいて公開。

33 (https://jsog.members-web.com/hp/search_facility)
34

35 4 本研究の意義、目的、方法

36 子宮頸癌、子宮体癌、卵巣・卵管悪性腫瘍、卵巣・卵管境界悪性腫瘍、腹膜癌、外陰癌、膣癌、子
37 宮肉腫、子宮腺肉腫、絨毛性疾患の方の臨床情報を収集解析することにより、1) わが国における
38 婦人科がんの進行期・病理学的分類、2) 診断・治療の実態、3) 治療成績（5年生存率）、4)
39 登録罹患数や治療指標などの年次推移を解析、公表し、婦人科癌患者の医療・福祉に貢献すること

1 を目的とします。また、登録された情報を、日本産科婦人科学会で審査・承認された研究に二次利
2 用されることにより、国内の臨床研究や国際比較研究の発展につなげていきます。

3 方法は、下記に示す項目について、対象の方の診療録よりデータを抽出して、婦人科腫瘍登録用の
4 オンラインデータベースシステムに WEB 登録を行います。

5 (登録される項目)

6 年齢、疾患名、治療開始日、進行期分類 (FIGO 分類および TNM 分類)、組織分類、分子遺伝学分
7 類、局所進展、領域リンパ節転移、遠隔転移、治療内容と手術術式、予後 など

8
9 収集されたデータは日本産科婦人科学会で管理されます。登録されたデータをもとに、患者年報
10 と治療年報を作成し、日本産科婦人科学会誌や日本産科婦人科学会ホームページなどで公表されま
11 す。(<https://www.jsog.or.jp/medical/624/>)

12 さらに、3~5 年に一度、毎年公表する患者年報より詳細な解析を行い、論文として公表します。

13 なお、本研究に登録されたデータを利用した二次研究には、日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員
14 会および臨床研究審査委員会の許可が必要です。申請された研究内容の科学的妥当性、実行可能性、
15 研究体制や実績を含む適格性などの厳格な基準に基づいて協議され、そのうえで倫理審査委員会
16 の審査が行われ、二次利用の可否が決定されます。二次利用では、審査の結果、許可された項目の
17 みが提供されます。なお、氏名や住所、患者番号などのように、個人を直接識別できる情報は、登
18 録の段階で除外されており、データとして提供されることはありません。ただし、一部の研究にお
19 いて、他のデータベースのデータと照合し、新たなデータセットを作成して解析を行うことがあり
20 ます。その際にはデータの整合性を高めるため、一時的に登録項目の一部 (個人を識別しうる情報)
21 を用いて、データの照合を行うことがあります。その際にも、個人を識別しうる情報の利用は最小
22 限として、不要になったら削除するなど、その取り扱いには細心の注意を払います。

23

24 5 協力をお願いする内容

25 4 で示した情報を診療録より抽出して登録します。

26 これらの情報については、婦人科腫瘍登録だけでなく、別の臨床研究で二次利用することもあり
27 ます。

28

29 6 本研究の実施期間

30 2018 年 5 月 10 日から 2035 年 12 月 31 日まで

31

32 7 プライバシーの保護について

33 本研究で取り扱う患者さんの情報は、4にご説明したように、プライバシー保護のために氏名や
34 住所、患者番号などのように、ひとつの項目だけで個人を特定できる情報をあらかじめ除外したう
35 えで日本産科婦人科学会へ提供され、使用します。個人を特定しうる情報との対応表は各登録施設
36 において厳重に管理されています。この対応表を用いて、別のデータベースと照合し、新たなデー
37 タセットを作成する可能性はありますが、その際も個人を特定しうる情報は速やかに削除され、ま
38 た対応表が他施設に提供されることはありません。これらの情報を用いた研究成果の発表や論文投
39 稿にあたっては、必ずデータ集計処理を行い、分析結果のみを公表し、そのままの形で公開するこ

1 とはありません。

2

3 8 お問い合わせ

4 本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。個人情報の管理責任者は日本産科婦
5 人科学会になりますが、その責務は、日本産科婦人科学会 婦人科腫瘍委員会 委員長 佐藤 豊実
6 に委任され管理されます。

7 また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）
8 より、情報の利用や他の研究機関への提供の停止を求める旨のお申し出があった場合は、当該情報
9 は削除され、研究には用いられません。その場合は診療のために受診された施設へのご連絡をお願い
10 いたします。

11

12 研究責任者／個人情報管理責任者
13 日本産科婦人科学会 婦人科腫瘍委員会
14 委員長 佐藤 豊実

15 研究事務局／相談・窓口対応
16 日本産科婦人科学会 婦人科腫瘍委員会
17 婦人科腫瘍登録の運用と nationwide のがん疫学に関する小委員会
18 委員長 梶山 広明

19 TEL: 03-4330-2864

20 FAX: 03-4330-2865

21 Email: goc@jsog.or.jp

22 相談・対応窓口（婦人科腫瘍登録参加施設）

23 ●●病院 登録責任医師 ●●●●

24 ×××

25

26 作成日 2017年 10月 12日 第1版

27 2017年 12月 20日 第2版

28 2018年 1月 29日 第3版

29 2018年 10月 29日 第4版

30 2019年 8月 5日 第5版

31 2022年 9月 1日 第6版

32 2025年 11月 2日 第7版

33 2026年 1月 22日 第8版

既存情報のみを提供する機関(登録参加施設)・登録代表医師

2025.11.2現在

施設No.	登録施設名	登録代表医師
010003	北海道がんセンター	見延 進一郎
010008	手稲溪仁会病院	和田 真一郎
010009	市立函館病院	山下 剛
010010	函館中央病院	片岡 宙門
010011	函館五稜郭病院	福中 規功
010014	小樽市立病院	金内 優典
010017	苫小牧市立病院	山田 恭子
010019	斗南病院	逸見 博文
010021	札幌市立札幌病院	奥山 和彦
010024	NTT東日本札幌病院	寺本 瑞絵
010025	札幌医科大学	齋藤 豪
010027	北海道大学	渡利 英道
010028	KKR札幌医療センター	西 信也
010034	天使病院	藤枝 聡子
010037	市立旭川病院	阿部 秀悦
010038	JA北海道厚生連旭川厚生病院	中嶋 えりか
010040	旭川医科大学	加藤 育民
010042	JA北海道厚生連帯広厚生病院	飯沼 洋一郎
010043	釧路赤十字病院	米原 利栄
010059	王子総合病院	野村 英司
010084	市立釧路総合病院	岡村 直樹
010086	北海道医療センター	北村 晋逸
010091	市立稚内病院	寶田 健平
010092	札幌禎心会病院	西村 真唯
020004	青森県立中央病院	尾崎 浩士
020007	八戸市立市民病院	田中 宏典
020008	下北医療センターむつ総合病院	武田 愛紗
020012	弘前大学	横山 良仁
030001	岩手県立中央病院	葛西 真由美
030004	岩手医科大学	馬場 長
030006	盛岡赤十字病院	藤原 純
040003	仙台市立病院	大槻 健郎
040004	東北大学	齋藤 昌利
040008	宮城県立がんセンター	海法 道子
040013	仙台医療センター	武山 陽一
040022	石巻赤十字病院	黒澤 靖大
040029	東北医科薬科大学	徳永 英樹
050001	秋田赤十字病院	今野 めぐみ
050002	市立秋田総合病院	軽部 裕子
050003	秋田大学	寺田 幸弘
050006	大曲厚生医療センター	佐藤 敏治
060002	山形県立中央病院	堤 誠司
060005	山形大学	永瀬 智
060007	鶴岡市立荘内病院	矢野 亮
060008	日本海総合病院	井出 佳宏
070003	福島県立医科大学	藤森 敬也
070010	寿泉堂総合病院	鈴木 博志
070015	いわき市医療センター	三瓶 稔
070026	総合南東北病院	古川 茂宜
080001	土浦協同病院	坂本 雅恵
080002	東京医科大学茨城医療センター	二神 真行
080003	霞ヶ浦医療センター	新井 ゆう子
080006	筑波学園病院	和田 篤
080007	筑波大学	佐藤 豊実
080012	茨城県立中央病院	沖 明典

既存情報のみを提供する機関(登録参加施設)・登録代表医師

2025.11.2現在

施設No.	登録施設名	登録代表医師
080015	水戸赤十字病院	中林 誠
080021	日立総合病院	漆川 邦
080022	JAとりで総合医療センター	梅木 英紀
080031	筑波メディカルセンター	野末 彰子
090004	獨協医科大学	成瀬 勝彦
090005	済生会宇都宮病院	土谷 美和
090010	那須赤十字病院	白石 悟
090011	足利赤十字病院	隅田 能雄
090012	佐野厚生総合病院	平嶋 洋斗
090015	自治医科大学	藤原 寛行
090016	栃木県立がんセンター	葭葉 貴弘
090018	国際医療福祉大学	大澤 稔
100005	高崎総合医療センター	伊藤 郁朗
100008	前橋赤十字病院	曾田 雅之
100009	JCHO群馬中央病院	伊藤 理廣
100012	群馬大学	岩瀬 明
100015	太田記念病院	寺西 貴英
100018	桐生厚生総合病院産婦人科	諏訪 裕人
100022	群馬県立がんセンター	山下 宗一
110003	自治医科大学附属さいたま医療センター	桑田 知之
110005	済生会川口総合病院	高橋 裕子
110007	川口市立医療センター	武田 規央
110008	埼玉メディカルセンター	金田 佳史
110009	さいたま市立病院	池田 俊之
110010	さいたま赤十字病院	高橋 泰洋
110014	越谷市立病院	西岡 暢子
110016	獨協医科大学埼玉医療センター	高倉 聡
110022	埼玉医科大学総合医療センター	高井 泰
110023	国立病院機構埼玉病院産婦人科	服部 純尚
110026	国立病院機構西埼玉中央病院	石井 賢治
110027	防衛医科大学	高野 政志
110030	埼玉県立がんセンター	堀江 弘二
110032	深谷赤十字病院	松本 智恵子
110055	埼玉医科大学国際医療センター	佐藤 翔
110062	戸田中央総合病院	長嶋 武雄
110067	羽生総合病院	森村 豊
120002	千葉医療センター	岡嶋 祐子
120004	千葉市立青葉病院	金谷 裕美
120005	千葉大学	甲賀 かをり
120009	日本医科大学付属千葉北総病院	市川 剛
120012	松戸市立総合医療センター	森本 沙知
120015	東京歯科大学市川総合病院	内田 浩
120017	船橋市立医療センター	林 茂空
120021	東京慈恵会医科大学附属 柏病院	谷口 慧利子
120023	順天堂大学浦安病院	牧野 真太郎
120025	東邦大学医療センター佐倉病院	高島 明子
120027	成田赤十字病院	山ノ内 美紀
120029	国保旭中央病院	小林 康祐
120034	君津中央病院	木村 博昭
120035	亀田総合病院	門岡 みずほ
120036	帝京大学ちば総合医療センター	五十嵐 敏雄
120042	千葉県がんセンター	田中 尚武
120051	東京女子医科大学八千代医療センター	中島 義之
120053	千葉愛友会記念病院	平川 宏
120060	医療法人徳洲会 千葉徳洲会病院	野坂 和外

既存情報のみを提供する機関(登録参加施設)・登録代表医師

2025.11.2現在

施設No.	登録施設名	登録代表医師
120062	国立がん研究センター東病院	田部 宏
120063	国際医療福祉大学成田病院	永松 健
120067	医療法人財団明理会 新松戸中央総合病院	杉田 匡聡
130004	日本大学	前林 亜紀
130005	三井記念病院	荷見 よう子
130007	東京警察病院	中澤 直子
130009	国立がん研究センター中央病院	石川 光也
130012	聖路加国際病院	山中 美智子
130013	東京慈恵会医科大学	岡本 愛光
130014	虎の門病院	鈴木 蓉子
130017	東京都済生会中央病院	弟子丸 亮太
130023	順天堂大学	竹田 純
130024	東京科学大学	宮坂 尚幸
130025	日本医科大学	鈴木 俊治
130026	東京大学	廣田 泰
130029	東京女子医科大学附属足立医療センター	橋本 和法
130034	東京慈恵会医科大学葛飾医療センター	宮 美智子
130037	同愛記念病院	小泉 美奈子
130038	東京都立墨東病院	兵藤 博信
130044	NTT東日本関東病院	西森 裕美子
130046	昭和医科大学	関沢 明彦
130050	東邦大学医療センター大森病院	中田 雅彦
130055	日本赤十字社医療センター	木戸 道子
130056	東京都立広尾病院	若林 晶
130059	JR東京総合病院	菅 智美
130061	国立病院機構東京医療センター	眞壁 健
130063	厚生中央病院	神田 理恵子
130064	東邦大学医療センター大橋病院	田中 京子
130074	東京医科大学	西 洋孝
130076	東京山手メディカルセンター	小林 浩一
130077	慶應義塾大学	山上 亘
130080	国立国際医療センター	大石 元
130081	東京女子医科大学	水主川 純
130085	杏林大学付属杉並病院	三沢 昭彦
130086	河北総合病院	古川 誠志
130090	都立大塚病院	岩田 みさ子
130092	帝京大学	木戸 浩一郎
130095	日本大学板橋病院	川名 敬
130096	板橋中央総合病院	石田 友彦
130099	武蔵野赤十字病院	小林 織恵
130100	杏林大学	小林 陽一
130102	東京都立多摩総合医療センター	本多 泉
130103	公立昭和病院	土谷 聡
130107	立川病院	仙波 宏史
130108	立川相互病院産婦人科	佐藤 典子
130111	東京医科大学八王子医療センター	清水 基弘
130112	町田市民病院	駒崎 裕美
130113	市立青梅総合医療センター	鈴木 晃子
130115	公立福生病院	田中 逸人
130116	東京慈恵会医科大学附属第三病院	磯 勇翔
130118	稲城市立病院	増田 充
130119	日本医科大学多摩永山病院	林 昌子
130120	都立豊島病院	坂巻 健
130122	がん・感染症センター都立駒込病院	森 繭代
130124	佐々木研究所附属杏雲堂病院	坂本 優

既存情報のみを提供する機関(登録参加施設)・登録代表医師

2025.11.2現在

施設No.	登録施設名	登録代表医師
130125	がん研究会有明病院	金尾 祐之
130135	多摩南部地域病院	三田 俊二
130137	東海大学付属八王子病院	村松 俊成
130144	順天堂大学練馬病院	荻島 大貴
130149	東京北医療センター	塩津 英美
130152	永寿総合病院	渡辺 紗奈
130162	国際医療福祉大学三田病院	永吉 陽子
130183	多摩北部医療センター	工藤 一弥
130207	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立東部地域病院	宮井 健太郎
130215	公立阿伎留医療センター	高田 眞一
130224	東京国際大堀病院	井坂 恵一
130230	自衛隊中央病院	垣本 壮一郎
130233	江戸川病院	上野山 麻水
130237	東京西徳洲会病院	原 亜紀
140001	川崎市立川崎病院	中田 さくら
140006	日本医科大学武蔵小杉病院	新村 裕樹
140008	関東労災病院	松本 陽子
140010	帝京大学医学部附属溝口病院	本田 倫子
140012	聖マリアンナ医科大学	鈴木 直
140014	けいゆう病院	末永 香緒里
140016	横浜労災病院	志村 茉衣
140017	昭和医科大学藤が丘病院	松浦 玲
140019	相模原病院	新井 努
140020	北里大学	落合 大吾
140021	相模野病院	望月 純子
140022	相模原協同病院	水谷 美貴
140026	横浜市立みなと赤十字病院	桃原 祥人
140028	済生会横浜市南部病院	野口 貴史
140029	横浜市立大学	宮城 悦子
140030	横浜南共済病院	永田 智子
140032	横須賀共済病院	杉浦 賢
140035	横浜市立市民病院	倉澤 健太郎
140037	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	田村 みどり
140038	大和市立病院	長谷川 哲哉
140039	厚木市立病院	茂木 真
140042	国立病院機構横浜医療センター	最上 多恵
140044	湘南鎌倉総合病院	井上 裕美
140045	小田原市立病院	丸山 康世
140046	藤沢市民病院	片山 佳代
140047	茅ヶ崎市立病院	高梨 裕子
140049	平塚市民病院	藤本 喜展
140054	伊勢原協同病院	飯塚 義浩
140055	東海大学	石本 人士
140059	神奈川県立がんセンター	近内 勝幸
140061	横浜市立大学市民総合医療センター	青木 茂
140063	昭和医科大学横浜市北部病院	市塚 清健
140093	済生会横浜市東部病院	伊藤 めぐむ
140102	新百合ヶ丘総合病院	樋口 隆幸
140108	川崎幸病院	長谷川 明俊
150002	山梨県立中央病院	笠井 真祐子
150006	山梨大学	吉野 修
160001	長野赤十字病院	今西 俊明
160003	佐久総合病院佐久医療センター	小口 治
160004	佐久市立国保浅間総合病院	青木 敬宏
160005	南長野医療センター篠ノ井総合病院	本道 隆明

既存情報のみを提供する機関(登録参加施設)・登録代表医師

2025.11.2現在

施設No.	登録施設名	登録代表医師
160006	信州大学	宮本 強
160022	長野市民病院	本田 理貢
170002	順天堂大学医学部附属静岡病院	田中 里美
170006	富士市立中央病院	矢田 大輔
170008	静岡赤十字病院産婦人科	根本 泰子
170009	静岡県立総合病院	小阪 謙三
170014	静岡済生会総合病院	小野田 亮
170016	静岡市立清水病院	岩崎 真也
170023	聖隷浜松病院	村越 毅
170025	浜松医科大学	小谷 友美
170026	浜松医療センター	芹沢 麻里子
170031	磐田市立総合病院	徳永 直樹
170051	静岡県立静岡がんセンター	國司 真央
170058	中東遠総合医療センター	村上 裕介
170063	藤枝市立総合病院	松木 翔太郎
180001	長岡赤十字病院	本多 啓輔
180008	新潟市民病院産婦人科	倉林 工
180009	新潟大学	吉原 弘祐
180010	新潟県立がんセンター新潟病院	横田 一樹
180029	魚沼基幹病院	鈴木 美奈
190001	富山大学	中島 彰俊
190002	富山赤十字病院	桑間 直志
190003	富山県立中央病院	炭谷 崇義
190004	厚生連 高岡病院	福田 香織
190005	黒部市民病院	結城 浩良
190009	高岡市民病院	山崎 悠紀
200001	金沢医科大学	高倉 正博
200002	金沢医療センター	野島 俊二
200003	石川県立中央病院いしかわ総合母子医療センター	平吹 信弥
200004	金沢大学	安彦 郁
210002	福井県立病院	高橋 仁
210003	福井大学	吉田 好雄
210004	福井赤十字病院	加藤 正隆
210006	福井県済生会病院	黒川 哲司
220002	岐阜大学	磯部 真倫
220005	松波総合病院	市古 哲
220006	大垣市民病院	古井 俊光
220010	岐阜県立多治見病院	中村 浩美
220026	市立恵那病院	伊藤 雄二
230001	豊橋市民病院	岡田 真由美
230004	豊川市民病院	保條 説彦
230006	岡崎市民病院	後藤 真紀
230009	安城更生病院	中村 紀友喜
230011	刈谷豊田総合病院	松井 純子
230014	日本赤十字社 愛知医療センター名古屋第一病院	津田 弘之
230015	名古屋掖済会病院	清水 顕
230016	藤田医科大学ばんだね病院	柴田 清住
230017	中部労災病院	柴田 大二郎
230020	中京病院	藤井 詩子
230024	名古屋医療センター	中西 豊
230029	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター	西川 尚実
230030	名古屋市立大学医学部附属東部医療センター	小島 和寿
230031	名古屋大学	梶山 広明
230033	日本赤十字社 愛知医療センター名古屋第二病院	加藤 紀子
230034	名古屋市立大学	杉浦 真弓

既存情報のみを提供する機関(登録参加施設)・登録代表医師

2025.11.2現在

施設No.	登録施設名	登録代表医師
230035	藤田医科大学	西澤 春紀
230036	トヨタ記念病院	岸上 靖幸
230037	知多半島総合医療センター	諸井 博明
230040	愛知医科大学	渡辺 員支
230042	江南厚生病院	木村 直美
230043	小牧市民病院産婦人科	森川 重彦
230044	春日井市民病院	高村 志麻
230045	公立陶生病院	近藤 紳司
230047	一宮市立市民病院	佐々 治紀
230049	海南病院	山田 里佳
230052	愛知県がんセンター	鈴木 史朗
230053	豊田厚生病院	新城 加奈子
230055	名古屋記念病院	廣中 昌恵
230077	総合大雄会病院	嶋津 光真
230104	知多半島りんくう病院	黒土 升蔵
230107	公立西知多総合病院	川地 史高
230109	一宮西病院	竹下 奨
230114	藤田医科大学岡崎医療センター	西澤 春紀
240002	三重県立総合医療センター	朝倉 徹夫
240003	市立四日市病院	長尾 賢治
240008	三重中央医療センター	山口 恭平
240009	三重大学	近藤 英司
240015	伊勢赤十字病院	前川 有香
240030	桑名市総合医療センター	前田 佳紀
250001	大津赤十字病院	藤田 浩平
250003	滋賀医科大学	村上 節
250006	近江八幡市立総合医療センター	松島 洋
250008	滋賀県立総合病院	高尾 由美
250023	淡海医療センター	卜部 優子
250027	済生会滋賀県病院	中川 哲也
250028	長浜赤十字病院	中島 正敬
260002	京都第二赤十字病院	衛藤 美穂
260003	京都府立医科大学	森 泰輔
260006	京都市立病院	山本 浩之
260007	京都第一赤十字病院	大久保 智治
260009	京都大学	万代 昌紀
260012	宇治徳洲会病院	青木 昭和
260013	京都桂病院	芦原 隆仁
260014	国立病院機構京都医療センター	濱西 潤三
260016	三菱京都病院	佐々木 聖子
260017	京都済生会病院	福岡 正晃
260021	洛和会音羽病院	福谷 優貴
260034	京都府立医科大学北部医療センター	黒星 晴夫
270002	大阪府済生会中津病院	富家 真理
270003	北野病院	吉岡 弓子
270006	淀川キリスト教病院	鈴木 嘉穂
270007	大阪市立総合医療センター	中本 収
270008	済生会野江病院	金本 巨万
270009	大阪医療センター	翼 啓司
270013	大阪警察病院	西尾 幸浩
270014	大阪赤十字病院	前田 万里紗
270015	大阪鉄道病院	坂井 昌弘
270016	大阪公立大学	角 俊幸
270018	日本生命病院	橋本 奈美子
270020	JCHO大阪病院	繁田 直哉

既存情報のみを提供する機関(登録参加施設)・登録代表医師

2025.11.2現在

施設No.	登録施設名	登録代表医師
270022	千船病院	岡田 十三
270025	大阪急性期・総合医療センター	竹村 昌彦
270028	市立岸和田市民病院	中川 倫子
270029	豊中市立豊中病院	辻江 智子
270032	済生会吹田病院	津戸 寿幸
270033	市立吹田市民病院	堀江 稔
270035	大阪大学	小玉 美智子
270040	高槻病院	中後 聡
270041	大阪医科薬科大学	田中 智人
270042	関西医科大学	岡田 英孝
270043	松下記念病院	小柴 寿人
270048	市立東大阪医療センター	木村 敏啓
270051	阪南中央病院	山栴 誠一
270053	八尾市立病院	山田 嘉彦
270054	大阪はびきの医療センター	赤田 忍
270055	独立行政法人 大阪南医療センター	金村 昌徳
270056	近畿大学	松村 謙臣
270059	耳原総合病院	坂本 能基
270060	堺市立総合医療センター	太田 行信
270062	大阪労災病院	志岐 保彦
270063	和泉市立総合医療センター	深山 雅人
270064	泉大津急性期メディカルセンター	山崎 則行
270067	市立貝塚病院	松谷 和奈
270071	生長会ベルランド総合病院	濱田 真一
270101	大阪国際がんセンター	北井 美穂
270111	関西医科大学総合医療センター	吉村 智雄
270130	箕面市立病院	足立 和繁
270131	関西電力病院	寺川 耕市
270132	住友病院	西村 貞子
270133	石切生喜病院	田村 一富
270137	吹田徳洲会病院	北田 文則
280001	神戸大学	寺井 義人
280002	神戸市立医療センター中央市民病院	青木 卓哉
280006	西神戸医療センター産婦人科	佐本 崇